

第五節 施行法ノ規定ニ依ル株式會社ノ設立行爲

新商法ノ規定ニ依ルモ將タ又舊商法ノ規定ニ依ルモ合名會社及ヒ合資會社ノ設立行爲ハ甚々簡單ナリ即チ定款ノ作成又ハ會社契約書ノ作成ニ因リテ設立セラ
ル故ニ新商法ノ施行前ニ設立行爲ニ着手シ新商法ノ施行後ニ設立行爲ヲ結了ス
ルカ如キハ殆ント絶無ナリ之ニ反シテ株式會社ノ設立行爲ハ甚々複雑ナルヲ以
テ新商法ノ施行前ニ設立行爲ニ着手シ新商法施行ノ際未タ結了セサルモノ尠シ
トセス此ノ如キ場合ニ於テハ其設立行爲ニ施行法ノ規定ヲ適用セサルヘカラス
是レ我輩カ特ニ施行法ノ規定ニ依ル株式會社ノ設立行爲ナル一節ヲ設ケテ之ヲ
説明スル所以ナリ

舊商法ノ規定ニ依レハ假定款及ヒ目論見書ヲ作ルコト即チ發起ヲ爲スコトカ株
式會社設立ノ着手ナリ創業總會カ假定款ヲ承認シテ定款ヲ確定スルコトカ設立
行爲ノ最終ナルコト既ニ前節ニ於テ述ヘタルカ如シ故ニ新商法ノ施行前ニ假定
款及ヒ目論見書ヲ作ラサルモノニ付テハ未タ設立ニ着手セサルモノナルヲ以テ
本節ニ説明スルノ必要ナク又新商法ノ施行前ニ創業總會ニ於テ假定款ヲ承認シ

定款ヲ確定シタルモノニ付テハ既ニ設立行爲ヲ終ハリタルモノナルヲ以テ是レ
亦本節ニ説明スルノ必要ナシ結局本節ニ於テ説明ヲ要スルモノハ新商法ノ施行
前ニ假定款及ヒ目論見書ヲ作りタルモノ新商法施行ノ際未タ創業總會ニ於テ假定
款ヲ承認シ定款ヲ確定セサルモノ是レナリ

新商法ノ施行前ニ假定款及ヒ目論見書ヲ作り新商法施行ノ際未タ創業總會ニ於
テ假定款ヲ承認シ定款ヲ確定セサルモノハ新商法施行ノ際既ニ株主ノ募集ニ着
手シタルト未タ株主ノ募集ニ着手セサルトニ因リテ之ヲ二種ニ大別スルコトヲ
得ヘシ即チ

第一 新商法ノ施行前未タ株主ノ募集ニ着手セサルモノ

第二 新商法ノ施行前既ニ株主ノ募集ニ着手シタルモノ

是レナリ我輩ハ左ニ款ヲ分チテ之ヲ説明スヘシ

第一款 新商法ノ施行前未タ株主ノ募集ニ着手セサル

株式會社ノ設立行爲

新商法ノ施行前ニ假定款及ヒ目論見書ヲ作り即チ發起ヲ爲シタルモノ其發起人カ

第二屆會社 第四章會社ノ設立 第五節施行法ノ規定ニ依ル株式會社ノ設立行爲 三四七
第一款新商法ノ施行前未タ株主ノ募集ニ着手セサル株式會社ノ設立行爲

未タ株主ノ募集ニ着手セサルトキハ新商法施行ノ日ヨリ之ニ新商法ノ規定ヲ適用スルモノトス故ニ新商法施行ノ後更ニ新商法ノ規定ニ從ヒテ設立行爲ヲ爲スコトヲ要シ新商法ノ施行前ニ舊商法ノ規定ニ從ヒテ爲シタル設立行爲ハ新商法ノ規定ニ從ヒテ爲スヘキ設立行爲ニ代ハルノ効力ヲ有セサルモノトス其結果新商法ノ施行前ニ舊商法ノ規定ニ從ヒテ爲シタル設立行爲ハ新商法ノ施行ト共ニ自ラ其効力ヲ失フニ至ルヘシ(施行法第四十四條)

既ニ新商法ノ施行前ニ舊商法ノ規定ニ從ヒテ爲シタル設立行爲ハ新商法ノ施行ト共ニ其効力ヲ失フモノトセハ新商法ノ施行前ニ出願シタル發起ノ認可ニ付キ新商法ノ施行後ニ發起ノ認可ヲ與フルノ必要ナキハ勿論假令新商法ノ施行前ニ發起ノ認可ヲ與ヘタル場合ト雖モ其認可ハ何等ノ効力ヲ有スルモノニ非ス然レトモ之ニ對シテハ一ノ例外アリ即チ新商法ノ施行前ニ發起ノ認可ヲ得タル場合ニ於テハ其發起人ハ七人以上ナルコトヲ要セス從テ發起人ノ員數ニ付テハ新商法ノ規定ヲ適用セサルコト是レナリ(施行法第四十三條)

第二款 新商法ノ施行前既ニ株主ノ募集ニ着手シタル

株式會社ノ設立行爲

新商法ノ施行前ニ舊商法ノ規定ニ從ヒテ發起ヲ爲シ發起ノ認可ヲ得テ既ニ株主ノ募集ニ着手シタルトキハ其募集ヲ完了シタルト否トヲ問ハス新商法ノ施行後モ舊商法ノ規定ニ從ヒテ會社ノ設立ヲ爲スコトヲ得ルモノトス是レ施行法ノ規定スル所ナリ(施行法第四十五條)

施行法ハ既ニ舊商法ノ規定ニ從ヒテ會社ノ設立ヲ爲スコトヲ得ル旨ヲ明言セリ然ラハ他方ニ於テハ必ス新商法ノ規定ニ從ヒテ會社ノ設立ヲ爲スコトヲ得サルカノ問題ヲ生スヘシ此問題ニ付テハ二說アリ即チ舊商法ノ規定ニ從ヒテ會社ヲ設立スルコトヲ得ルト共ニ新商法ノ規定ニ從ヒテ會社ヲ設立スルコトヲ得ヘシトノ說及ヒ舊商法ノ規定ニ從ヒテノミ會社ヲ設立スルコトヲ得ヘク新商法ノ規定ニ從ヒテ會社ヲ設立スルコトヲ得ストノ說是レナリ

第一說ノ理由トスル所ハ二點アリ即チ

第一 施行法ニ舊商法ノ規定ニ從ヒテ會社ノ設立ヲ爲スコトヲ得トアル得ノ文字ハ營ニ「會社」ノ設立ヲ爲ス」トノ文字ニ接續スルノミナラス「舊商法」ノ規定

第二編 會社 第四章 會社ノ設立 第五節 施行法ノ規定ニ依ル株式會社ノ設立行爲
第二款 新商法ノ施行前既ニ株主ノ募集ニ着手シタル株式會社ノ設立行爲 三四九

ニ從ヒテナル文字ニモ接續ス故ニ舊商法ノ規定ニ從ハス新商法ノ規定ニ從
フコトアルハ施行法ノ豫期スル所ナリ

第二 必ス舊商法ノ規定ニ從フモノトセハ施行法第四十四條ノ文例ノ如ク舊
商法ノ規定ヲ適用スト明言スヘシ其然ラサルハ必スシモ舊商法ノ規定ニ從
フコトヲ要セサルヲ知ルニ足ル

之ニ反シテ第二說ノ理由トスル所ハ四點アリ

第一 舊商法ノ規定ニ從ヒテ會社ノ設立ヲ爲スコトヲ得トアルハ法律カ必ス
シモ會社ノ設立ヲ強キサルヲ示スニ止マル苟モ會社ヲ設立セントセハ舊商
法ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲サハルヘカラス

第二 舊商法ノ規定ニ從フハ唯タ會社ノ設立ニ付テノミナレハ一般ニ新商法
ノ規定ヲ適用スヘキ施行法第四十四條ト全一ノ文例ヲ採用スルコトヲ得サ
ルハ素ヨリ當然ナリ

第三 新商法ノ規定ニ從ヒテ會社ノ設立ヲ爲スコトヲ得ルモノトセハ施行法
第四十四條ニ於テ其發起人カ未タ株主ノ募集ニ着手セサルトキナル文字ヲ

存スルノ必要ナク即チ新商法ノ施行前ニ發起ノ認可ヲ得タル株式會社ニ付
テハ新商法ノ規定ヲ適用スルヲ以テ原則ト爲シ第四十五條以下ニ其例外ヲ
設クヘシ然ルニ施行法ノ規定ハ之ニ反セリ新商法ノ規定ニ從フト舊商法ノ
規定ニ從フトヲ選擇セシムルノ趣旨ニ非サルコト明瞭ナリ

第四 舊商法ノ規定ニ從ヒ又新商法ノ規定ニ從フコトヲ得ヘキモノトセハ何
人カ此選擇ヲ爲スヘキカ之ヲ決定スルニ苦マサルヲ得ス加之ナラス若シ新
商法ノ規定ニ從フヘキモノトセハ會社ノ設立行為ヲ中斷シ一ハ舊商法ノ規
定ニ從ヒ一ハ新商法ノ規定ニ從フカ如キ不都合アルヲ見ル

右兩說ハ何レモ其理由ナキニ非ス然レトモ我輩ハ第二說ヲ以テ正當ナリト認ム
但新商法ノ施行前舊商法ノ規定ニ從ヒテ爲シタル設立行為ヲ無効ト爲シ新商法
ノ施行後新商法ノ規定ニ從ヒテ新ニ設立行為ヲ爲スコトヲ得ヘキハ勿論ナリ
新商法ノ施行前ニ株主ノ募集ニ着手シタル株式會社ヲ設立スルニハ舊商法ノ規
定ニ從フヘキモノトセハ如何ナル點ニ付テモ舊商法ノ規定ヲ適用スヘキヤ否ヤ
蓋シ舊商法ノ規定ノ不完全ナルコトヲ認メ新商法ヲ制定スル以上ハ絶對的ニ舊

商法ノ規定ヲ適用スルコトヲ得サルハ勿論ニシテ多少新商法ノ規定ヲ適用シ以テ新舊兩商法ノ規定ヲ調和スルコトヲ要ス此目的ノ爲メニ設ケラレタル規定三種アリ一ハ定款ノ作成ニ關スルモノ一ハ株式ノ申込ニ關スルモノ一ハ創業總會ノ決議ニ關スルモノ是ナリ左ニ項ヲ分チテ之ヲ説明スヘシ

第一項 定款ノ作成

舊商法ノ規定ニ依レハ發起人カ假定款ヲ作り創業總會ノ承認ヲ經テ定款ヲ確定スヘキモノニシテ發起人自ラ假定款ヲ作ルヘキモノニ非ス之ニ反シテ新商法ノ規定ニ依レハ發起人カ定款ヲ作ルヘキモノニシテ創立總會ノ承認ヲ要セス故ニ新商法ノ施行前ニ假定款ヲ作り株主ノ募集ニ着手シタル爲メ舊商法ノ規定ニ從ヒテ設立スヘキ會社ニ付テモ亦新商法ノ規定ニ從ヒテ定款ヲ作ラシムルコトヲ要ス故ニ施行法ハ舊商法ノ規定ニ從ヒテ會社ノ設立ヲ爲スコトヲ得ル旨ヲ認ムルト共ニ新商法ノ規定ニ從ヒテ定款ヲ作ルコトヲ要スルモノト爲シタリ
既ニ新商法ノ規定ニ從ヒテ定款ヲ作ル以上ハ發起人ニ於テ之ヲ作り且新商法カ定款ニ記載スルコトヲ命シタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス(本章第二節第一款參

觀然ラハ一方ニ於テハ此定款ト既ニ株式ノ申込ヲ爲シタル者トノ關係如何ノ問題ヲ生シ他方ニ於テハ此定款ト既ニ作りアル假定款及ヒ目論見書トノ關係如何ノ問題ヲ生スヘシ

不幸ニシテ施行法中ニハ右ノ問題ヲ決定スルニ足ルヘキ條項ヲ存セサルヲ以テ實際上爭議ヲ生スルヲ免カレス故ニ我輩ハ之ヲ決定スルニ足ルヘキ明文ヲ設ケラレンコトヲ希望スルト共ニ更ニ一步ヲ進メ舊商法ノ規定ニ從ヒテ作りタル假定款ヲ以テ新商法ニ所謂定款ト全一ノ効力ヲ有セシメ其新商法ノ規定ニ適合セサル所ハ創業總會ヲシテ之ヲ變更セシムルノ正當ナルヲ信ス

第二項 株式ノ申込

舊商法ニ於テハ株式ノ申込ノ取消ニ關スル別段ノ規定ヲ存セサルカ故ニ株式申込人ハ發起人カ株式ノ總數ニ對スル引受行爲アリタル後一定ノ期間内ニ創業總會ヲ招集セサルコトヲ理由トシテ株式ノ申込ヲ取消スコトヲ得ス之ニ反シテ新商法ニ於テハ株式ノ申込ノ取消ニ關スル別段ノ規定ヲ設ケ發起人カ株式ノ總數ニ對スル引受行爲アリタル後一定ノ期間内ニ創立總會ヲ招集セサルコトヲ理由

トシテ株式引受人カ株式ノ申込ヲ取消スコトヲ許シタリ故ニ施行法ハ此二者ヲ調和スル爲メ新商法ノ施行前ニ株主ノ募集ニ着手シ從テ舊商法ノ規定ニ從ヒテ會社ノ設立ヲ爲スヘキ場合ニモ亦全一ノ事由ニ因リテ株式ノ申込ヲ取消スコトヲ許シタリ即チ

第一 新商法ノ施行前ニ株式ノ總數ニ對スル引受行爲アリタル場合ニ於テハ發起人ハ新商法施行ノ日ヨリ六ヶ月内ニ創業總會ヲ召集スルコトヲ要シ若シ之ヲ召集セサルトキハ株式申込人ニ於テ其株式ノ申込ヲ取消スコトヲ得ルモノトス

第二 新商法ノ施行後ニ株式ノ總數ニ對スル引受行爲アリタル場合ニ於テハ發起人ハ其株式ノ總數ニ對スル引受行爲アリタル日ヨリ六ヶ月内ニ創業總會ヲ召集スルコトヲ要シ若シ之ヲ召集セサルトキハ株式申込人ニ於テ其株式ノ申込ヲ取消スコトヲ得ルモノトス(以上施行法第四十九條)

第三項 創業總會ノ決議

舊商法ニ於テハ總株式ノ申込アリタル後發起人ハ創業總會ヲ召集スヘシト規定

スルニ止マリ其召集ヲ爲スヘキ期間ヲ定メス之ニ反シテ新商法ニ於テハ株式ノ總數ニ對スル引受行爲アリタル後遲滯ナク創立總會ヲ召集スルコトヲ發起人ニ命スルノミナラス其召集ヲ爲スヘキ期間ヲ定メ若シ其期間内ニ召集ヲ爲ササルトキハ株式引受人ヲシテ其株式ノ申込ヲ取消スコトヲ得セシメタリ故ニ施行法ハ此二者ヲ調和スル爲メ新商法ノ施行前ニ株主ノ募集ニ着手シ從テ舊商法ニ從ヒテ會社ノ設立ヲ爲スヘキ場合ニ付テモ亦發起人カ創業總會ヲ召集スヘキ期間ヲ定メタリ即チ

第一 新商法ノ施行前ニ株式ノ總數ニ對スル引受行爲アリタル場合 此場合ニ於テ發起人ハ新商法施行ノ日ヨリ六ヶ月内ニ創業總會ヲ召集スルコトヲ要シ若シ之ヲ召集セサルトキハ株式申込人ニ於テ其株式ノ申込ヲ取消スコトヲ得ルモノトス

第二 新商法ノ施行後ニ株式ノ總數ニ對スル引受行爲アリタル場合 此場合ニ於テ發起人ハ株式ノ總數ニ對スル引受行爲アリタル日ヨリ六ヶ月内ニ創業總會ヲ召集スルコトヲ要シ若シ之ヲ召集セサルトキハ株式申込人ニ於テ

第二編 會社 第四章 會社ノ設立 第五節 施行法ノ規定ニ依ル株式會社ノ設立行爲 三五五
第二款 新商法ノ施行前既ニ株主ノ募集ニ着手シタル株式會社ノ設立行爲

其株式ノ申込ヲ取消スコトヲ得ルモノトス(以上施行法第四十九條)
 又舊商法ノ規定ニ依レハ發起人ニ於テ假定款ヲ作ルカ故ニ創業總會ニ於テ之ヲ承認シ定款ヲ確定スルコトヲ要スト雖モ施行法ノ規定ニ依レハ發起人ニ於テ新商法ノ規定ニ從ヒ定款ヲ作ルヘキモノトス故ニ假令舊商法ノ規定ニ從ヒ創業總會ヲ招集スルモ其創業總會ニ於テ假定款ヲ承認シ定款ヲ確定スルコトヲ要セサルヘシ但此場合ニ於テ創業總會カ定款ノ變更ノ決議ヲ爲スコトヲ得ルヤ否ヤハ一ノ疑問ナリトス

又舊商法ノ規定ニ依レハ會社ノ負擔ニ歸スヘキ設立費用ノ額金錢以外ノ財産ヲ目的トスル出資ヲ爲シテ株式ヲ受クヘキ者ノ氏名其財産ノ種類價格及ヒ之ニ對シテ與フル株式ノ員數ヲ假定款ニ記載セサルカ故ニ創業總會ニ於テ發起人カ創業ノ爲メニ爲シタル契約及ヒ出費ノ認否ヲ議定シ又出資ノ目的タル有價物ノ價格ヲ議定スルコトヲ要スト雖モ施行法ノ規定ニ依レハ發起人ニ於テ新商法ノ規定ニ從ヒ定款ヲ作り此等ノ事項ヲ定メタルトキハ之ヲ定款ニ記載スヘキモノトス故ニ假令舊商法ノ規定ニ從ヒ創業總會ヲ招集スルモ舊商法第六十四條ノ規

定ヲ適用スルノ必要ナカレシ但此場合ニ於テ創業總會カ定款ニ記載スル所ノ事項ヲ變更スルコトヲ得ルヤ否ヤハ一ノ疑問ナリトス

又舊商法ニ於テハ創業總會ノ決議ヲ無効ト爲スノ手續ヲ定メス之ニ反シテ新商法ニ於テハ之ヲ無効ト爲スノ手續ヲ定メタリ故ニ施行法ハ舊商法ノ規定ニ依リ招集シタル創業總會ノ決議ヲ無効ト爲スノ手續ヲ定メ即チ創業總會ノ招集ノ手續又ハ決議ノ方法カ法律又ハ命令ノ規定ニ反スルトキハ其決議ノ日(決議ノ日カ新商法ノ施行前ナルトキハ其施行ノ日)ヨリ一ヶ月内ニ株主又ハ株主ト爲ルヘキ者ヨリ決議無効ノ宣告ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得ヘク此裁判所ノ宣告ニ依リ始メテ其決議ヲ無効ト爲スヘキモノトセリ然レトモ此請求ハ何人ヲ相手方トスヘキカ又訴ヲ以テスヘキカハ施行法ノ規定セサル所ニシテ本章第二節第三款第七項第五ニ述ヘタルト全シク其一缺點ナリト謂フヘシ(施行法第四十八條)

第六節 新舊商法及ヒ施行法ノ規定ニ依ラサル會社ノ設立行爲

舊商法ノ施行前即チ明治二十六年六月三十日以前ニ在リテハ會社ニ關スル一般

ノ規定ナキヲ以テ會社ノ設立行爲ニ關スル規定モ亦之ヲ存セス故ニ會社ノ設立行爲トシテ一定ノ説明ヲ爲スコトヲ得ス唯タ其一班ヲ説明スルニ止ムヘシ

第一款 合名會社及ヒ合資會社ノ設立行爲

舊商法ノ施行前即チ明治二十六年六月三十日以前ニ在リテハ合名會社及ヒ合資會社ノ設立ニ關スル規定ナキヲ以テ合名會社又ハ合資會社ヲ設立スルニハ舊商法ノ規定ノ如ク會社契約ヲ取結ヒ會社契約書ヲ作ルコトヲ要セス又新商法ノ如ク定款ヲ作ルコトヲ要セサルモノト解セラル即チ會社ヲ設立セント欲スル旨ノ意思ヲ表示スルノミニ因リテ設立セラル、モノト解セラル

舊商法ノ施行ニ際シテハ其施行前ニ設立シタル合名會社及ヒ合資會社ニ命スルニ會社契約書ノ作成ヲ以テセス新商法ノ施行ニ際シテモ亦然リ故ニ舊商法ノ施行前ニ設立シタル合名會社及ヒ合資會社ニハ會社契約書及ヒ定款ナキモノアルヘシ(施行條例第十九條)

第二款 株式會社ノ設立行爲

舊商法ノ施行前即チ明治二十六年六月三十日以前ニ在リテハ株式會社ノ設立ニ

關スル一般ノ法令ナシ然レトモ數多ノ特別法令アリテ特定ノ株式會社又ハ或種類ノ株式會社ノ設立ニ關スル事項ヲ規定セリ其最モ多數ノ會社ニ適用セラレタルモノハ實ニ國立銀行條例及ヒ成規ニシテ百五十余ノ株式會社ハ實ニ此條例及ヒ成規ニ依リテ設立セラレ其他ノ株式會社ニシテ事實上此條例及ヒ成規ニ準シテ設立セラレタルモノモ亦尠シトセス故ニ我輩ハ全條例及ヒ成規ニ依リ舊商法ノ施行前ニ於ケル株式會社ノ設立行爲ノ一班ヲ説明スヘシ

國立銀行條例及ヒ成規ニ依レハ國立銀行ヲ創立スルニハ五人以上ノ發起人(但外國人ハ發起人タルコトヲ得ス)ヨリ創立ノ許可ヲ主務官廳大藏省紙幣寮ニ出願シ主務官廳カ創立ヲ許可スヘキモノト認ムルトキハ創立證書及ヒ定款ヲ差出スヘキコトヲ命ス發起人ニシテ此命令ヲ受ケタルトキハ自ラ株式ノ總數ヲ引受クル場合ノ外株主ヲ募集スヘキモノトス(但發起人ハ株式ノ總數ノ五分ノ一以上ヲ引受クルコトヲ要ス此株主ヲ募集スルニハ新聞紙其他ノ手續ニ依リ成規第九條ニ定メタル事項(殊ニ申込ヲ受クヘキ期日場所)ヲ公告シ其期日及ヒ場所ニ於テ發起人ハ株式ノ申込ヲ受ケ申込人ノ氏名其者ノ引受ケタル金額株式ノ金額ノ第一回

第二編 會社 第四章 會社ノ設立 第六節 新商法ノ規定ニ依ラサル會社ノ設立行爲 三五九
第一款 合名會社及ヒ合資會社ノ設立行爲 第二款 株式會社ノ設立行爲

ノ拂込ノ期日ヲ一定ノ帳簿ニ記載スルモノトス此ノ如クニシテ株主ト爲ルヘキ者カ一定シタルトキハ直チニ株主ト爲ルヘキ者ノ集會ヲ開キ取締役ヲ選任シ且成規ニ定メタル雛形ニ依リ創立證書創立ニ關シ政府ト銀行トノ約定ニ等シキモノ及ヒ定款社中ノ申合規則ヲ作り株主之ニ署名捺印スルモノトス(國立銀行條例第一條乃至第七條及ヒ全成規第一條乃至第十二條)

第七節 會社ノ設立ノ効力

會社ノ設立ハ如何ナル條件ヲ具備スルコトニ因リテ其効力ヲ生シ從テ會社ヲ成立セシムヘキカ蓋シ會社ハ社團法人ニシテ法人ニ關スル新民法第三十三條ノ規定ニ從ヒ法律ノ規定ニ依ルニ非サレハ成立スルコトヲ得サルモノナリ故ニ會社成立ノ條件ハ法律ノ規定ニ依リ自由ニ之ヲ定ムルコトヲ得ルト共ニ其規定ノ當否ハ立法上頗ル重要ノ問題ニ屬ス我輩ハ第一款ニ於テ設立行爲ト設立ノ効力トノ關係ヲ說明シ第二款ニ於テ設立ノ効力トノ關係ヲ說明シ第三款ニ於テ營業ノ許可ト設立ノ効力トノ關係ヲ說明シ第四款ニ於テ設立ノ登記ト設立ノ効力トノ關係ヲ說明スヘシ

第一款 設立行爲ト設立ノ効力トノ關係

設立行爲ハ會社ノ設立ノ効力ヲ生スル第一ノ要件タリ即チ設立行爲ナクンハ如何ナル場合ニ於テモ會社ヲ成立セシムルコトナシ

會社ヲ成立セシムルニハ(第一)其設立行爲カ法律ノ規定ニ準據スルコトヲ要シ(第二)其設立行爲カ結了シタルコトヲ要ス

會社ヲ成立セシムルニハ其設立行爲カ法律ノ規定ニ準據スルコトヲ要ストハ新商法第二編第二章乃至第五章ノ各章又一舊商法第一編第六章第一節乃至第三節ノ各節ノ規定ニ準據スルノ謂ナリ若シ之ニ準據セスシテ設立行爲ヲ爲スコトアルモ商法ニ所謂會社ヲ成立セシムルコトナシ但舊商法ノ施行前ニ在リテハ一般ニ準據スヘキ法律ナキヲ以テ法律ノ規定ニ準據スルコトヲ得サルハ勿論ナリ會社ヲ成立セシムルニハ其設立行爲ヲ結了シタルコトヲ要ス即チ

第一 新商法ノ規定ニ依ル場合

一、合名會社及ヒ合資會社ノ設立行爲ハ定款ヲ作成スルコトニ因リテ結了ス(新商法第四十九條及ヒ第二百五條)

二、株式會社ノ設立行爲ハ定款ヲ作成シ株式ノ總數ニ對スル引受行爲アルコトニ因リテ結了スルコトアリ定款ヲ作成シ株式ノ總數ニ對スル引受行爲アリ創立總會ヲ終結スルコトニ因リテ結了スルコトアリ主タル設立者ノミニテ會社ヲ設立スル場合ニハ前ノ二者ニ因リテ結了シ從タル設立者アル場合ニ於テハ後ノ三者ニ因リテ結了ス(新商法第二百二十三條及ヒ第三百二十九條)

三、株式合資會社ノ設立行爲ハ定款ヲ作成シ株式ノ總數ニ對スル引受行爲アリ創立總會ヲ終結スルコトニ因リテ結了ス(新商法第二百三十六條及ヒ

第三百二十九條)

第二 舊商法ノ規定ニ依ル場合

一、合名會社及ヒ合資會社ノ設立行爲ハ會社契約ヲ取結ヒ會社契約書ヲ作ルコトニ因リテ結了ス(舊商法第七十七條第一項及ヒ第三百三十七條)

二、株式會社ノ設立行爲ハ發起ヲ爲シ發起人ノ引受行爲ノ目的タラサル株式ニ對スル申込アリ創業總會ヲ終結スルコトニ因リテ結了ス(舊商法第百

六十六條)

第三 施行法ノ規定ニ依リ株式會社ヲ設立スル場合

一、新商法ノ施行前ニ未タ株主ノ募集ニ着手セサルモノハ新商法ノ規定ニ依ル即チ定款ヲ作り株式ノ總數ニ對スル引受行爲アルノミニテ設立行爲ヲ結了スルコトアリ此外ニ創立總會ヲ終結スルヲ俟テ設立行爲ヲ結了スルコトアリ(第一ノ二參觀)

二、新商法ノ施行前ニ既ニ株主ノ募集ニ着手シタルモノ、設立行爲ハ發起アリ發起人ノ引受行爲ノ目的タラサル株式ニ對スル申込アリ定款ノ作成アリ創業總會ヲ終結スルコトニ因リテ結了ス

以上ノ規定ニ依リテ設立行爲ヲ結了スルニ非ラサレハ會社成立スルコトナシ

第二款 設立ノ免許ト設立ノ効力トノ關係

會社設立ノ効力ヲ生セシメ會社ヲ成立セシムルニハ主務官廳ヨリ設立ノ免許ヲ受クルコトヲ要スルヤ否ヤ蓋シ廣ク各種ノ會社ニ付キ設立ノ免許ヲ受クルコトヲ要ストノ立法例ナク又此ノ如キ學說ヲ主張スル者ナシ唯タ或種類ノ會社又ハ

第二編會社 第四章 會社ノ設立 第七節 會社設立ノ効力 第二款 設立ノ免許ト設立ノ効力トノ關係

或事業ヲ目的トスル會社ニ限リ設立ノ免許ヲ受クルコトヲ要スト爲スモノアル
ノミ我輩ハ第一項ニ於テ我新舊商法ニ於ケル設立免許ノ制度ヲ説明シ第二項ニ
於テ設立免許ノ制度ノ利害得失ヲ論評スヘシ

第一項 新舊商法ニ於ケル設立免許ノ制度

(第一) 舊商法ニ於ケル設立免許ノ制度

舊商法ノ規定ニ依レハ株式會社ノ設立ハ政府ノ免許ヲ得ルコトヲ要スルモノト
爲シ此免許ヲ得ルニ非サレハ株式會社成立セサルモノト爲シタリ(舊商法第百五
十六條)是レロ氏草案ニ見サル所ニシテ法律取調委員會カ全草案ニ加ヘタル修正
ノ一ナリトス

(一) 設立ノ免許ヲ受クヘキ會社

舊商法ノ規定ニ依リテ設立スル株式會社ハ皆此設立ノ免許ヲ受クルコトヲ要ス
即チ目的タル事業ノ性質大小如何ヲ問ハス資本ノ多寡ヲ論セス凡ヘテ設立ノ免
許ヲ受クルコトヲ要ス故ニ舊商法ノ施行前ニ設立シタル株式會社ハ此設立ノ免
許ヲ受クルコトヲ要セサルト共ニ新商法ノ施行後ニ設立シタル株式會社ト雖モ

舊商法ノ規定ニ依ルモノハ皆設立ノ免許ヲ受クルコトヲ要スルモノトス(施行條
例第十條)

(二) 設立ノ免許ヲ與フヘキ官廳

設立ノ免許ヲ與フヘキ官廳ハ主務省是レナリ(舊商法第百六十六條)此主務省ノ何
タルヤニ付テハ法令ノ明文ヲ以テ之ヲ指示スルコトナシト雖モ實例ニ依レハ會
社ノ目的タル事業ヲ管轄スル省ヲ以テ主務省ト爲スカ如シ

(三) 設立ノ免許ヲ受クヘキ時期

設立ノ免許ハ設立行爲ヲ終ハリタル後即チ創業總會ヲ終結シタル後發起人カ其
事務ヲ取締役ニ引渡スノ前ニ之ヲ受クヘキモノトス但之ヲ受クヘキ期間ニ付テ
ハ何等ノ規定ナシ(舊商法第百六十六條及ヒ第百六十七條)

(四) 設立ノ免許ヲ受クル手續

株式會社ノ創業總會ヲ終結シタルトキハ發起人ハ書面ヲ以テ地方長官ヲ經由シ
テ主務省ニ會社設立ノ免許ヲ申請スルコトヲ要シ其申請書ニハ左ノ書類ヲ添附
スルコトヲ要ス(舊商法第百六十六條)

第二編會社 第四章會社ノ設立 第七節會社ノ設立ノ効力 第二款設立ノ
免許ト設立ノ効力トノ關係

一 目論見書

二 定款

三 株式申込簿株式申込ノ陳述書ヲ包含スルコト勿論ナルヘシ

四 發起ノ認可證

右ノ書類ハ何レモ原本ヲ以テスルコトヲ要セス公證人ノ認證ヲ受ケタル謄本ヲ以テスルコトヲ得ヘシ(施行條例第三條)

主務官廳カ設立ノ免許ヲ與フヘキモノト認メタルトキハ書面ヲ以テ免許ヲ與フヘク之ニ反シテ設立ノ免許ヲ與フヘカラスト認メタルトキハ免許ノ申請ヲ却下スヘシ此免許ヲ與フルト申請ヲ却下スルトヲ判斷スルニハ一ニ主務省ノ認定ニ依ルヘキモノニシテ素ヨリ準據スヘキ一定ノ法規アルコトナク又申請ヲ却下セラル、モ不服ヲ申立ツルノ途ナシ

(五) 設立ノ免許ノ効力

設立ノ免許ヲ得タルトキハ之ニ因リテ會社成立スルモノトス是レ舊商法第五百十六條ノ規定ヨリ生スル結果ナリ

(六) 設立ノ免許ノ失效

會社カ設立ノ免許ヲ受ケタルヨリ一ケ年内ニ設立ノ登記ヲ爲サ、ルトキハ設立ノ免許ハ其效力ヲ失フモノトス(舊商法第七十條前段)然レトモ主務省ハ其與ヘタル設立ノ免許ヲ取消スコトヲ得ルヤ否ヤニ付テハ舊商法中何等ノ規定ヲ存セス蓋シ設立ノ免許ノ取消ヲ以テ株式會社解散ノ一事由ト爲サ、ルヨリ之ヲ觀レハ設立ノ免許ヲ取消スコトヲ許サ、ルモノナラン

(第二) 新商法ニ於ケル設立免許ノ制度

新商法ニ於テハ株式會社タルト又株式合資會社タルト將タ又其他ノ會社タルトヲ問ハス設立ノ免許ヲ受クルコトヲ要セサルモノト爲シ苟クモ法律ノ規定ニ準據スル以上ハ自由ニ會社ヲ設立スルコトヲ得ルモノト爲シタリ

第二項 設立免許ノ制度ノ利害得失

會社殊ニ株式會社及ヒ株式合資會社ニ付キ設立免許ノ制度ヲ採用スヘキヤ否ヤハ立法上最モ議論ノ存スル所ナリ我輩ハ先ツ理論上ヨリ之ヲ觀察シ次ニ法制沿革上ヨリ觀察スヘシ

第二編會社 第四章會社ノ設立 第七節會社ノ設立ノ効力 第二款設立ノ免許ト設立ノ効力トノ關係

抑モ各國立法例上會社ノ設立ニ關シ免許ヲ要スルモノト爲ス所以ハ概テ次ノ四個ノ理由ヨリ來ル即チ(第一)其會社ヲシテ或事業ヲ獨占セシメ他ノ者ヲシテ之ヲ行フコトヲ得サシムルカ爲メ(第二)會社ノ法人タルカ爲メ(第三)會社ノ社員又ハ株主ノ責任有限ナルカ爲メ(第四)設立ニ際シテ行ハレ易キ詐欺ヲ防遏センカ爲メ是レナリ

第一ノ理由ニ因リ會社殊ニ株式會社ノ設立ニ免許ヲ要スト爲スハ會社發達ノ初期ニ於テ最モ多ク見ル所ナリト雖モ或種ノ會社ヲシテ或事業ヲ獨占セシムルノ非ナルハ今日殆ント疑ヲ容レス從テ此理由ニ因リ會社ノ設立ニ免許ヲ要ストスルコトヲ得サルモ亦論ヲ俟タサル所ナリ

又第二ノ理由ニ因リ會社ノ設立ニ免許ヲ要スト爲スハ法理上多少其根據ナキニアラス蓋シ法人ハ自然的ニ存在シ法律ハ唯々之ヲ認定スルニ過キスト爲ス學說ナキニ非スト雖モ多數ノ學說及ヒ立法例ハ之ヲ以テ法律ノ擬制ニ成ルモノトシ即チ法律ノ規定ヲ俟テ始メテ存在スルモノト爲ス既ニ法律ノ規定ヲ俟テ始メテ存在スルモノトスル以上ハ之ヲ設立スルニ當タリ國家ノ免許ヲ要ストスルモノ

アルコト亦怪ムニ足ラス然レトモ之カ爲メ必ス免許ヲ要スルモノト謂フコトヲ得ス即チ法人ヲ設立スルニ當タリテ一々特ニ國家ノ免許ヲ受ケサルモ法律ノ規定ニ依準シテ之ヲ設立スル以上ハ尙ホ法人カ法律ノ擬制ニ成ルノ性質ヲ失ハサルコト勿論ナリ故ニ第二ノ理由モ亦會社ノ設立ニ關シ免許主義ヲ採ルノ理由ト爲スニ足ラサルナリ況ンヤ會社ノ法人タルカ爲メ之ヲ設立スルニ免許ヲ受クルコトヲ要スト爲サハ株式會社タルト否トヲ問ハス免許ヲ必要トスヘキニ我舊商法ノ如キハ株式會社ニ限リテ免許ヲ要スルモノト爲シ其他ノ會社ニ付テハ免許ヲ要セサルモノト爲スニ於テヲヤ

第三ノ理由即チ會社ノ社員又ハ株主ノ責任カ有限ナル爲メ免許ヲ要スト爲スハ能ク株式會社ト其他ノ會社トノ間ニ規定ヲ異ニスル舊商法ノ制度ヲ説明スルニ足ル即チ株式會社ノ株主カ其會社ノ債務ニ對スル責任ハ有限即チ其引受又ハ讓受ケタル株式ノ金額ヲ限度トスナルモ其他ノ會社ノ社員社員ノ全部又ハ一部ノ責任ハ無限ナルヲ通例トス而シテ會社ニ無限責任社員アルトキハ其會社ノ興廢ハ直チニ社員ノ利害ニ重大ナル影響ヲ及ホスヲ以テ自ラ業務執行ニ注意シ會社

第二編會社 第四章會社ノ設立 第七節會社ノ設立ノ効力 第二款設立ノ効力トノ關係

ヲシテ非常ノ危険ヲ冒サレシムルニ至ルハ人情ノ然ラシムル所ナリ之ニ反シテ社員又ハ株主ノ責任悉ク有限ナルトキハ假令會社ガ破産ノ不幸ニ際會スルモ社員ハ其出資ヲ失フニ止マリ自ラ會社ノ債務ヲ辨濟スルコトヲ要セサルヲ以テ較モスレハ業務執行ニ注意ヲ加ヘス冒險的事業ヲ行ヒ會社ノ興廢ヲ一舉ニ決スルカ如キ恐レアリ故ニ有限責任社員又ハ株主ノミヲ以テ組織スル會社ニ付テハ國家ハ十分監督ヲ加ヘ之ヲ設立スルニモ免許ヲ要スト爲スノ必要アリト此說タルヤ一應其理由アルカ如シト雖モ法理上其論據ニ誤謬アルコト蔽フヘカラス即チ會社ヲ以テ法人ト爲サレトキハ會社ノ債務ハ社員又ハ株主カ共同シテ負擔スル債務ナリ從テ之ヲ辨濟スルノ責ニ任スヘキハ勿論ナリ若シ此場合ニ會社財產ヲ以テ辨濟スルニ足ラサル會社ノ債務ヲ辨濟スルノ責任ナシトセハ是レ一ノ例外的制度ニシテ之ヲ設クルニハ必ス特殊ノ理由ナカルヘカラス然ルニ會社ヲ以テ法人ト爲シタルトキハ會社ト社員又ハ株主トハ法律上別個ノ權利義務ノ主體ナリ從テ會社ノ債務ハ決シテ社員又ハ株主ノ債務ニ非ス社員又ハ株主ハ唯々會社ニ對シテ一定ノ出資ヲ爲シ利益ヲ配當ヲ受ケ解散ノ際殘餘財產ノ分

配ヲ受クル等ノ點ニ於テ財產上ノ法律關係ヲ有スルノミ故ニ社員又ハ株主ハ會社財產ヲ以テ會社ノ債務ヲ辨濟スルニ足ラサルトキト雖モ其債務ヲ辨濟スルノ責ニ任スヘキ所以ナク若シ之ヲシテ會社ノ債務ヲ辨濟スルノ責ニ任セシメントセハ是レ即チ他人ノ債務ニ付キ責任ヲ負ハシムル例外的制度ニシテ之ヲ設クルニハ必ス特殊ノ理由ナカルヘカラス此ノ如ク法人タル會社ノ社員又ハ株主カ無限責任ヲ負ハサルヲ以テ法理上ノ原則ナリトセハ有限責任社員又ハ株主ノミヲ以テ組織セル會社ニ限り之ヲ設立スルニ免許ヲ要スト說クコトヲ得テ却テ推論ノ方法ヲ顛倒シ會社ヲ設立スルニハ免許ヲ要スルヲ以テ原則ト爲シ社員中無限責任ヲ負フモノアル場合ニ限り例外トシテ免許ヲ要セサルモノト謂ハサルヘカラス

更ニ實際上ヨリ之ヲ觀察スルモ無限責任社員ノ有無ニ依リ會社ノ安危ノ程度ヲ測定シ監督ヲ加フルノ必要不必要ヲ決定シ設立ニ免許ヲ要スルト否トノ標準ト爲スコトヲ得サルモノアリ蓋シ無限責任社員アリト雖モ其社員ニシテ資産ヲ有セス徳義心ニ乏シキモノナルトキハ在ルノ無キニ如カサルコトアルヘク又無限

責任社員ナシト雖モ社員又ハ株主ニシテ德義心ニ富ミ着實ニ事業ヲ行フカ如キ場合ニ於テハ其會社ノ安全ナルコト却テ無限責任社員ヲ有スル會社ニ超ユルモノアルヘク結局無限責任社員ノ有無ハ設立免許ノ必要不必要ヲ決スルニ足ラス況ンヤ此等ノ弊害ハ多クハ設立以後ニ生スルモノニシテ設立ニ免許ヲ與フル一事ノミニ依リテ之ヲ防遏スルニ足ラサルニ於テオヤ

第四ノ理由即チ株式會社ノ設立ニ際シテハ詐欺行ハレ易キカ故ニ之ヲ防遏スル爲メ設立免許ヲ必要トストノ説モ亦多少其理由ナキニ非スト雖モ更ニ裏面ヨリ之ヲ觀察スルトキハ疑ヲ容ル、ノ餘地ナキ能ハス即チ設立ニ免許ヲ要スルノ一事ハ果シテ能ク設立ニ際シテ行ハル、詐欺ヲ防遏スルニ足ルヤ否ヤ若シ之ヲ防遏スルニ足ラストスレハ設立免許ノ制度ヲ設クルノ目的美ナリト雖モ實際上何等ノ效ナキヲ以テ之ヲ存スルノ理由ナカルヘシ而シテ我輩ハ不幸ニシテ未タ實際上設立免許ノ制度カ設立ニ際シ行ハル、詐欺ヲ防遏スル效果アルコトヲ發見スル能ハサルナリ殊ニ設立免許ノ制度ヲ設クルトキハ第三者ハ信ヲ設立免許ニ措キ却テ事ノ真相ヲ究メサルノ恐アリ極端ニ之ヲ評セハ設立免許ハ詐欺ヲ行フ

者ヲシテ容易ニ其目的ヲ達セシムルノ手段ヲ與フルコトアリ
唯タ或種ノ事業ヲ行フ會社ニ付テハ國家ハ之ニ對シテ行政上ノ監督ヲ加フルコトヲ要スル特殊ノ理由アリ此等ノ會社ニ付テハ設立免許ノ制度ヲ廢スルコトヲ得スト雖モ一般ノ會社ニ付テハ設立免許ノ制度ヲ廢スルノ正當ナルコト實ニ以
上述ヘタルカ如シ更ニ各國ノ法制沿革上ヨリ觀察スルモ英吉利佛蘭西獨逸白耳義匈牙利伊太利瑞西班牙葡萄牙等皆一時ハ株式會社ニ付キ設立免許ノ制度ヲ設ケタルモ其有害無益ナルヲ認メ次第ニ之ヲ廢止シ現今尙ホ之ヲ存スルハ澳太利荷蘭羅馬尼等ニ過キス而シテ澳太利ノ如キハ夙ニ之ヲ廢止スルノ議アリ荷蘭ノ如キモ亦設立ヲ許否スルニ當タリテハ其會社ノ目的カ善良ノ風俗ニ反セサルヤ定款ノ規定カ公ノ秩序ニ反セサルヤ等ヲ調査スルニ止メ羅馬尼ノ如キモ亦設立ノ許否ハ商事裁判所ニ於テ之ヲ決セシム未タ我舊商法ノ如ク調査ノ區域ヲ一定セシテ許否ヲ政府ニ一任スルモノナシ此法制沿革上ヨリ之ヲ觀察スルモ一般ノ潮流ニ伴ヒ設立免許ノ制度ヲ廢止スルコト正當ナリ
之ヲ要スルニ新商法カ舊商法ノ施行後ニ於ケル我國ノ實際ノ狀況ニ鑑ミ設立免

許ノ制度ヲ廢止シタルハ實ニ適當ノ措置ナリト謂フヘシ唯タ我輩カ遺憾ニ堪エサルハ施行法カ新商法ノ施行前株主ノ募集ニ着手シ新商法施行ノ際未タ設立ノ免許ヲ受ケサル株式會社モ亦設立ノ免許ヲ受クルコトヲ要スト爲シ新商法ノ施行後株主ノ募集ニ着手シタル株式會社ニ付テノミ新商法ノ規定ヲ適用スヘキモノト爲シタルコト是レナリ(施行法第四十四條第四十五條及ヒ明治三十二年六月六日農商務省ヨリ地方廳ニ對シテ發シタル注意書然レトモ既ニ新商法ニ於テ設立免許ヲ不要ナリト認メタル以上ハ新商法ノ施行前ニ株主ノ募集ニ着手シタルト否トニ依リ設立免許ノ要不要ヲ異ニスヘキ理由ナク施行法カ何故此ノ如キ規定ヲ設ケタルカハ我輩ノ解スル能ハサル所ナリ

第三款 營業ノ許可ト設立ノ效力トノ關係

會社ノ目的タル事業ニハ時トシテ官廳ヨリ營業ノ許可ヲ受クルコトヲ要スルモノアリ此營業ノ許可ト設立ノ效力トハ如何ナル關係ヲ有スルヤ即チ會社ノ設立ハ營業ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其效力ヲ生セサルヤ否ヤ
舊商法ニ於テハ法律命令ニ依リ官廳ノ許可ヲ受クヘキ營業ヲ爲サントスル會社

ハ其許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ設立スルコトヲ得サルモノト爲シタリ是レロ氏草案中ニ行政及ヒ警察ヲ以テ監督スヘキ事業ヲ目的トシテ設立セラル、商事會社ハ之ヲ設立スルノ際政府ノ許可ヲ受クルコトヲ要ストアリタルヨリ來リタルモノニシテ營業ノ許可ヲ以テ設立ノ效力ヲ生スル要件ト爲シタルモノト謂フヘシ(舊商法第六十八條第一項及ヒロ氏草案第六十九條)

新商法ニ於テハ右ノ規定ヲ削除シタリ然レトモ施行法ニ於テハ保險事業ハ政府ノ免許ヲ得ルニ非サレハ之ヲ設立スルコトヲ得サルモノト爲シ保險事業ヲ目的トスル株式會社ノ發起人カ營業ノ免許ヲ請フノ手續ヲ定メ又非訟事件手續法ニ於テハ株式會社及ヒ株式合資會社ノ事業ノ目的カ官廳ノ許可ヲ受クヘキモノナルトキハ其免許書(又ハ謄本)ヲ設立登記ノ申請書ニ添附スルコトヲ要スルモノト爲シタリ故ニ營業ノ許可ハ設立ノ效力ヲ生スル要件ナルコトヲ明言セサルモ其趣旨ナルコト殆ント疑ノ容レサルモノ、如シ施行法第九十五條第九十八條及ヒ非訟事件手續法第八十七條第二項第八號第九十六條第二項
抑モ營業ノ許可ヲ以テ設立ノ效力ヲ生スル要件ト爲ストキハ會社ノ成立前ニ營

業ノ許可ヲ受ケサルヘカラス即チ設立者ヨリ將來成立スヘキ會社ノ爲メニ營業ノ許可ヲ申請シ官廳モ亦將來成立スヘキ會社ノ爲メ設立者ニ對シテ營業ノ許可ヲ與ヘサルヘカラス然レトモ他方ヨリ之ヲ觀察スルニ法令ノ規定ニ依リ官廳ノ許可ヲ受クヘキ營業ヲ爲スニハ其許可ヲ得ルコトヲ要シ之ヲ得ルニ非サルハ其營業ヲ開始スルコトヲ得サルハ勿論ナリ從テ法令ノ規定ニ依リ官廳ノ許可ヲ要スル營業ヲ目的トスル會社ヲ自由ニ設立スルコトヲ得セシムルモ敢テ事ニ害ナキノミナラス株式會社及ヒ株式合資會社ニ限リテ會社ノ成立前ニ營業ノ許可ヲ受ケシムルノ必要ナシ新商法カ舊商法第六十八條第一項ノ規定ヲ削除シタルハ此趣旨ニ出テタルモノナルニモ拘ハラヌ施行法及ヒ非訟事件手續法中ニハ却テ舊商法ト全一ノ趣旨ヲ採用シタル形跡アルハ我輩ノ遺憾トスル所ナリ

第四款 設立ノ登記ト設立ノ効力トノ關係

會社ヲ設立スルニハ設立ノ登記ヲ爲スコトヲ要スルハ近世各國立法例ノ等シク認ムル所ナリト雖モ其設立ノ登記ト設立ノ効力トノ關係如何ニ付キ採用スル所ノ主義ハ必スシモ同一ニ非ス即チ或ハ設立ノ登記ヲ以テ設立ノ効力ヲ生スル要

件ト爲スモノアリ或ハ設立ノ登記ハ設立ノ効力ヲ以テ第三者ニ對抗スルノ要件ニ過キスト爲ス者アリ我新舊商法ニ於テハ後ノ主義ヲ採用シタルカ故ニ設立ノ登記ヲ爲スト否トハ設立ノ効力ノ發生ニ關係ナキモノトス(新商法第四十五條及ヒ舊商法第六十九條)

第八節 中間ノ手續

會社ノ設立ニシテ其効力ヲ生シ即チ會社カ成立シタルトキハ直チニ登記ヲ爲スコトヲ得ヘク會社ノ成立ト登記トノ間ニ何等ノ手續ヲ要セサルヲ以テ原則トス然レトモ此原則ニ對シテハ例外ナキ能ハス即チ

- 第一 新商法ノ規定ニ依リ主タル設立者ノミニテ設立シタル株式會社ニ在リテハ會社ノ成立ト登記トノ間ニ出資ノ拂込ヲ爲サシメ取締役及ヒ監査役ヲ選任シ且裁判上ノ調査處分ヲ受クルコトヲ要ス
- 第二 新商法ノ規定ニ依リ開業前ニ利息ヲ配當スヘキ會社ハ登記前ニ裁判上ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス
- 第三 舊商法ノ規定ニ從ヒテ設立シタル株式會社ハ會社ノ成立ト登記トノ間

第二編 會社 第四章 會社ノ設立 第七節 設立ノ効力 第四款 設立ノ登記ト設立ノ効力トノ關係 第八節 中間ノ手續

ニ出資ノ拂込ヲ爲サシメ尙ホ或場合ニ於テハ定款ヲ變更スルコトヲ要ス
第四 新商法ノ施行前ニ設立シ未タ登記ヲ爲サ、ル合名會社ハ其登記前ニ定
款ヲ作ルコトヲ要ス

此等ハ何レモ設立ノ效力ニ關係ナキヲ以テ我輩ハ中間ノ手續即チ設立ノ效力ヲ
生シタル後登記前ニ爲スヘキ手續トシテ本節ニ之ヲ説明スヘシ

第一款 新商法ノ規定ニ依ル出資ノ拂込

新商法ノ規定ニ依レハ合名會社及ヒ合資會社ヲ設立スル場合ニハ會社ノ成立前
ハ勿論設立ノ登記ヲ爲スノ前ニ出資ノ拂込ヲ爲スコトヲ要セス又株主ヲ募集シ
テ株式會社及ヒ株式合資會社ヲ設立スル場合ニハ株式ノ總數ニ對スル引受行爲
アリタル後創立總會ヲ招集スル前ニ各株式ニ付キ出資ノ拂込ヲ爲スコトヲ要シ
即チ會社ノ成立前ニ出資ノ拂込ヲ爲スコトヲ要ス之ニ反シテ株主ヲ募集セス主
タル設立者(即チ發起人)ノミニテ株式會社ヲ設立スル場合ニハ會社ノ成立シタル
後設立ノ登記ヲ爲ス前ニ出資ノ拂込ヲ爲スコトヲ要シ若シ之ヲ爲サ、ルトキハ
會社ノ成立ヲ妨ケサルモ設立ノ登記ヲ爲スコトヲ得ス從テ設立ノ效力ヲ以テ第

三者ニ對抗スルコトヲ得ス是レ新商法ノ施行後ニ主タル設立者ノミニテ設立ス
ル株式會社ニ付キ中間ノ手續トシテ出資ノ拂込ヲ説明スル所以ナリ

株式會社ノ主タル設立者カ株式ノ總數ヲ引受ケタルトキハ會社ハ之ニ因リテ成
立ス此場合ニ於テ主タル設立者ハ遲滞ナク各株式ニ付キ第一回ノ拂込ヲ爲スコ
トヲ要ス而シテ第一回ノ拂込ノ金額ハ株式ノ金額カ五十圓ニ滿タサル場合ニ於
テハ株式ノ金額ノ全額ナルコトヲ要スト雖モ其他ノ場合ニ於テハ必スシモ株式
ノ金額ノ全額ナルコトヲ要セス其四分ノ一以上ナルヲ以テ足ルモノトス新商法
第二百二十三條

第一回ノ拂込ハ會社ノ成立後ニ之ヲ爲スモノナルヲ以テ會社ニ對シテ之ヲ爲サ
、ルヘカラサルコト勿論ナリ故ニ會社ヲ代表シ其業務ヲ執行スヘキ取締役ヲ選
任シ會社ノ爲メニ其拂込ヲ受クヘキ者ノ定マリタル後ニ非サレハ此拂込ヲ爲ス
コトヲ得サルモノナルヘシ

發起人ニシテ若シ其引受ケタル株式ニ付キ第一回ノ拂込ヲ爲サ、ルトキハ取締
役ハ強制履行ヲ請求シ其拂込ヲ爲サシムルコトヲ得ヘシ然レトモ拂込ヲ爲サシ

第二編 會社 第四章 會社ノ設立 第八節 中間ノ手續 第一款 新商法ノ
規定ニ依ル出資ノ拂込

ナスシテ其權利ヲ失ハシムルニハ新商法第三百十條ノ規定ニ依ルヘキカ將タ又新商法第五百十二條及ヒ第五百十三條ノ規定ニ依ルヘキカ蓋シ會社ニシテ成立スル以上ハ株式モ亦成立シ從テ第一回ノ拂込ハ株金ノ拂込ナレハ第五百十二條及ヒ第五百十三條ノ規定ニ從ヒ處分スヘキコト勿論ナルヘシ

第二款 新商法ノ規定ニ依ル取締役及ヒ監査役ノ選任

新商法ノ規定ニ依リ主タル設立者(即チ發起人)ガ株式ノ總數ヲ引受クルコトニ因リテ成立シタル株式會社ノ設立者ハ會社ノ成立シタル後遲滯ナク取締役及ヒ監査役ヲ選任スルコトヲ要ス即チ其設立者ノ議決權ノ過半數ヲ以テ爲シタル決議ニ依リ之ヲ選任スルコトヲ要ス若シ此選任ヲ爲サ、ルトキハ第三款ニ述フヘキ裁判上ノ調査ヲ受クルコトヲ得ス從テ登記ヲ爲スコトヲ得ス是レ此取締役及ヒ監査役ノ選任ガ中間ノ手續タル所以ナリ(新商法第二百二十三條)

會社ニシテ既ニ成立スル以上ハ株主總會ヲシテ取締役及ヒ監査役ヲ選任セシムヘキモノ、如シト雖モ株主總會ヲ成立セシムルニハ適法ナル招集アルコトヲ要シ招集ナクシテハ株主總會成立セス而シテ株主總會ヲ招集スルコトヲ得ル者ハ取

締役、監査役及ヒ株主ノ三者ナリト雖モ此場合ニハ取締役又ハ監査役ナキノミナラス株主モ亦一應取締役ニ請求シタル上ニ非サレハ株主總會ヲ招集スルコトヲ得サルカ故ニ結局株主總會ヲ招集スヘキ者ナシ是レ總會ヲ開カス發起人ヲシテ取締役及ヒ監査役ヲ選任セシムル所以ナリ

發起人カ取締役及ヒ監査役ヲ選任スルニハ如何ナル方法ニ依リテ之ヲ決スヘキカ即チ總員ノ同意ヲ以テスヘキカ又人數ニ依ル過半數ヲ以テスヘキカ將タ又引受ケタル株式ノ員數ニ依ル過半數決ヲ以テスヘキカ新商法ハ此問題ヲ決定スル爲メ發起人ノ議決權ノ過半數決ニ依ルヘキモノト爲シタリト雖モ其所謂發起人ノ議決權ノ何タルヤニ付テハ他ニ之ヲ釋明シタルモノナシ蓋シ發起人カ株主タル資格ニ於テ株主總會ノ議決ニ加ハル權利即チ株主ノ議決權ヲ指スモノナルヘシト雖モ之ヲ指シテ發起人ノ議決權ト謂フニ至リテハ到底用語ノ失當タルヲ免レサルヘシ(新商法第二百二十三條及ヒ第六十二條)

第三款 新商法ノ規定ニ依ル裁判上ノ調査處分

第一項 裁判上ノ調査

第二編會社 第四章會社ノ設立 第八節中間ノ手續 第二款 新商法ノ規定ニ依ル取締役及ヒ監査役ノ選任 第三款 新商法ノ規定ニ依ル裁判上ノ調査處分

株式會社ノ主タル設立者カ株式ノ總數ヲ引受クルコトニ因リテ會社成立シタル
 場合ニ於テハ創立總會ヲ招集セサルヲ以テ創立總會又ハ其選任シタル者ヲシテ
 新商法第二百二十二條第三號乃至第五號ニ掲ケタル事項及ヒ第一回ノ拂込ナキ株
 式ノ有無ヲ調査セシムルコトヲ得ヌ又發起人ノ選任シタル取締役及ヒ監査役ア
 リト雖モ其者ハ即チ發起人ナルヲ以テ之ヲシテ此等ノ事項ヲ調査セシムルコト
 ヲ得ヌ故ニ裁判上此等ノ事項ヲ調査セシム
 然レトモ此等ノ事項ノ調査タルヤ特別ノ智識ヲ要シ法律ノ學理ニ通スルノミニ
 テハ未タ十分ニ之ヲ爲スコトヲ得サルモノアリ且裁判所ニハ數多ノ事務アリ此
 ノ如キ煩雜ナル事項ノ調査ニ當タラシムルハ事務ノ進捗ヲ害シ遂ニ調査ノ不精
 密ヲ來スノ虞アリ故ニ裁判所ヲシテ適任ノ者ヲ選任シ之ヲ検査役ト爲シ調査ノ
 事ニ當タラシム

(第一) 検査役ノ選任

(一) 選任ノ申請

裁判所ハ職權ヲ以テ検査役ヲ選任スルモノニ非ス取締役ノ請求アルヲ俟テ始メ

テ検査役ヲ選任スルモノトス此請求ハ之ヲ検査役選任ノ申請ト謂フ

取締役ノ選任アリタルトキハ其取締役ハ遲滯ナク裁判所ニ對シテ検査役ハ選任
 ヲ申請スルコトヲ要ス然レトモ此申請ヲ爲スコトヲ怠タリタルカ爲メ敢テ過料
 ニ處セラル、コトナシ(新商法第二百二十四條第一項)

検査役選任ノ申請ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要シ其申請書ニハ左ノ事項ヲ記
 載シ取締役之ニ署名捺印スヘキモノトス非訟事件手續法第二百二十七條

一、申請ノ事由

二、検査ノ目的

三、年月日

四、裁判所ノ表示

右ノ申請アリタルトキハ如何ナル手續ヲ爲スヘキカ左ニ之ヲ説明スヘシ

(二) 申請ニ對スル裁判

検査役選任ノ申請ヲ受ケ之ヲ裁判スヘキ裁判所ハ會社ノ本店所在地ノ地方裁判
 所是レナリ(非訟事件手續法第二百二十六條第一項)

第二編會社 第四章 會社ノ設立 第八節 中間ノ手續 第三款 新商法ノ規定ニ依ル
 裁判上ノ調査處分

裁判所カ検査役選任ノ申請ニ付キ裁判ヲ爲スニハ決定ヲ以テ之ヲ爲スヘキモノニシテ判決又ハ命令ヲ以テスヘキモノニ非ス而シテ決定ヲ以テ裁判ヲ爲スニ當タリテモ敢テ其理由ヲ附スルコトヲ要セス(非訟事件手續法第十七條)

裁判所カ申請ヲ理由ナシトスルトキハ決定ヲ以テ之ヲ却下スヘク此申請ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ申立人ヨリ抗告ヲ爲スコトヲ得ヘシ又裁判所カ申請ヲ理由アリトスルトキハ決定ヲ以テ其申請ヲ認許シ検査役ヲ選任スヘク此検査役ヲ選任スル裁判ニ對シテハ其裁判ニ因リ權利ヲ害セラレタリトスル者ヨリ抗告ヲ爲スコトヲ得ヘシ(非訟事件手續法第二十條)

裁判所カ検査役ヲ選任スルニ當タリテハ如何ナル者ヲ選任スヘキカ又如何ナル者ハ検査役ニ選任スルコトヲ得サルカ又検査役ニ選任セラレタル者ハ辭任ヲ爲スコトヲ得サルカ此等ノ問題ニ付テハ非訟事件手續法中何等ノ規定ナシ故ニ實際上ニ於テハ多少議論ヲ生スルコトアルヘシ

(第二) 検査役ノ調査

検査役ニシテ選任セラレタルトキハ其調査スヘキ事項即チ左ニ掲ケタル事項ヲ

調査スヘキモノトス(新商法第二百二十四條第一項)

- 一、各株式ニ付キ第一回ノ拂込アリタルヤ否ヤ
- 二、定款ニ左ノ事項ヲ記載シタルトキハ其事項ノ正當ナルヤ否ヤ
 - (イ) 發起人ノ受クヘキ特別ノ利益及ヒ之ヲ受クヘキ者ノ氏名
 - (ロ) 發起人カ受クヘキ報酬ノ額
 - (ハ) 會社ノ負擔ニ歸スヘキ設立費用ノ額
 - (ニ) 金錢以外ノ財産ヲ目的トスル出資ヲ爲シ株式ヲ受クヘキ者ノ氏名其出資ノ目的タル財産ノ種類價格及ヒ之ニ對シテ與フル株式ノ員數

發起人取締役、監査役ニシテ右ノ調査ヲ妨ケタルトキハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處セラレ、モノトス(新商法第二百六十二條第三號)

終リニ臨ミテ一言スヘキハ株式ノ總數ニ對スル引受行爲アリタルヤ否ヤハ何故検査役ノ調査事項ニ屬セサルカノ問題はレナリ各株式ニ付キ第一回ノ拂込アリタルヤ否ヤヲ調査スルニ當タリテハ必ス先ツ此問題ヲ調査スヘキカ故ニ之ヲ調査事項中ニ加ヘサルモノトセハ新商法第三百三十四條ノ場合ニ於テモ亦全一轍ニ

第二編 會社 第四章 會社ノ設立 第八節 中間ノ手續 第三款 新商法ノ規定ニ依ル裁判上ノ調査處分

出テサルヘカラス又主タル設立者ノミニテ會社ヲ設立スル場合ニ於テハ株式ノ總數ニ對スル引受行爲アリタルヤ否ヤハ簡單ノ問題ニシテ検査役ノ調査ヲ要セストセハ其他ノ事項ヲ以テ検査役ノ調査事項ト爲シタル所以ヲ解スルニ苦マスンハアラス蓋シ検査役ヲシテ調査ノ事ニ當タラシムルハ發起人取締役監査役等ノ調査ニ信用ヲ措キ難キカ爲メナリ既ニ其人ニ信用ヲ措キ難シトセハ調査事項ノ繁簡難易ニ拘ハラヌ信用ヲ措クコトヲ得サルヘシ然ルニ獨リ一事項ノミヲ除外シ検査役ノ調査事項ト爲サ、ルハ多少奇怪ノ感ヲ惹起スヲ免カレサルヘシ

(第三) 検査役ノ報告

検査役ニシテ調査ヲ終ハリタルトキハ書面ヲ以テ其調査ノ結果ヲ裁判所ニ報告スルコトヲ要シ裁判所カ此検査ニ付キ検査役ノ説明ヲ必要トスルトキハ之ヲ審訊スルコトヲ得ヘシ(非訟事件手續法第二百二十八條)

検査役カ裁判所ニ對シテ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキハ之ヲ過料ニ處スルコトヲ得ルヤ否ヤ新商法第二百六十二條ハ検査役ヲ列擧セサルヲ以テ之ニ同條第一號ノ規定ヲ適用スルコトヲ得サルハ勿論ナリト雖モ我輩ハ之ニ

同號ノ規定ヲ適用シ検査役ヲシテ正實ノ報告ヲ爲サシムルコトヲ期スルノ必要アリト信ス

第二項 裁判上ノ處分

検査役ノ爲シタル調査報告ノ結果トシテ裁判所カ第一回ノ拂込ナキ株式アルコトヲ發見スルコトアリ又新商法第二百二十二條第三號乃至第五號ニ掲ケタル事項ノ不當ナルコトヲ認ムルコトアリ此場合ニ於テ裁判所ハ如何ナル處分ヲ爲スコトヲ得ヘキカ前ノ場合ニ付テハ非訟事件手續法中何等ノ規定ナシト雖モ後ノ場合ニ付テハ非訟事件手續法中ニ別段ノ規定アリ即チ裁判所ハ發起人及ヒ取締役ノ陳述ヲ聽キタル上理由ヲ附シタル決定ヲ以テ其不當ト認メタル事項ヲ變更スルコトヲ得ヘク發起人及ヒ取締役ハ此裁判ニ對シテ即時抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツコトヲ得ヘシ新商法第二百二十四條第二項及ヒ非訟事件手續法第二百二十九條裁判所カ裁判ヲ以テ新商法第二百二十二條第三號乃至第五號ニ掲ケタル事項ヲ變更シタルトキハ總會ノ決議ヲ以テ定款ヲ變更シタルト全一ノ效力ヲ生スルコト勿論ナルヘシ

第二編 會社 第四章 會社ノ設立 第八節 中間ノ手續 第三款 新商法ノ規定ニ依ル裁判上ノ調査處分

裁判所カ金錢以外ノ財産ヲ目的トスル出資ヲ爲ス者ニ對シテ與フル株式ノ員數ヲ不當ト認メ之ヲ減少シタルトキハ其者ハ金錢以外ノ財産ニ代ニ金錢ヲ以テ拂込ヲ爲スコトヲ得ルヤ否ヤ新商法第百二十四條第二項ニ於テハ裁判所ハ第百三十五條ノ規定ニ準據シテ相當ノ處分ヲ爲スコトヲ得ト規定スルニ止マリ別ニ其處分ノ效果ニ付キ第百三十五條但書ノ規定ヲ準用スルコトノ明文ナシト雖モ其所謂準據ハ廣汎ノ意味ヲ有シ但書ノ規定ヲ準用スルコトヲモ包含スルモノト解スルコト穩當ナルヘシ

第四款 新商法ノ規定ニ依ル裁判上ノ認可

新商法ノ施行後ニ新商法ノ規定ニ從ヒテ設立スル株式會社及ヒ株式合資會社カ其目的タル事業ノ性質ニ依リ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル後二年以上開業ヲ爲スコト能ハサルモノト認ムルトキハ定款ヲ以テ開業ヲ爲スニ至ルマテ一定ノ利息ヲ配當スヘキコトヲ定ムルコトヲ得ヘシ此場合ニ於テハ設立ノ登記ヲ爲スノ前會社ノ本店所在地ノ地方裁判所ヨリ右定款ノ規定ニ付キ認可ヲ受クルコトヲ要ス(新商法第百九十八條及ヒ第二百三十六條)

右定款ノ認可ノ申請ハ總發起人又ハ總取締役ヨリ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ヘク其申請ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人又ハ代理人之ニ署名捺印スヘキモノトス(非訟事件手續法第八條第九條及ヒ第百三十三條第一項)

- 一、申請人ノ氏名住所
- 二、代理人ニ依リテ申請ヲ爲ストキハ其氏名住所
- 三、申請ノ趣旨
- 四、申請ノ原因タル事實
- 五、年月日
- 六、裁判所ノ表示

開業前ニ利息ノ配當ヲ爲スコトヲ要スル事由ハ認可ノ申請ヲ爲ス所ノ總發起人又ハ總取締役ヨリ之ヲ説明スヘキモノトス(非訟事件手續法第百三十三條第一項) 裁判所カ定款ノ認可ノ申請ニ付キ裁判ヲ爲スニハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ爲スヘク申請ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ申請人ヨリ抗告ヲ爲スコトヲ得ルモ申請ヲ認許シタル裁判ニ對シテハ何人ヨリモ不服ヲ申立ツルコトヲ得サルモ

第二編會社 第四章會社ノ設立 第八節中間ノ手續 第四款新商法ノ規定ニ依ル裁判上ノ認可

ノトス非訟事件手續法第二十條第三百二十二條及ヒ第三百三十三條第二項

第五款 舊商法ノ規定ニ依ル出資ノ拂込

舊商法ノ規定ニ依レハ株式會社ヲ設立スルニハ政府ノ免許ヲ受クルコトヲ要シ
設立ノ免許ヲ得タルトキハ之ニ因リテ會社成立スト雖モ直チニ設立ノ登記ヲ爲
スコトヲ得ルモノニ非ス其間ニハ尙ホ一個ノ設立事務アリ出資ノ拂込即チ是レ
ナリ

會社設立ノ免許ヲ得タルトキハ發起人ハ其事務ヲ取締役ニ引渡スヘキモノニシ
テ此引渡ヲ受ケタル取締役ハ速ニ株主ヲシテ各株式ニ付キ少クトモ四分ノ一ノ
金額ヲ會社ニ拂込マシムヘキモノトス(舊商法第六十七條)若シ各株式ニ付キ此
拂込ヲ爲サシメサランカ會社ハ設立ノ登記ヲ受クルコトヲ得サルヘク又一年內
ニ此拂込ヲ終ハリ設立ノ登記ヲ爲サ、ランカ一旦受ケタル設立ノ免許ヲシテ其
效力ヲ失ハシムルニ至ルヘシ是レ新商法ノ規定ニ依リ會社ノ成立後設立ノ登記
前ニ爲スヘキ拂込ト大ニ其趣ヲ異ニスル所ナリ
株主カ右ノ拂込ヲ爲サ、ルトキハ舊商法第二百十二條乃至第二百十五條ノ規定

ニ從ヒテ之ヲ處分スヘキヤ否ヤ是レ舊商法ノ解釋上爭議ノ存スル所ナルヲ以テ
施行法ハ新商法ノ施行後ニ舊商法ノ規定ニ從ヒテ會社ノ設立ヲ爲ス場合ニ付キ
新商法第三百十條ノ規定ヲ適用スヘキモノト爲シタリ故ニ施行法ノ施行後株主
カ右ノ拂込ヲ爲サ、ルトキハ取締役ハ一定ノ期間(但此期間ハ二週間ヲ下ルコト
ヲ得ス)內ニ其拂込ヲ爲スヘキ旨及ヒ此期間內ニ之ヲ爲サ、ルトキハ其權利ヲ失
フヘキ旨ヲ株主ニ通知スルコトヲ得ヘク取締役カ此通知ヲ爲シタルモ株主カ拂
込ヲ爲サ、ルトキハ當然其權利ヲ失ヒ從テ取締役ハ其者カ引受ケタル株式ニ付
キ更ニ株主ヲ募集スルコトヲ得ヘシ而シテ此等ノ處分ヲ爲スモ拂込ヲ爲サ、ル
株主ニ對シテ損害賠償ヲ請求スルノ妨ケト爲ラサルハ勿論ナリトス(施行法第四
十七條)

第六款 施行法ノ規定ニ依ル定款ノ變更

新商法ノ施行前ニ創業總會ニ於テ假定款ヲ承認シ定款ヲ確定シタルモ未タ設立
ノ登記ヲ爲サ、ル場合ニ於テハ舊商法ノ規定ニ從ヒ株式會社ノ設立行爲ヲ完結
シタルモノニシテ更ニ新商法ノ規定ニ從ヒ設立行爲ヲ爲スコトヲ要セサルハ勿

第二編 會社 第四章 會社ノ設立 第八節 中間ノ手續 第五款 舊商法ノ
規定ニ依ル出資ノ拂込 第六款 施行法ノ規定ニ依ル定款ノ變更

論新商法ノ施行前ニ確定シタル定款ハ新商法ノ施行後モ依然其效力ヲ有スヘシ然レトモ其定款カ新商法ノ規定ニ適合セサルニモ拘ハラヌ尙ホ設立ノ登記ヲ爲シタルトキハ新商法ノ施行前ニ設立ノ登記ヲ爲シタル株式会社ニ關スル規定ト其權衡ヲ失スルヲ免カレサルカ故ニ此場合ニハ設立ノ登記ヲ爲スノ前新商法ノ規定ニ從ヒテ其定款ヲ變更スヘキモノト爲シ以テ其定款ヲシテ新商法ノ規定ニ適合セシメンコトヲ期シタリ(施行法第四十六條)

右ノ規定ニ從ヒ定款ヲ變更スルニハ新商法ノ規定ニ從ヒ株主總會ヲ招集シ其決議ヲ以テスヘキヤ將タ又創業總會ノ決議ヲ以テスヘキヤ蓋シ創業總會ハ一回限リ招集スヘキモノニシテ既ニ之ヲ終結シタル以上ハ再ヒ之ヲ招集スヘキモノニ非ス故ニ株主總會ノ決議ヲ以テスルノ外ナカラシ

又右ノ規定ニ從ヒ定款ヲ變更スルニ當タリテハ如何ナル程度マテ之ニ變更ヲ加フヘキカ施行法ハ新商法ノ施行前ニ設立ノ登記ヲ爲シタル株式会社ニ付テハ變更ヲ加フヘキ程度ヲ指定シ新商法第二百一號乃至第七號ニ掲ケタル事項ヲ記載セサル場合ニ之ヲ補フヲ以テ足レリトシタルモ未タ登記ヲ爲サル株式

會社ニ付テハ何等ノ規定ヲ存セス我輩ハ其何故ナルカヲ解スルコト能ハズ(施行法第五十一條)

終リニ臨ミテ一言スヘキハ新商法ノ施行前ニ創業總會ニ於テ定款ヲ確定シタルモ未タ設立ノ登記ヲ爲サル場合ニハ定款ヲ變更シ新商法第九十六條第一項ノ規定ニ依リテ利息ヲ株主ニ配當スヘキコトヲ得ヘキヤ否ヤ新商法ノ施行前ニ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル場合ニ付テハ施行法第七十五條ノ規定アリ一點ノ疑義ナシト雖モ新商法ノ施行前ニ設立ノ登記ヲ爲サル場合ニ付テハ此ノ如キ規定ナキカ故ニ多少疑アリト謂フヘシ假令一步ヲ讓リ施行法第四十六條ニ所謂「新商法ノ規定ニ從ヒ」ナル語ハ新商法第九十六條第一項ノ規定ニ依リテ利息ヲ株主ニ配當スヘキ旨ヲ定ムルコトヲ許容スルモノトスルモ施行法第四十五條ニハ裁判上ノ認可ニ關スル新商法ノ規定ヲ適用スルノ餘地ヲ存セス結局施行法第四十五條ノ規定ニ依リテ設立スル株式會社ハ利息ヲ株主ニ配當スヘキコトヲ定ムルコトヲ得スト解セラル然レトモ是レ果シテ其當ヲ得タルモノナリヤ否ヤ我輩ハ其當ヲ得タルモノナリト信スルコト能ハス蓋シ施

行法ノ一缺點ナルヘシ

第七款 施行法ノ規定ニ依ル定款ノ作成

新商法ノ施行前ニ設立シタル合名會社ニシテ未タ設立ノ登記ヲ爲サ、ルモノハ新商法ノ施行後一ヶ月内ニ新商法ノ規定ニ從ヒテ定款ヲ作り且此定款ヲ作りタル後ニ登記ヲ爲スコトヲ要ス故ニ新商法ノ施行後一ヶ月内ニ登記ヲ爲スコトヲ得ル餘地ヲ存シ其前ニ新商法ノ規定ニ從ヒテ定款ヲ作ルコトヲ要スルモノトス
(施行法第二十四條)此定款ノ作成ニ關スル新商法ノ規定ハ既ニ本章第二節第一款ニ於テ説明シタル所ナルヲ以テ宜シク之ヲ參觀スヘシ

若シ右ノ規定ニ從ヒ定款ヲ作成セサルトキハ其結果如何此問題ニ付テハ多少ノ議論アルヘシ然レトモ我輩ハ一旦舊商法ノ規定ニ從ヒ成立シタル會社ヲ不成立ト爲シ又ハ之ヲ解散セシムルニハ別段ノ明文アルコトヲ要スヘク從テ右ノ定款ヲ作成セサル結果ハ設立ノ登記ヲ爲スコトヲ得サルニ止マルモノト信ス

第九節 新商法ノ規定ニ依ル會社ノ設立ノ登記

新商法ノ規定ニ依レハ設立ノ登記ニハ廣狹數義アリ第一義ニ於テハ會社ノ設立

(合併ニ因ラサル設立アリタル場合ニ新商法第五十一條第一項第七條第四百四十一條第一項第二百四十二條ノ規定ニ從ヒテ爲ス所ノ登記ヲ指シ第二義ニ於テハ第一義ニ於ケル設立ノ登記ノ外合併ニ因ル設立ノ場合ニ新商法第八十一條ノ規定ニ從ヒテ爲ス所ノ登記ヲモ包含シ第三義ニ於テハ第二義ニ於ケル設立ノ登記ノ外會社ノ種類ノ變更ノ場合ニ新商法第一百八條第二項第二百四十七條第二項及ヒ第二百五十四條ノ規定ニ從ヒテ爲ス所ノ登記ヲ包含ス然レトモ茲ニハ第一義ヲ採用シ合併ニ因ル設立ノ登記會社ノ種類ノ變更ニ因ル設立ノ登記ハ後章ニ於テ之ヲ説明スヘシ從テ本節中ニ所謂設立ノ登記ハ當然新商法第五十一條第一項第七條第四百四十一條第一項及ヒ第二百四十二條ノ規定ニ從ヒテ爲ス所ノ登記ノミヲ指スモノトス

抑モ會社ニシテ成立シタルトキハ一方ニ於テハ其會社ノ成立シタル旨ヲ公示スル爲メ登記ヲ爲シ他方ニ於テハ其成立シタル會社ニ關スル事項ヲ公示スル爲メ登記ヲ爲スコトヲ要ス然レトモ之カ爲メ二個ノ登記ヲ爲サシムルハ無用ノ煩雜ヲ加フルニ過キササルヲ以テ法律ハ會社成立ノ際會社ニ關スル一定ノ事項ヲ登記

第二編 會社 第四章 會社ノ設立 第八節 中間ノ手續 第七款 施行法ノ規定ニ依ル 三九五
定款ノ作成 第九節 新商法ノ規定ニ依ル會社ノ設立ノ登記

スルコトヲ命シ其事項ヲ登記シタルトキハ別ニ會社成立ノ旨ヲ登記スルヲ俟タ
ス當然會社ノ成立シタル旨ヲ公示シタルモノトセリ此目的ノ爲メ會社ニ關スル
事項ヲ登記スルコトヲ稱シテ設立ノ登記ト云フ

第一款 設立ノ登記ヲ爲スヘキ當事者

新商法第五十一條第一項第七條第四百十一條第一項及ヒ第二百四十二條ニ於
テハ『會社ハ……ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス』ト爲シタルカ故ニ設立ノ登記ヲ爲
スヘキ當事者ハ會社ニシテ會社ヲ代表スヘキ社員又ハ株式會社ノ取締役カ會社
ニ代ハリテ設立ノ登記ヲ爲スヘキモノトス若シ此設立ノ登記ヲ爲スコトヲ怠タ
リタルトキハ會社ノ業務執行社員又ハ株式會社ノ取締役ヲ五圓以上五百圓以下
ノ過料ニ處シ又設立ノ登記ヲ爲スニ當タリ官廳ニ對シテ不實ノ申立ヲ爲シ若シ
クハ事實ヲ隱蔽シタルトキハ會社ノ業務執行社員又ハ株式會社ノ取締役ヲ十圓
以上千圓以下ノ過料ニ處スルモノトス而シテ施行法ノ規定ニ依レハ新商法ノ施
行後ニ新商法ノ規定ニ從ヒ設立シタル會社ノミカ新商法ノ規定ニ從ヒ設立ノ登
記ヲ爲スヘキモノトス(新商法第二百六十一條第一號及ヒ第二百六十二條第一號)

以上ハ新商法ノ規定ニ從ヒ設立ノ登記ヲ爲スヘキ當事者ヲ説明シタルモノナリ
然ルニ非訟事件手續法ノ規定ニ依レハ大ニ之ト其趣ヲ異ニシ會社ヲ以テ設立ノ
登記ヲ爲スヘキ當事者ト認メタル形跡ナキノミナラス却テ社員取締役監査役等
ヲ以テ設立ノ登記ヲ爲スヘキ當事者ト爲シタリ即チ非訟事件手續法ノ規定ニ依
レハ

第一 合名會社ノ設立ノ登記ハ總社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス(非訟事件手續

法第七十九條第一項)

第二 合資會社ノ設立ノ登記ハ無限責任社員ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

(非訟事件手續法第七十九條第一項及ヒ第八十五條第一項)

第三 株式會社ノ設立ノ登記ハ總取締役及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲

ス(非訟事件手續法第八十七條第一項)

第四 株式合資會社ノ設立ノ登記ハ無限責任社員ノ全員及ヒ總監査役ノ申請

ニ因リテ之ヲ爲ス(非訟事件手續法第九十六條第一項)

此ノ如ク新商法ト非訟事件手續法ト相矛盾スルノ結果會社ノ業務ヲ執行セサル

第二編 會社 第四章 會社ノ設立 第九節 新商法ノ規定ニ依ル會社ノ設
立ノ登記 第一款 設立ノ登記ヲ爲スヘキ當事者

無限責任社員又ハ監査役カ設立ノ登記ヲ爲スコトヲ怠タリ又ハ登記ヲ爲スニ當
タリ不實ノ申立ヲ爲シ若シクハ事實ヲ隠蔽シタルトキハ之ヲ過料ニ處スヘキヤ
否ヤノ疑問ヲ生スルノミナラス非訟事件手續法ニ依リ登記ヲ申請スヘキ者ハ自
ラ本人トシテ登記ヲ申請スルモノナリヤ將タ又會社ヲ代表シテ登記ヲ申請スル
モノナリヤノ疑問ヲ生ス然レトモ此等ノ疑問ハ新商法又ハ非訟事件手續法中何
レカ其一方ヲ改正スルニ非サレハ到底之ヲ釋明スルコトヲ得サルヘシ

第二款 設立ノ登記ヲ爲スヘキ地

設立ノ登記ハ會社ノ營業所ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス即チ獨リ會社ノ
本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スノミナラス支店アルトキハ其支店ノ所在
地ニ於テモ亦設立ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス然レトモ必スシモ營業所ノ數ニ應ス
ルタケノ登記ヲ爲サ、ルヘカラサルモノニ非ス全一ノ登記所ノ管轄區域内ニ數
個ノ營業所アルトキノ如キハ唯タ一個ノ登記ヲ爲スノミヲ以テ足レリトス(新商
法第五十一條第一項第七條第一項第四百十一條第一項及ヒ第二百四十二條)
營業所カ我國外ニ在ルトキハ其地ニ於テ我國ノ法律ニ從ヒ設立ノ登記ヲ爲スコ

トヲ得サルハ勿論ナリ故ニ若シ我國内ニ營業所ヲ設ケサルカ如キコトアラハ全
ク設立ノ登記ヲ爲スコトヲ得サルヘシ

數個ノ地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スヘキトキハ何レノ地ヲ先ニシ何レノ地ヲ後ニ
スルモ妨ケナシ故ニ假令本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スノ前ト雖モ支店
ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スコトヲ得ヘシ但本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登
記ヲ爲シタル後支店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル場合ト本店ノ所在地
ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スノ前支店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル場合ト
ハ登記ノ效力ニ多少ノ差異アルコト勿論ナリ

第三款 設立ノ登記ヲ爲スヘキ時期

第一項 設立ノ登記ヲ爲スコトヲ得ヘキ始期

設立ノ登記ハ何時ヨリ之ヲ爲スコトヲ得ルヤ蓋シ設立ノ登記ハ一方ニ於テ會社
ノ成立シタル旨ヲ公示シ他方ニ於テハ其成立シタル會社ニ關スル事項ヲ公示ス
ルモノナルヲ以テ少クトモ設立ノ效力ヲ生シ即チ會社カ成立シタル後ニ非サレ
ハ之ヲ爲スコトヲ得サルハ勿論ナリ故ニ合名會社及ヒ合資會社ハ定款ヲ作リタ

第二編 會社 第四章 會社ノ設立 第九節 新商法ノ規定ニ依ル會社ノ設立ノ登記
第二款 設立ノ登記ヲ爲スヘキ地 第三款 設立ノ登記ヲ爲スヘキ時期

ル後ニ非サレハ設立ノ登記ヲ爲スコトヲ得サルヘク株式會社ハ主タル設立者カ株式ノ總數ヲ引受ケタル後又ハ創立總會ヲ終結シタル後ニ非サレハ設立ノ登記ヲ爲スコトヲ得サルヘク株式合資會社ハ創立總會ヲ終結シタル後ニ非サレハ設立ノ登記ヲ爲スコトヲ得サルヘシ

然ラハ設立ノ效力ヲ生シ會社カ成立シタル以上ハ直チニ設立ノ登記ヲ爲スコトヲ得ルヤ必スシモ然リト謂フコトヲ得ス即チ

一、株式會社ノ主タル設立者カ株式ノ總數ヲ引受ケタル場合ニ於テハ會社成立スルモ未タ取締役、監査役ノ選任及ヒ第一回ノ拂込アルニ非ス假令取締役監査役ノ選任及ヒ第一回ノ拂込アルモ其第一回ノ拂込ノ有無ハ裁判上ノ調査ヲ經ルニ非サレハ未タ確定セサルノミナラス新商法第百二十二條第三號乃至第五號ノ事項ノ當否モ亦裁判上ノ調査ヲ經ルニ非サレハ未タ確定スルモノニ非ス故ニ裁判上ノ調査終了前ハ之ヲ創立總會ノ終結前ト全一視シ設立ノ登記ヲ爲サシメサルヲ正當トス

二、株式會社及ヒ株式合資會社ノ定款ノ規定ニシテ裁判上ノ認可ヲ受クルコ

トヲ要スルモノハ認可ヲ得ルニ非サレハ其事項ノ登記ヲ爲スコトヲ得ス然レトモ此認可ノ有無ハ其他ノ事項ノ登記ヲ妨ケサルヲ以テ設立ノ登記ハ此認可ニ拘ハラズ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ

之ヲ要スルニ會社ニシテ成立シタルトキハ設立ノ登記ヲ爲スコトヲ得ルヲ以テ原則トス唯タ株式會社ノ主タル設立者カ株式ノ總數ヲ引受ケタル場合ニ限り裁判上ノ調査終了シタル後ニ非サレハ設立ノ登記ヲ爲スコトヲ得サルノ例外アルノミ(新商法第五十一條第一項第百七條第百四十一條第一項及ヒ第二百四十二條)

第二項 設立ノ登記ヲ爲スコトヲ要スル終期

設立ノ登記ハ何時之ヲ爲スモ差支ナキモノニ非ス之ヲ爲スコトヲ要スル一定ノ終期アリ若シ其終期マテニ登記ヲ爲スニ非サレハ過料ニ處セララル、モノトス設立ノ登記ハ設立ノ登記ヲ爲スコトヲ得ル始期ヨリ起算シテ二週間内ニ之ヲ爲スコトヲ要シ其本店ノ所在地タルト支店ノ所在地タルトヲ問ハス又交通ノ便不便ヲ區別セス故ニ設立ノ登記ヲ爲スコトヲ得ル始期ヨリ二週間内ニ設立ノ登記ヲ爲ササルトキハ過料ニ處セララル、ヲ免カレス(新商法第五十一條第一項第百七

第二編 會社 第四節 會社ノ設立 第九節 新商法ノ規定ニ依ル會社ノ設立ノ登記 第三款 設立ノ登記ヲ爲スヘキ時期

條第四百四十一條第一項及二百四十二條

當事者ハ右終期マテニ設立ノ登記ヲ申請スルヲ以テ足レリトスルヤ將タ又右終期マテニ登記官吏カ登記ヲ爲シ終ハルヘキ様十分ノ猶豫ヲ存シ豫メ登記ノ申請ヲ爲スコトヲ要スルヤ新商法ハ一定ノ期間内ニ登記ヲ爲スコトヲ要スル規定シタルカ故ニ前説ヲ採用シタルモノ、如シ然レトモ當事者ハ自ラ登記ヲ爲スモノニ非サルハ勿論登記官吏ニ對シテ登記ヲ爲スコトヲ強制スルノ權利ヲ有セス法律モ亦申請アリタル後一定ノ期間内ニ登記ヲ爲スヘキコトヲ命セス故ニ申請アリタル後登記ヲ終ハルマテノ間ニ於ケル時間ノ長短ハ一ニ登記官吏ノ意見ト事務ノ繁閑トニ依リテ定マリ當事者ハ之ヲ左右スルコトヲ得ス從テ之ニ關スル結果ヲ當事者ニ歸セシムルコトヲ得ス況ンヤ新商法ハ會社カ登記ヲ爲スコトヲ要スト規定シタルモ其所謂登記ヲ爲ストハ登記ノ申請ヲ爲スノ意ナルコト疑ヲ容レサルニ於テオヤ要スルニ我輩ハ前説ヲ以テ正當ナリト認ム

第三項 設立ノ登記ヲ爲スコトヲ得ヘキ終期

當事者ハ設立ノ登記ヲ爲スコトヲ要スル終期マテニ設立ノ登記ヲ爲スコトヲ要

スルモ若シ之ヲ爲サ、ルトキハ爾後設立ノ登記ヲ爲スコトヲ得サルヤ否ヤ即チ過料ノ制裁ヲ受クル以上ハ登記ヲ爲スコトヲ要スル終期ノ經過後ニ於テモ登記ヲ爲スコトヲ得ルヤ否ヤ蓋シ登記ヲ爲スコトハ當事者ノ權利ニシテ全時ニ義務ナリ故ニ登記ヲ爲スコトヲ要スル終期ノ經過ニ因リ其權利義務ヲ消滅セシムルニハ別段ノ規定アルコトヲ要ス然ルニ新商法中ニ此規定ヲ存セサルハ登記ヲ爲スコトヲ要スル終期ノ經過ニ拘ハラヌ何時ニテモ設立ノ登記ヲ爲スコトヲ得ルノ趣旨ナルコトヲ知ルニ足ル

第四款 登記スルコトヲ要スル事項

會社設立ノ際如何ナル事項ヲ登記スルコトヲ要スルカハ新商法カ明文ヲ以テ規定スル所ニシテ其規定以外ニ登記スルコトヲ要スル事項ナシ
設立ノ際登記スルコトヲ要スル事項ハ之ヲ二種ニ大別スルコトヲ得ヘシ一ハ如何ナル場合ニ於テモ登記スルコトヲ要スル事項ニシテ一ハ之ヲ定メタル場合ニ限リ登記スルコトヲ要スル事項是レナリ前者ハ之ヲ絕對的必要事項ト稱シ後者ハ之ヲ相對的必要事項ト稱ス

第二編 會社 第四章 會社ノ設立 第九節 新商法ノ規定ニ依ル會社ノ設立ノ登記 第四款 登記スルコトヲ要スル事項

(第一) 絶對的必要事項

新商法ノ規定ニ依レハ會社カ必ス登記スルコトヲ要スル事項即チ絶對的必要事項左ノ如シ

- 第一 會社ノ設立ノ年月日(新商法第五十一條第一項第三號第七條第四百一十條第一項第三號及ヒ第二百四十二條第一號)
- 第二 會社ノ目的(新商法第五十一條第一項第一號第五十條第一號第七條第四百一十條第一項第一號第百二十條第一號及ヒ第二百四十二條第一號)
- 第三 會社ノ商號(新商法第五十一條第一項第一號第五十條第一號第七條第四百一十條第一項第一號第百二十條第二號及ヒ第二百四十二條第一號)
- 第四 株式會社ニ在リテハ取締役ノ氏名住所(新商法百四十一條第一項第七號)
- 第五 株式會社及ヒ株式合資會社ニ在リテハ監査役ノ氏名住所(新商法第四百一十條第一項第七號及ヒ第二百四十二條第六號)
- 第六 會社ノ本店及ヒ支店(新商法第五十一條第一項第二號第七條第四百一十條第一項第二號及ヒ第二百四十二條第一號)

第七 合名會社合資會社及ヒ株式合資會社ニ在リテハ左ノ事項

- 一、 社員ノ氏名住所(新商法第五十一條第一項第一號第五十條第三號第七條及ヒ第二百四十二條第三號)
- 二、 社員ノ出資(但株式ノ金額ヲ除ク)ノ種類(新商法第五十一條第一項第五號第七條及ヒ第二百四十二條第四號)
- 三、 社員ノ出資中財産ヲ目的トスル出資(但株式ノ金額ヲ除ク)ノ價格(新商法第五十條第一項第五號第七條及ヒ第二百四十二條第四號)
- 四、 合資會社ニ在リテハ各社員ノ責任有限又ハ無限ナルコト(新商法第七條)

第八 株式會社及ヒ株式合資會社ニ在リテハ左ノ事項

- 一、 株式會社ニ在リテハ資本ノ總額(新商法第四百一十條第一項第一號及ヒ第二百二十條第三號)
- 二、 株式合資會社ニ在リテハ株金ノ總額(新商法第二百四十二條第二號)
- 三、 株式ノ金額(新商法第四百一十條第一項第一號第七號及ヒ第二百二十條第四號及ヒ

第二編 會社ノ設立ノ登記 第四章 會社ノ設立 第九節 新商法ノ規定ニ依ル會社ノ設立ノ登記 第四款 登記スルコトヲ要スル事項

第二百四十二條第一號

四、各株式ニ付キ拂込ミタル金額新商法第四百十一條第一項第五號及ヒ第二百四十二條第一號

第九 株式會社及ヒ株式合資會社ニ在リテハ會社カ公告ヲ爲ス方法新商法第四百十一條第一項第一號第百二十條第七號及ヒ第二百四十二條第一號

會社ハ以上ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス然レトモ支店ヲ以テ絶對的の必要事項中ニ加ヘタルハ支店ノ所在地ヲ以テ定款ニ記載スヘキ絶對的の必要事項ト爲シタルト全シク不當タルヲ免カレス(本章第二節第一款第四項第一參觀又合名會社及ヒ株式合資會社ノ社員ハ勞務又ハ信用ヲ以テ出資ト爲スコトヲ得ヘキ以上ハ財産ヲ目的トスル出資ヲ爲サ、ルコトアルヘシ然ルニ財産ヲ目的トスル出資ノ價格ヲ以テ絶對的の必要事項ト爲シタルハ是レ亦穩當ヲ缺クヲ免カレス

(第二) 相對的の必要事項

新商法ノ規定ニ依レハ會社カ之ヲ定メタル場合ニ限リテ登記スルコトヲ要スル事項即チ相對的の必要事項ハ左ノ如シ

第一 合名會社合資會社及ヒ株式合資會社ニ在リテ特ニ會社ヲ代表スヘキ無限責任社員ヲ定メタルトキハ其無限責任社員ノ氏名新商法第五十一條第一

項第六號第百七條及ヒ第二百四十二條第五號

第二 株式會社及ヒ株式合資會社ノ開業前ニ利息ヲ株主ニ配當スヘキコトヲ定メタルトキハ其利率新商法第四百十一條第一項第六號及ヒ第二百四十二

條第一號

第三 會社ノ存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其存立時期又ハ解散ノ事由新商法第五十一條第一項第四號第百七條第百四十一條第一項第四號及ヒ第二百四十二條第一號

第五款 設立ノ登記ノ手續

設立ノ登記ハ當事者自ラ之ヲ爲スモノニ非ス當事者ノ請求(申請)ニ因リテ裁判所(登記所)カ之ヲ爲スモノトス故ニ我輩ハ第一ニ申請ノ手續ヲ述ヘ第二ニ登記ノ手續ヲ述フヘシ

(第一) 申請

第二編會社 第四章會社ノ設立 第九節 新商法ノ規定ニ依ル會社ノ設立ノ登記 第五款 設立ノ登記ノ手續

設立ノ登記ヲ申請スルニハ書面ヲ以テ之ヲ爲シ且其書面ハ登記ノ申請書ニ關スル一般ノ要件ヲ具備スルコトヲ要ス(非訟事件手續法第四百九條)

第一 定款非訟事件手續法第七十九條第二項第八十六條第八十七條第二項第一號及ヒ第九十六條第二項

第二 合名會社合資會社及ヒ株式合資會社ノ社員中ニ未成年者又ハ妻アルトキハ其社員タルコトニ全意ヲ爲スヘキ者未成年者ニ對シテハ親權ヲ行フ父又ハ母若シクハ後見人妻ニ對シテハ夫ノ同意ヲ證スル書面(非訟事件手續法第七十九條第二項第八十六條及ヒ第九十六條第二項)

第三 株式會社及ヒ株式合資會社ニ在リテハ株主ニ關スル左ノ書類

- 一、株主名簿(非訟事件手續法第八十七條第二項第二號及ヒ第九十六條第二項)
- 二、株式會社ノ發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケタル場合ニ在リテハ各發起人ノ引受ケタル株式ノ員數ヲ記載シタル書面(非訟事件手續法第八十八條第二項)

七條第二項第三號及ヒ第九十六條第二項

三、株式會社ノ發起人カ株主ヲ募集シタル場合及ヒ株式合資會社ニ在リテハ各株主ノ株式申込證但發起人ノ引受ケタル株式ニ付テハ株式申込證ナキヲ以テ之ヲ添附スルコトヲ得サルハ勿論其株式ノ員數ハ株式申込證ニ記載シアルヲ以テ別ニ之ヲ記載シタル書面ヲ添附スルコトヲ要セス(非訟事件手續法第八十七條第二項第三號及ヒ第九十六條第二項)

第四 株式會社及ヒ株式合資會社ニ在リテハ調査報告ニ關スル左ノ書類

- 一、株式會社ノ發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケタル場合ニ在リテハ検査役ノ報告ニ關スル裁判(新商法第二百二十四條第二項)アリタルトキニ限リ其裁判ノ謄本但検査役カ新商法第二百二十四條第一項ノ規定ニ從ヒテ爲シタル調査報告書及ヒ其附屬書類ハ之ヲ添附スルコトヲ要スル旨ノ明文ナシ(非訟事件手續法第八十七條第二項第五號)

二、株式會社ノ發起人カ株主ヲ募集シタル場合ニ在リテハ取締役及ヒ監

第二編會社 第四章會社ノ設立 第九節新商法ノ規定ニ依ル會社ノ設立ノ登記 第五款 設立ノ登記ノ手續

查役又ハ之ニ代ハルヘキ検査役カ新商法第三百三十四條ノ規定ニ從ヒテ
爲シタル調査報告書及ヒ其附屬書類非訟事件手續法第八十七條第二
項第四號

三、株式合資會社ニ在リテハ監査役カ新商法第二百四十一條ノ規定ニ從
ヒテ爲シタル調査報告書及ヒ其附屬書類非訟事件手續法第九十六條
第二項及ヒ第八十七條第二項第四號

第五、株式會社及ヒ株式合資會社ノ事業ノ目的カ官廳ノ免許ヲ受クヘキモノ
ナルトキハ其免許書又ハ其認證アル膳本(非訟事件手續法第八十七條第二
項第八號及ヒ第九十六條第二項)

第六、株式會社及ヒ株式合資會社ノ定款中ニ開業前株主ニ利息ヲ配當スヘキ
コトヲ定メアル場合ニ在リテハ之ヲ認可シタル裁判ノ膳本(非訟事件手續法
第八十七條第二項第七號及ヒ第九十六條第二項)

第七、株式會社創立總會ヲ招集シタル場合ニ限ル及ヒ株式合資會社ニ在リテ
ハ創立總會ノ決議録非訟事件手續法第八十七條第二項第九號及ヒ第九

十六條第三號

第八、株式會社ノ發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケタル場合ニ在リテハ取締役及
ヒ監査役ノ選任ニ關スル書類(非訟事件手續法第八十七條第二項第六號)

設立登記ノ申請書ニハ以上ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス然レトモ株式會社及ヒ
株式合資會社ノ事業ノ目的カ官廳ノ免許ヲ受クヘキモノナルトキハ其免許書又
ハ認證アル膳本ヲ添附スルコトヲ要スト爲シタルハ我輩ノ解スル能ハサル所ア
リ『會社ノ事業ノ目的』アル語ハ商法施行法ハ勿論其他ノ法律中ニモ見サル所ニシ
テ其意義明瞭ナラサルノミナラス假令會社ノ目的タル事業ヲ指スモノトスルモ
營業ノ免許ハ開業ヲ爲スノ前ニ之ヲ受ケシムルヲ以テ足ル設立登記ノ前ニ之ヲ
受ケシムルノ必要ナシ又假リニ其必要アリトスルモ獨リ株式會社及ヒ株式合資
會社ニ限リ合名會社及ヒ合資會社ニ及ホサル所以ナシ何レニスルモ此點ニ關
スル非訟事件手續法ノ規定ハ到底其當ヲ失スルヲ免カレス元來新商法カ舊商法
第六十八條第一項ノ規定ヲ削除シタルハ其不都合ヲ改メントシタルモノナリ然
ルニ非訟事件手續法ハ此規定ヲ設ケ宛カモ舊商法ノ規定ヲ復活シタルト全一ノ

第二編會社 第四章會社ノ設立 第九節 新商法ノ規定ニ依ル會社ノ設
立ノ登記 第五款 設立ノ登記ノ手續

結果ヲ生セシメタルハ我輩カ最モ遺憾ニ堪エサル所ナリ

(第二) 登記

當事者ヨリ設立登記ノ申請アリタルトキハ裁判所登記所ハ會社ノ種類ニ應シ各其登記簿ニ登記スヘキモノトス

會社ノ合併ニ因ル設立ノ登記ヲ爲シ又ハ會社ノ種類ノ變更ニ因ル設立ノ登記ヲ爲シ又ハ支店ノ新設營業所ノ移轉ノ爲メニ設立ノ登記ト全一ノ事項ヲ登記シタルトキハ豫備欄ニ其事由ヲ記載スヘキモ合併ニ因ラサル設立ノ場合ニ設立ノ登記ヲ爲シタルトキハ豫備欄ニ其事由ヲ記載セス以テ相判別スルコトヲ得ベシム
(商業登記取扱手續第二十一條第一項)

又會社ノ商號ハ會社ノ登記簿ニ登記スルヲ以テ足レリトス別ニ商號登記簿ニ登記スルコトヲ要セス(商業登記取扱手續第三十三條)

又合資會社ノ社員ノ氏名住所出資及ヒ責任ハ其他ノ事項ト全一ノ登記用紙ニ登記スヘキモノニ非ス登記簿ノ末尾ニ編綴セル用紙ニ之ヲ登記スヘキモノトス(商業登記取扱手續第一條第一項及ヒ第四十三條)

第六款 設立ノ登記ノ效力

會社カ設立ノ登記ヲ爲シタルトキハ二個ノ效力ヲ生ス一ハ設立ノ登記ノ全體ヨリ生スル效力ニシテ一ハ各個ノ事項ノ登記ヨリ生スル效力是レナリ

(第一) 設立ノ登記ノ全體ヨリ生スル效力

設立ノ登記ノ全體ヨリ生スル效力ニハ五種ノ別アリ一ハ設立ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ルコト一ハ開業ノ準備ニ着手スルヲ得ルコト一ハ株券ヲ發行スルコトヲ得ルコト一ハ株式ヲ讓渡シ又ハ其豫約ヲ爲スコトヲ得ルコト一ハ其後一定ノ期間内ニ開業ヲ爲スコトヲ要スルコト是レナリ而シテ此等ノ效力ハ何レモ本店ノ所在地ニ於ケル設立ノ登記ヨリ生スルモノトス左ニ逐一之ヲ説明スヘシ

第一 會社カ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタルトキハ其設立ヲ以テ

第三者會社及ヒ設立者以外ノ者ニ對抗スルコトヲ得ヘク本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スノ前ニハ設立ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス(新商法第四十五條)

第二編會社 第四章會法ノ設立 第九節 新商法ノ規定ニ依ル會社ノ設立ノ登記 第六款 設立ノ登記ノ效力

設立ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ルノ結果ハ第三者ヨリ會社ノ成立ヲ否認セラレサルニ在リ從テ登記シタル各個ノ事項ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ルト否トニ關係ナキモノトス

此効力ハ本店ノ所在地ニ於ケル設立ノ登記ノ專有スル所ニシテ其効力ハ支店ノ所在地ニ及フモノトス故ニ會社カ支店ノ所在地ニ於ケル設立ノ登記ヲ爲サ、ルモ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲ス以上ハ第三者ハ其會社ノ成立ヲ否認スルコトヲ得ス

第二 會社カ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタルトキハ開業ノ準備ニ着手シ開業ヲ爲スコトヲ得ヘク本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スノ前ニハ開業ノ準備ニ着手シ開業ヲ爲スコトヲ得ス(新商法第四十六條若シ之ニ反シテ開業ノ準備ニ着手シタルトキハ會社ノ業務執行社員又ハ株式會社ノ取締役ヲ五圓以上五百圓以下ノ過料ニ處スルモノトス(新商法第二百六十一條第五號)

第三 株式會社及ヒ株式合資會社カ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタ

ルトキハ株券ヲ發行スルコトヲ得ヘク本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スノ前ニハ株券ヲ發行スルコトヲ得ス(新商法第四百十七條第一項及ヒ第二百三十六條若シ之ニ反シテ株券ヲ發行シタルトキハ其株券ヲ無効ト爲シ株式會社ノ取締役又ハ株式合資會社ノ業務執行社員ヲ五圓以上五百圓以下ノ過料ニ處スルノミナラス之ヲ發行シタル者ハ第三者ニ對シテ損害賠償ノ責ニ任セサルヘカラス(新商法第四百十七條第二項第二百三十六條及ヒ第二百六十一條第七號)

第四 株式會社及ヒ株式合資會社カ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタルトキハ株主ハ株式ヲ讓渡シ又ハ其讓渡ノ豫約ヲ爲スコトヲ得ルモ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スノ前ニハ株式ヲ讓渡シ又ハ其讓渡ノ豫約ヲ爲スコトヲ得ス(新商法第四百十九條但書及ヒ第二百三十六條)

第五 會社カ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタルトキハ其後一定ノ期間(六ヶ月トス但裁判所ハ之ヲ伸長スルコトヲ得)内ニ開業ヲ爲スコトヲ要シ若シ開業ヲ爲サ、ルトキハ裁判所ヨリ解散ヲ命セラル(新商法第四十七條)

第二編會社 第四章會社 設立 第九節 新商法ノ規定ニ依ル會社ノ設立ノ登記 第六款 設立ノ登記ノ効力

以上述ヘタル効力ハ登記シタル事項ノ公告アルト否トヲ問ハス又支店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スト否トニ拘ハラズ又第三者カ會社ノ設立アリタルコトヲ知ルト否トヲ論セス當然生スルモノトス

(第二) 各個ノ事項ノ登記ヨリ生スル効力

會社ニ關スル各個ノ事項ノ登記ヨリ生スル効力ニ付テハ新商法中別段ノ規定ヲ設ケス故ニ登記ノ効力ニ關スル一般ノ規定即チ新商法第十二條乃至第十四條ノ規定ニ從フモノトス而シテ此等ノ規定ニ付テハ我輩既ニ本書第一編第五章第一節第八款ニ於テ之ヲ説明シタルヲ以テ茲ニ省略スヘシ

第十節 舊商法ノ規定ニ依ル會社ノ設立ノ登記

舊商法ニ於テハ會社ノ合併ヲ認メス又會社ノ種類ノ變更ヲ認メス故ニ設立ノ登記ニハ唯々一個ノ意義アルノミ即チ舊商法第七十八條第三百七十七條第六十八條第一項及ヒ第六十九條ノ規定ニ從ヒテ爲ス所ノ登記是レナリ

第一款 設立ノ登記ヲ爲スヘキ當事者

舊商法第七十八條第三百十八條及ヒ第六十八條第一項ニ於テハ「會社ハ……」

登記ヲ受クヘシ」ト規定シタルカ故ニ設立ノ登記ヲ爲スヘキ當事者ハ會社ニシテ會社ノ業務擔當社員又ハ株式會社ノ取締役ハ會社ニ代ハリテ設立ノ登記ヲ爲スヘキモノトス若シ此登記ヲ爲スコトヲ怠タリタルトキハ會社ノ業務擔當社員又ハ株式會社ノ取締役ヲ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處スルモノトス(舊商法第二百五十六條第一項)

施行條例及ヒ施行法ノ規定ニ依レハ舊商法ノ施行後新商法ノ施行前ニ舊商法ノ規定ニ從ヒ設立シタル會社ノミカ舊商法ノ規定ニ從ヒ設立ノ登記ヲ爲サ、ル合名會社及ヒ株式會社ノトス然レトモ新商法ノ施行前ニ設立ノ登記ヲ爲サ、ル合名會社及ヒ株式會社ハ施行法ノ規定ニ從ヒテ設立ノ登記ヲ爲スヘク舊商法ノ規定ニ從ヒテ設立ノ登記ヲ爲スヘキモノニ非ス但舊商法ノ規定ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要スル終期カ新商法ノ施行前ニ經過シタル場合ニ於テハ此施行法ノ規定ハ舊商法ノ規定ニ依リテ過料ニ處スルヲ妨クルモノニ非サルコト勿論ナリ(施行法第九十三條)

第二款 設立ノ登記ヲ爲スヘキ地

設立ノ登記ハ會社ノ營業所(即チ本店及ヒ支店)ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要

第二編會社 第四章會社ノ設立 第十節 舊商法ノ規定ニ依ル會社ノ設立ノ登記 四一七
第一款 設立ノ登記ヲ爲スヘキ當事者 第二款 設立ノ登記ヲ爲スヘキ地

ス然レトモ全一ノ登記所ノ管轄区域内ニ數個ノ營業所アルトキノ如キハ其營業所ノ數ニ應スル登記ヲ爲スコトヲ要セス唯タ一個ノ登記ヲ爲スヲ以テ足ルコト勿論ナルヘシ(舊商法第七十八條第三百七十七條及ヒ第六百六十九條)

第三款 設立ノ登記ヲ爲スヘキ時期

第一項 設立ノ登記ヲ爲スコトヲ得ヘキ始期

合名會社及ヒ合資會社ニ在リテハ設立ノ效力ヲ生シタル後即チ會社ノ成立シタル後ハ設立ノ登記ヲ受クルコトヲ得ヘシ之ニ反シテ株式會社ニ在リテハ設立ノ效力ヲ生シタル後即チ會社ノ成立シタル後直チニ設立ノ登記ヲ受クルコトヲ得ス尙ホ各株式ニ付キ第一回ノ拂込アルコトヲ要シ各株式ニ付キ第一回ノ拂込アリタル後始メテ設立ノ登記ヲ受クルコトヲ得ヘシ(舊商法第七十八條第三百七十七條及ヒ第六百六十八條第一項)

第二項 設立ノ登記ヲ爲スコトヲ要スル終期

設立ノ登記ハ設立ノ登記ヲ爲スコトヲ得ル始期ヨリ起算シテ十四日間ニ之ヲ爲スコトヲ要シ若シ此期間ノ終了マテニ之ヲ爲サハルトキハ過料ニ處セラレハ

免カレヌ(舊商法第七十八條第三百七十七條及ヒ第六百六十八條第一項)

右ノ外株式會社ニ在リテハ設立ノ登記ハ設立ノ免許ヲ得タル日ヨリ一年內ニ之ヲ爲スコトヲ要シ若シ此期間ノ終了マテニ登記ヲ爲サハルトキハ設立免許ノ效力ヲ失ヒ從テ更ニ設立ノ免許ヲ受クルニ非サレハ設立ノ登記ヲ受クルコトヲ得サルモノトス(舊商法第七十條前段)

第三項 設立ノ登記ヲ爲スコトヲ得ヘキ終期

設立ノ登記ヲ爲スコトヲ要スル終期株式會社ノ設立免許ヲ得タル日ヨリ起算スル終期ヲ除クノ經過後ニ於テモ尙ホ設立ノ登記ヲ爲スコトヲ得ルヤ否ヤハ多少ノ疑問ナレトモ我輩ハ設立ノ登記ヲ爲スコトヲ得ルモノト信ス然レトモ株式會社ノ設立免許ヲ得タル日ヨリ起算シテ一ケ年ヲ經過スルトキハ設立免許ノ效力ヲ失フヲ以テ爾後設立ノ登記ヲ受クルコトヲ得サルハ勿論ナリ即チ此場合ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スコトヲ要スル終期ハ全時ニ設立ノ登記ヲ爲スコトヲ得ル終期ナリトス(舊商法第七十條前段)

第四款 登記スヘキ事項

第二編會社 第四章會社ノ設立 第十節 舊商法ノ規定ニ依ル會社ノ設立ノ登記 第三款 設立ノ登記ヲ爲スコトヲ得ヘキ終期 第四款 登記スヘキ事項

會社設立ノ際如何ナル事項ヲ登記スヘキカハ舊商法カ明文ヲ以テ規定スル所ナ
リ今其規定ニ依レハ登記スヘキ事項ハ絕對的必要事項及ヒ相對的必要事項ノ二
種ニ大別スルコトヲ得ヘシ

(第一) 絕對的必要事項

舊商法ノ規定ニ依レハ會社カ必ス登記スルコトヲ要スル事項即チ絕對的必要事
項ハ左ノ如シ

- 第一 合名會社及ヒ合資會社ニ在リテハ設立ノ年月日株式會社ニ在リテハ設
立免許ノ年月日舊商法第七十九條第五號第百三十八條及ヒ第百六十八條第
二項第八號
- 第二 會社カ合名會社合資會社又ハ株式會社ナルコト(舊商法第七十九條第一
號第百三十八條第一號及ヒ第百六十八條第二項第一號)
- 第三 會社ノ目的舊商法第七十九條第二號第百三十八條及ヒ第百六十八條第
二項第二號
- 第四 株式會社ニ在リテハ開業ノ年月日(舊商法第百六十八條第二項第九號)

第五 會社ノ社名舊商法第七十九條第三號第百三十八條及ヒ第百六十八條第
二項第三號

第六 會社ノ營業所(舊商法第七十九條第三號第百三十八條及ヒ第百六十八條
第二項第三號)

第七 合資會社ニ在リテハ業務擔當社員ノ氏名株式會社ニ在リテハ取締役ノ
氏名住所舊商法第百三十八條第五號及ヒ第百六十八條第二項第六號)

第八 合名會社及ヒ合資會社ニ在リテハ各社員ノ氏名住所舊商法第七十九條
第四號及ヒ第百三十八條

第九 合資會社及ヒ株式會社ニ在リテハ資本ノ總額舊商法第百三十八條第二
號及ヒ第百六十八條第二項第四號)

第十 合資會社ニ在リテハ各社員ノ出資額(舊商法第百三十八條第三號)

第十一 株式會社ニ在リテハ株式ノ總數株式ノ金額(一株ノ金額)及ヒ各株式ニ
付キ拂込ミタル金額(舊商法第百六十八條第二項第四號及ヒ第五號)

會社ハ設立ノ際以上ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス然レトモ此等ノ事項ニハ登記
第二編會社 第四章會社ノ設立 第十節舊商法ノ規定ニ依ル會社ノ設
立ノ登記 第四款登記スヘキ事項

スルノ必要ナキモノアリ又登記スルノ必要アル事項ニシテ舊商法ノ規定セサルモノアリ株式會社ノ開業ノ年月日株式ノ總數ノ如キハ前者ニ屬シ合名會社ノ各社員ノ出資額株式會社ノ監査役ノ氏名住所ノ如キハ後者ニ屬ス

第一 舊商法ハ株式會社ノ開業ノ年月日ヲ登記セシムト雖モ登記前ニ開業ヲ爲スコトヲ得サルヲ以テ其所謂開業ノ年月日ハ單ニ豫定ニ過キス從テ之ヲ登記セシムルノ必要ナシ

第二 舊商法ハ株式會社ノ株式ノ總數ヲ登記セシムト雖モ既ニ資本ノ總額及ヒ株式ノ金額ヲ登記スル以上ハ之ニ依リテ容易ニ株式ノ總數ヲ算出スルコトヲ得ヘク別ニ株式ノ總數ヲ登記セシムルノ必要ナシ

第三 舊商法ハ合名會社ノ各社員ノ出資額ヲ登記セシメスト雖モ各社員ノ出資ハ會社財產ニ歸シ會社ノ債權者ハ之ヲ以テ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受ルコトヲ得ヘク社員一個ノ債權者ハ之ヲ以テ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受ルコトヲ得ス此ノ如ク出資額ノ多少ハ第三者ノ利害ニ重大ノ關係アルニモ拘ラス合資會社ニ付テ之ヲ登記セシメ合名會社ニ付テハ之ヲ登記セシメサルハ不當ナリ

第四 株式會社ノ監査役ハ會社財產及ヒ業務執行ノ狀況ヲ監査シ取締役ニ對シテ監督ノ地位ニ立ツモノナレハ其人ヲ得ルト否トハ會社ノ利害ニ重大ノ關係アリ從テ其氏名住所ヲ登記セシメ第三者ヲシテ何人カ監査役タルカヲ知ラシメサルヘカラス然ルニ舊商法ノ規定茲ニ及ハサルハ其缺點ナリ

以上ハ舊商法ノ缺點ニシテ立法者カ之ヲ改正スルニ非サレハ到底匡正スルコトヲ得サルモノナリ此外舊商法ニハ毫末ノ缺點ナク偶々司法省令ノ制定者カ舊商法ノ規定ヲ誤解シタルカ爲メ甚タシキ不都合ヲ生シタルモノアリ明治二十三年十月司法省令第八號是レナリ

右司法省令ニ依レハ會社設立ノ登記ハ會社ツノモノニ關スル事項ヲ登記スルモノニ非スシテ會社ノ本店又ハ支店ニ關スル事項ヲ登記スルモノト爲シタリ故ニ支店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲ス場合ニハ支店ツノモノ、商號ヲ登記スヘキモノト爲シ又支店ノ所在ノ場所ノミヲ登記スヘキモノト爲シ又支店ノ資本ノ總額ヲ登記スヘキモノト爲シ本店ノ業跡商號所在ノ場所及ヒ會社ノ資本ノ總額ハ豫備欄ニ之ヲ登記スヘキモノト爲シタリ蓋シ舊商法ノ規定ニ依レハ會社ノ目的タル

第二編 會社 第四章 會社ノ設立 第十節 舊商法ノ規定ニ依ル會社ノ設立ノ登記 第四款 登記スヘキ事項

事業ヲ登記シ會社ノ社名商號及ヒ營業所本店及ヒ支店ヲ登記シ會社ノ資本ヲ登記スヘキモノニシテ此以外ニ本店ノ業跡ナルモノナク本店又ハ支店ノ商號ナルモノナク支店ノ資本ナルモノナシ營業所ナル語モ亦本店又ハ支店ヲ指スノ語ニシテ決シテ場所ヲ指スモノニ非ス此ノ如ク誤解ヲ以テ充タサレタル司法省令ハ舊商法ノ施行ト共ニ施行セラレ遂ニ我國ノ會社登記簿上ニ一大誤謬ヲ止メタリ新商法ノ施行ニ際シ施行法第二十五條第三十八條第二項及ヒ第五十二條等ノ規定アルモ亦此誤謬ノ一部分ヲ匡正スルノ目的ニ出テタルモノナリトス(尙ホ此事ニ付テハ本章第十四節第三款第四款及ヒ第五款第三項ヲ參觀スヘシ)

(第二) 相對的必要事項

舊商法ノ規定ニ依レハ會社カ之ヲ定メタル場合ニ限り登記スルコトヲ要スル事項即チ相對的必要事項ハ左ノ如シ

- 第一 合名會社カ特ニ業務擔當社員ヲ定メタルトキハ其業務擔當社員ノ氏名(舊商法第七十九條第七號)
- 第二 合資會社ニ無限責任社員アルトキハ其無限責任社員ノ氏名舊商法第百

三十八條第四號

- 第三 會社ノ存立時期ヲ定メタルトキハ其存立時期(舊商法第七十九條第六號 第百三十八條及ヒ第百六十八條第二項第七號)

第五款 設立ノ登記ノ手續

(第一) 申請

設立ノ登記ヲ申請スルニハ書面ヲ以テ之ヲ爲シ且其書面ハ一般ノ登記ノ届出ノ陳述書ニ關スル要件ヲ具備スルコトヲ要ス(舊商法第二十條)
 合名會社及ヒ合資會社ノ設立ノ登記ノ届出ニ際シ陳述書ニ添附スヘキ書類ニ付テハ舊商法中何等ノ規定ナシ之ニ反シテ株式會社ノ設立ノ登記ノ届出ニ際シ陳述書ニ添附スヘキ書類ニ付テハ舊商法ニ規定アリ即チ左ノ書類ヲ添附スヘキモノトス(舊商法第百六十八條第一項)

- 第一 目論見書
- 第二 定款
- 第三 株式申込簿株式申込ノ陳述書ヲモ包含スルコト勿論ナルヘシ)

第二編 會社 第四章 會社ノ設立 第十節 舊商法ノ規定ニ依ル會社ノ設立ノ登記 第五款 設立ノ登記ノ手續

第四 設立免許書

以上ノ書類ハ必スシモ原本ヲ以テスルコトヲ要セス公證人ノ認證ヲ受ケタル
本ヲ以テスルコトヲ得ルモノトス(施行條例第三條)

(第二) 登記

當事者ヨリ設立登記ノ申請アリタルトキハ裁判所登記所ハ會社ノ種類ニ應シ各
其登記簿ニ登記スヘキモノトス

舊商法第六十八條第一項ノ規定ニ依リ當事者ヨリ差出タル書類ハ裁判所
ニ於テ登記簿ニ添ヘテ保存スヘキモノトス(舊商法第六十八條第三項)

第六款 設立ノ登記ノ效力

(第一) 設立ノ登記ノ全体ヨリ生スル效力

舊商法ノ規定ニ依ル設立ノ登記ノ全体ヨリ生スル效力ハ左ノ如シ

第一 會社カ設立ノ登記及ヒ公告ヲ受ケタルトキハ第三者ニ對シテ會社タル
效力ヲ生スルモ登記及ヒ公告ヲ受ケタル前ニ在リテハ第三者ニ對シテ會社タ
ル効ナキモノトス(舊商法第六十九條)

第二 會社カ設立ノ登記ヲ受ケタルトキハ目的タル事業ニ着手スルコトヲ得
ルモ登記ヲ受ケタル前ニ在リテハ事業ニ着手スルコトヲ得ス若シ之ニ反シテ

登記前ニ事業ニ着手スルトキハ地方裁判所ノ命令ヲ以テ其事業ヲ差止メ(但
此命令ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得)且會社ノ業務擔當社員又ハ株式
會社ノ取締役ヲ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處ス(舊商法第八十一條第三百
十七條第七十條後段及ヒ第二百五十六條第二號及ヒ施行條例第五十一條)

第三 株式會社カ設立ノ登記ヲ受ケタルトキハ創業總會ノ承認ヲ經タル義務
及ヒ出費ニ付キ責任ヲ負フモ登記前ニ在リテハ發起人、取締役及ヒ株主ニ於
テ連帶無限ノ責任ヲ負ヒ會社ハ其責任ヲ負フコトナシ(舊商法第七十一條)

第四 株式會社カ設立ノ登記ヲ受ケタルトキハ株券(假株券及ヒ本株券)ヲ發行
スルコトヲ得ルモ其登記ヲ受ケタル前ニハ株券ヲ發行スルコトヲ得ス(舊商法
第七十九條)

第五 株式會社カ設立ノ登記ヲ受ケタルトキハ株主ハ株式ヲ讓渡スコトヲ得
ルモ其登記ヲ受ケタル前ニハ株式ヲ讓渡スコトヲ得ス假令之ヲ讓渡スモ其讓

渡ハ無効ナリ(舊商法第百八十條)

第六 會社カ設立ノ登記ヲ受ケタルトキハ其後一定ノ期間(設立ノ登記ノ日ヨリ六ヶ月)内ニ事業ニ着手スルコトヲ要ス若シ此期間内ニ事業ニ着手セザルトキハ其登記及ヒ公告ハ無効ト爲ルモノトス(舊商法第八十二條第百三十七條及ヒ第百七十條後段)

以上述ヘタル效力ハ本店ノ所在地ニ於ケル登記公告ノミヨリ生スルモノナリヤ將タ又本店及ヒ支店(支店アルトキ)ノ所在地ニ於ケル登記公告ヨリ生スルモノナリヤハ舊商法ノ規定セサル所ナリ

(第二) 登記シタル各個ノ事項ヨリ生スル效力

會社ニ關スル各個ノ事項ノ登記ヨリ生スル效力ニ付テハ舊商法モ亦新商法ト全シク一般ノ登記ニ關スル規定ニ讓レリ

第七款 設立ノ登記ノ無効

舊商法ニ於テハ設立ノ登記及ヒ公告ノ無効ト爲ル場合ヲ認メ即チ其登記ノ日ヨリ六ヶ月内ニ事業ニ着手セザルトキハ其事業ニ着手スルコトヲ得サル事由ノ如

何ヲ問ハス當然其登記及ヒ公告ヲ無効ト爲シタリ(舊商法第八十二條第百三十七條及ヒ第百七十條後段)

然レトモ右ノ登記及ヒ公告ノ無効ハ登記及ヒ公告ヲ爲シタル當時ニ遡ルモノナリヤ將タ又將來ニ向テ登記及ヒ公告ノ效力ヲ失フモノナルヤハ舊商法中何等ノ規定ナシ蓋シ此無効ハ登記及ヒ公告ソノモノニ瑕疵アルカ爲メニ非サレハ將來ニ向テ登記及ヒ公告ノ效力ヲ失フニ過キスト解スルコト穩當ナルヘシ
登記及ヒ公告カ無効ト爲ル以上ハ前款ニ述ヘタル設立ノ登記ノ效力ハ當然消滅スヘク從テ第三者ニ對シテ會社タル效ナキニ至ルヘキハ勿論事業ニ着手スルコトヲ得サルヘシ但一旦發行シタル株券又ハ假株券アルトキハ之ヲ如何スヘキカハ多少疑アリ

第十一節 施行法ノ規定ニ依ル會社ノ設立ノ登記

第一款 設立ノ登記ヲ爲スヘキ當事者

施行法第二十四條ノ規定ニ依レハ新商法ノ施行前ニ舊商法ノ規定ニ從ヒテ設立シタル合名會社ニシテ未タ設立ノ登記ヲ爲サ、ルモノハ施行法ノ規定ニ依リテ

第二編 會社 第四章 會社ノ設立 第十節 舊商法ノ規定ニ依ル設立ノ登記
第七款 設立ノ登記無効 第十一節 施行法ノ規定ニ依ル會社ノ設立ノ登記
第一款 設立ノ登記ヲ爲スヘキ當事者

設立ノ登記ヲ爲スコトヲ要シ又施行法第五十條ノ規定ニ依レハ株式會社ノ發起人カ新商法ノ施行前株主ノ募集ニ着手シタルカ爲メニ施行法ノ規定ニ依リ舊商法ノ規定ニ從ヒテ設立セラレタル株式會社ハ施行法ノ規定ニ依リテ設立ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス此二者ノ爲スヘキ設立ノ登記ハ我輩カ施行法ノ規定ニ依ル設立ノ登記トシテ本節ニ説明セントスル所ナリ

施行法ノ規定ニ依ル設立ノ登記ハ何人ヨリ之ヲ申請スヘキカ非訟事件手續法ハ株式會社ニ付キ總取締役及ヒ總監査役ヨリ之ヲ申請スヘキ旨ヲ明言シタルニモ拘ハラヌ合名會社ニ付キ何人ヨリ之ヲ申請スヘキカヲ明言セス然レトモ既ニ設立ノ登記ナル以上ハ設立ノ登記ヲ申請スヘキ者ニ關スル一般ノ規定ハ當然之ニ適用セラレヘク從テ合名會社ニ付テハ總社員ヨリ此登記ヲ申請スヘキモノト解スルコトヲ得ヘシ(非訟事件手續法第七十九條第一項第八十七條第一項及ヒ第百九十四條ノ二第二項)

施行法ノ規定ニ依ル設立ノ登記ヲ爲スコトヲ怠タリタルトキハ新舊商法又ハ施行法中何レノ法律ニ依リ過料ノ制裁ヲ適用スルコトヲ得ルカ合名會社ニ付テハ

施行法第二十四條ニ新商法ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ爲スコトヲ要ストノ語アリ從テ登記ヲ爲サルル制裁ニ付テモ新商法ノ規定ヲ適用スヘキモノト解セラレ又株式會社ニ付テハ施行法第五十條ニ此ノ如キ規定ナク全第四十五條ニハ舊商法ノ規定ニ從ヒテ會社ノ設立ヲ爲ストノ語アリ從テ登記ヲ爲サルル制裁ニ付テハ舊商法ノ規定ヲ適用スヘモノト解セラレサルニ非ス然レトモ新商法第二百六十一條第一號ハ其適用區域ヲ全第二編ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ怠タリタル場合ノミニ限ラレ舊商法第二百五十六條第一號ハ其適用區域ヲ全第一編第六章ニ定メタル登記ヲ爲サルル場合ノミニ限ラレ何レモ施行法ノ規定ニ依ル登記ヲ爲サルル場合ニ及ハサルヲ以テ結局過料ノ制裁ヲ適用スルニ由ナカルヘシ

第二款 設立ノ登記ヲ爲スヘキ地

施行法ノ規定ニ依ル設立ノ登記ヲ爲スヘキ地ハ會社ノ本店及ヒ支店ノ所在地ナリ尙ホ此事ニ付テハ第九節第二款ヲ參觀スヘシ(施行法第二十四條第五十條及ヒ新商法第五十一條第一項第四百十一條第一項第一號)

第三款 設立ノ登記ヲ爲スヘキ時期

第二編 會社ノ設立ノ規定ニ依ル會社ノ
設立ノ登記
第四節 會社ノ設立ノ規定ニ依ル會社ノ
第一條 設立ノ登記ヲ爲スヘキ地
第三款 設立ノ登記ヲ爲
スヘキ時期

第二項 設立ノ登記ヲ爲スコトヲ得ヘキ時期

施行法ノ規定ニ依ル合名會社設立ノ登記ハ新商法施行ノ日即チ施行法施行ノ日ヨリ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ之ニ反シテ施行法ノ規定ニ依ル株式會社設立ノ登記ハ各株式ニ付キ株式ノ金額ノ四分ノ一以上ノ拂込アリタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス然ラハ新商法ノ施行前ニ此拂込アリタルトキハ如何施行法ハ特ニ此場合ヲ規定セスト雖モ施行法ノ施行前ニ施行法ノ規定ニ依ル設立ノ登記ヲ爲スコトヲ得サルヲ以テ新商法施行ノ日ヨリ之ヲ爲スコトヲ得ルモノト謂ハサルヘカラス(施行法第二十五條及ヒ第五十條)

此他合名會社カ施行法ノ規定ニ依ル設立ノ登記ヲ受クルニハ施行法ノ規定ニ依ル定款ノ作成本章第八節第七款ヲ終ハリタル後ナルコトヲ要シ株式會社カ施行法ノ規定ニ依ル設立ノ登記ヲ受クルニハ施行法ノ規定ニ依ル定款ノ變更(本章第八節第六款)ヲ終ハリタル後ナルコトヲ要シ其前ニ於テハ設立ノ登記ヲ受クルコトヲ得サルモノトス

第二項 設立ノ登記ヲ爲スコトヲ要スル時期

施行法ノ規定ニ依ル合名會社設立ノ登記ハ新商法施行ノ日ヨリ一ヶ月内ニ之ヲ爲スコトヲ要シ施行法ノ規定ニ依ル株式會社設立ノ登記ハ各株式ニ付キ株式ノ金額ノ四分ノ一以上ノ拂込アリタル日ヨリ二週間内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス(施行法第二十四條及ヒ第五十條)然ラハ新商法ノ施行前ニ各株式ニ付キ株式ノ金額ノ四分ノ一以上ノ拂込アリタルトキハ其日ヨリ二週間内ニ之ヲ爲スコトヲ要スルヤ將タ又新商法施行ノ日ヨリ二週間内ニ之ヲ爲スコトヲ要スルヤ施行法ハ此場合ニ付キ何等ノ規定ヲ設ケスト雖モ後説ノ如ク決定スルヲ正當ナリト信ス此他株式會社ニ在リテハ設立ノ免許ヲ得タル日ヨリ一年內ニ設立ノ登記ヲ爲スコトヲ要シ若シ此期間ノ終了マテニ登記ヲ爲サルトキハ設立免許ノ效力ヲ失ヒ從テ更ニ設立ノ免許ヲ受クルニ非サレハ設立ノ登記ヲ爲スコトヲ得サルモノトス(施行法第四十五條及ヒ舊商法第七十條前段)

第三項 設立ノ登記ヲ爲スコトヲ得ル終期

設立ノ登記ヲ爲スコトヲ要スル終期株式會社ノ設立免許ヲ得タル日ヨリ起算スル終期ヲ除クノ經過後ニ於テモ尙ホ設立ノ登記ヲ爲スコトヲ得ルヤ否ヤハ多少

第二編 合名會社ノ設立ノ登記ノ時期
 第四章 合名會社ノ設立ノ登記ノ時期
 第三款 設立ノ登記ヲ爲スヘキ時期

ノ疑問ナレトモ我輩ハ設立ノ登記ヲ爲スコトヲ得ルモノト信ス
然レトモ株式會社ノ設立免許ヲ得タル日ヨリ起算シテ一年ヲ經過スルトキハ設
立免許ノ效力ヲ失フヲ以テ爾後設立ノ登記ヲ受クルコトヲ得サルハ勿論ナリ即
チ此場合ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スコトヲ要スル終期ハ全時ニ設立ノ登記ヲ爲ス
コトヲ得ル終期ナリトス(施行法第四十五條及ヒ舊商法第七十條前段)

第四款 登記スルコトヲ要スル事項

施行法ノ規定ニ依ル設立ノ登記ヲ爲スニハ如何ナル事項ヲ登記スヘキカハ新商
法ノ規定ニ依ル即チ

第一 合名會社ニ在リテハ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス(施行法第二十四條
及ヒ新商法第五十一條第一項)

- 一、 會社ノ設立ノ年月日
- 二、 會社ノ目的
- 三、 會社ノ商號
- 四、 會社ノ本店及ヒ支店

- 五、 會社ノ社員ノ氏名住所
- 六、 會社ノ社員ノ出資ノ種類
- 七、 會社ノ社員ノ出資中財産ヲ目的トスル出資ノ價格
- 八、 特ニ會社ヲ代表スヘキ社員ヲ定メタルトキハ其社員ノ氏名
- 九、 會社ノ存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其存立時期又ハ解
散ノ事由

一乃至七ノ事項ハ如何ナル場合ニ於テモ之ヲ登記スルコトヲ要シ八及ヒ九
ノ事項ハ之ヲ定メタル場合ニ限り登記スルコトヲ要スルモノトス(其當否ハ
別論ナリ)

第二 株式會社ニ在リテハ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス(施行法第五十條及
ヒ新商法第四百十一條第一項)

- 一、 會社ノ設立ノ年月日
- 二、 會社ノ目的
- 三、 會社ノ商號

第二編 會社 第四章 會社ノ設立 第十一節 施行法ノ規定ニ依ル會社ノ
設立ノ登記 第四款 登記スルコトヲ要スル事項

- 四、 會社ノ本店及ヒ支店
 - 五、 會社ノ取締役及ヒ監査役ノ氏名住所
 - 六、 會社ノ資本ノ總額
 - 七、 會社ノ株式ノ金額(一株ノ金額)
 - 八、 各株式ニ付キ拂込ミタル金額
 - 九、 會社カ公告ヲ爲ス方法
 - 十、 會社ノ開業前株主ニ利息ヲ配當スヘキコトヲ定メタルトキハ其利率(但之ヲ定ムルコトヲ得ルヤ否ヤハ議論アリ本章第八節第六款ヲ參觀スヘシ)
 - 十一、 會社ノ存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其存立時期又ハ解散ノ事由
- 一乃至九ノ事項ハ如何ナル場合ニ於テモ之ヲ登記スルコトヲ要シ十及ヒ十一ノ事項ハ之ヲ定メタル場合ニ限リテ登記スルコトヲ要スルモノトス
- 設立免許ノ年月日ハ之ヲ登記スルコトヲ要セサルヤ否ヤ蓋シ舊商法ノ規定

ニ從ヒテ設立スル以上ハ設立ノ免許ニ因リテ設立ノ效力ヲ生シ即チ會社ハ此日ニ成立ス故ニ設立免許ノ年月日ハ設立ノ年月日トシテ之ヲ登記スヘキモノナルヘシ

第五款 設立ノ登記ノ手續

(第一) 申請

施行法ノ規定ニ依ル設立ノ登記ハ非訟事件手續法ノ規定ニ依リ書面ヲ以テ申請ヲ爲シ且其申請書ハ登記ノ申請書ニ關スル一般ノ要件ヲ具備スルコトヲ要ス(非訟事件手續法第四百十九條)

登記ノ申請書ニハ左ニ掲ケタル書類ヲ添附スルコトヲ要ス

第一 定款非訟事件手續法第七十九條第二項及ヒ第九十四條ノ二第一項第一號)

第二 合名會社ノ社員中ニ未成年者又ハ妻アルトキハ其社員タルコトニ全意ヲ爲スヘキ者ノ全意ヲ證スル書面非訟事件手續法第七十九條第二項)

第三 株式會社ニ在リテハ株主ニ關スル左ノ書類

第二編會社 第四章會社ノ設立 第十一節施行法ノ規定ニ依ル會社ノ設立ノ登記 第五款設立ノ登記ノ手續

一、株主名簿(非訟事件手續法第九十四條ノ二第一項第二號)

二、各株主ノ株式ノ申込ヲ證スル書面即チ株式申込簿又ハ株式申込ノ陳述書非訟事件手續法第九十四條ノ二第一項第三號(但發起人ノ引受ケタル株式ノ員數ヲ記載シタル書面ハ之ヲ添附スルコトヲ要セス)

第四 株式會社ノ設立免許書非訟事件手續法第九十四條ノ二第一項第四號

第五 株式會社ノ創業總會ノ決議錄(非訟事件手續法第九十四條ノ二第一項第五號)但施行法第四十六條ノ規定ニ依リ定款ヲ變更シタルトキト雖モ株主總會ノ決議錄ヲ添附スルコトヲ要セス是レ缺點ナリ

此他舊商法第六十八條第一項ニ於テハ目論見書ヲ添附スルコトヲ要スト爲シタレトモ非訟事件手續法ハ其添附ヲ命セサルヲ以テ之ヲ添附スルコトヲ要セサルモノナルヘシ

(第二) 登記

登記ノ手續ニ付テハ別ニ説明スヘキコトナシ

第六款 設立ノ登記ノ效力

施行法ノ規定ニ依ル合名會社設立ノ登記ノ效力ニ付テハ新商法ノ施行後ナルヲ以テ新商法ノ規定ニ依ルヘキコト勿論ナルモ施行法ノ規定ニ依ル株式會社設立ノ登記ノ效力ニ付テハ新舊商法中何レニ依ルヘキカ多少ノ疑義ナキニ非ス即チ施行法第四十五條ニ於テハ舊商法ノ規定ニ從ヒテ會社ノ設立ヲ爲スコトヲ得ルモノト爲シタルカ故ニ設立ノ登記ノ效力ニ付テモ尙ホ舊商法ノ規定ヲ適用スヘキモノニ非サルカノ疑アリ然レトモ我輩ハ全條ヲ以テ設立事務ソノモノニ關スルモノト爲シ一旦設立事務ヲ結了シタル以上ハ其以後ノ事項ニ付テハ當然新商法ノ規定ヲ適用スヘキモノナリト信ス之ヲ要スルニ施行法ノ規定ニ依ル設立ノ登記ノ效力ハ凡ヘテ新商法ノ規定ニ依ルヘキモノナルヲ以テ宜シク本章第九節第六款ヲ參觀スヘシ

第十二節 會社ノ設立ノ無効

會社ハ法律行爲即チ設立行爲ニ因リテ設立セラル、モノナルヲ以テ其設立行爲カ或ハ當然無効ナルコトアルヘク或ハ取消アルヲ俟テ始ヨリ無効ナリシモノト看做サルコトアルヘシ此無効ノ場合ニ於テハ如何ナル結果ヲ生スルヤ

第二編 會社 第四章 會社ノ設立 第十一節 施行法ノ規定ニ依ル會社ノ設立ノ登記 第六款 設立ノ登記ノ效力 第十二節 會社ノ設立ノ無効

舊商法ニ於テハ會社ノ設立行為ノ無効ナル場合ニ付キ何等ノ規定ヲ設ケサルヲ以テ其無効ノ結果ニ付テハ法律行為ノ無効ニ關スル一般ノ規定ニ從ハサルヘカラス然レトモ會社カ既ニ其目的タル事業ニ着手シタル後設立行為ノ當然無効ナリシコトヲ發見シ又設立行為ヲ取消ス者アリタルカ爲メ始ヨリ無効ナリシモノト看做サル、カ如キコトアラハ到底法律行為ノ無効ニ關スル一般ノ規定ヲ適用スルノミヲ以テ満足スルコトヲ得ス故ニ新商法ハ會社カ事業ニ着手シタル後設立行為ノ無効ナルコトヲ發見シタル場合ニ付キ別段ノ規定ヲ設ケタリ(新商法第百條第百五條第百三十二條及ヒ第百三十六條)

新商法ノ規定ニ依レハ會社ノ設立行為ノ無効ナルコトヲ發見シタル時期ヲ標準トシテ設立行為ノ無効ナル場合ヲ二個ニ分ツ即チ

- 第一 會社カ事業ニ着手スル前ニ設立行為ノ無効ナルコトヲ發見シタル場合
此場合ハ更ニ之ヲ分チテ二ト爲ス
 - 一 會社カ事業ニ着手スル前ニ設立行為ノ當然無効ナルコトヲ發見シタルトキ

二、會社カ事業ニ着手スル前ニ設立行為ノ取消アリタルトキ

第二 會社カ事業ニ着手シタル後ニ設立行為ノ無効ナルコトヲ發見シタル場合

- 此場合ハ更ニ之ヲ分チテ二ト爲ス
 - 一、會社カ事業ニ着手シタル後ニ設立行為ノ當然無効ナルコトヲ發見シタルトキ
 - 二、會社カ事業ニ着手シタル後ニ設立行為ノ取消アリタルトキ

是レナリ

合名會社及ヒ合資會社カ事業ニ着手シタル後ニ設立行為ノ取消アリタルトキ(即チ第二ノ二)ハ解散ノ場合ニ準シテ清算ヲ爲スコトヲ要シ株式會社及ヒ株式合資會社カ事業ニ着手シタル後ニ設立行為ノ無効ナルコトヲ發見シタル場合(即チ第二ノ二)ニモ亦解散ノ場合ニ準シテ清算ヲ爲スコトヲ要ス(新商法第百條第百五條第百三十二條及ヒ第百三十六條)之ニ反シテ會社カ事業ニ着手スル前ニ設立行為ノ無効ナルコトヲ發見シタル場合(即チ第一)及ヒ合名會社、合資會社カ事業ニ着手シタル後ニ設立行為ノ當然無効ナルコトヲ發見シタルトキ(即チ第二ノ一)ニハ解

散ノ場合ニ準シテ清算ヲ爲スコトヲ要セス
 合名會社合資會社カ事業ニ着手シタル後ニ設立行爲ノ當然無効ナルコトヲ發見
 シタルトキハ何故解散ノ場合ニ準シテ清算ヲ爲サシメサルカ殊ニ株式會社株式
 合資會社ニ付テハ之ト全一ノ場合ニ解散ノ場合ニ準シテ清算ヲ爲サシメタルニ
 モ拘ハラズ合名會社合資會社ニ付テハ何故規定ヲ異ニスルカ此理由トシテ起草
 者ノ説明スル所ニ依レハ合名會社合資會社ノ設立行爲ハ甚々簡單ナルヲ以テ事
 業ニ着手シタル後其設立行爲ノ當然無効ナルコトヲ發見スルカ如キコトナシ假
 令此ノ如キ場合アリトスルモ解散ノ場合ニ準シテ清算ヲ爲サシムルノ必要ナシ
 ト謂フニ在リ然レトモ設立行爲ノ要素ニ付キ錯誤アリタル場合ノ如キ設立者ノ
 代理人カ代理權ヲ有セサリシ場合ノ如キ容易ニ設立行爲ノ當然無効ナルコトヲ
 發見スルコトヲ得サル場合アリ取消ノ場合ト當然無効ナル場合ト其規定ヲ異ニ
 スル所以ナキヲ知ラハ此理由ノ當否自カラ明瞭ナルヘシ
 會社カ設立ノ登記ヲ爲シタル後設立行爲ノ無効ナルコトヲ發見スルトキハ一旦
 爲シタル設立ノ登記ヲ如何スヘキカ非訟事件手續法ハ判決ニ因リ合名會社及ヒ

合資會社ノ設立行爲カ取消サレタル場合ニ於テ各社員ノ申請ニ因リ其登記ヲ爲
 スヘキ旨及ヒ此登記ノ申請書ニハ判決ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要スル旨ヲ規定
 スト雖モ其他ノ場合ニ付テハ何等ノ規定スル所ナシ(非訟事件手續法第百八十四
 條及ヒ第百八十六條)

第十三節 會社ノ設立ノ費用

會社ノ設立費用トハ會社ノ設立事務ニ關スル費用ヲ指シ設立事務ノ着手ヨリ設
 立事務ノ完結即チ設立ノ登記ヲ終ハルマテノ費用ヲ包含ス而シテ此設立費用ニ
 ハ會社ノ成立前ニ生シタルモノアリ會社ノ成立後ニ生シタルモノアリ我輩ハ先
 ツ會社ノ成立前ニ於ケル設立費用ハ何人カ之ヲ負擔スヘキカヲ説明シ次ニ會社
 ノ成立後ニ於ケル設立費用ハ何人カ之ヲ負擔スヘキカヲ説明シ終ハリニ會社ヲ
 シテ設立費用ヲ負擔セシムヘキ限度如何ヲ説明スヘシ

(第一) 會社ノ成立前ニ於ケル設立費用ノ負擔者

會社ノ成立前ニ於ケル設立費用例ヘハ定款作成ノ費用ノ如キ株主募集ノ費用ノ
 如キ會社ノ成立前ニ爲スヘキ拂込ヲ爲サシムル費用ノ如キ創立總會ノ招集開會

ノ費用ノ如キ會社ノ目的タル事業ノ設計費用ノ如キ設立ノ爲メ必要ト認ムヘキ費用ハ主タル設立者カ當然平等ノ割合ヲ以テ之ヲ分擔スヘキモノニシテ從タル設立者ニ對シ之カ分擔ヲ求ムルコトヲ得ス若シ會社ノ成立又ハ不成立ノ場合ニ從タル設立者ヲシテ設立費用ヲ負擔セシメントセハ必スヤ特約ヲ以テ其旨ヲ定メサルヘカラス是レ既ニ述ヘタル所ナリ(本章第一節第四款第一項第三及ヒ第二項第三ノ四參照)

(第二) 會社ノ成立後ニ於ケル設立費用ノ負擔者

會社ノ成立後ニ於ケル設立事務ハ既ニ成立シタル會社ノ爲メニ之ヲ執行スルモノナルヲ以テ其設立事務ノ爲メ必要ト認ムヘキ費用ハ會社ニ於テ之ヲ負擔スヘキコト勿論ナルヘシ例ヘハ設立登記ノ費用ノ如キ即チ是レナリ

(第三) 會社ヲシテ設立費用ヲ負擔セシムヘキ限度

會社ハ當然其成立後ニ於ケル設立費用ヲ負擔スヘキモノナルヲ以テ之ヲ負擔セシムヘキ限度如何ニ付テハ深ク論究ノ必要ナシ之ニ反シテ其成立前ニ於ケル設立費用ハ當然會社ノ負擔スヘキモノニ非サルヲ以テ若シ之ヲ負擔セシメント欲

スルトキハ別段ノ規定ヲ設ケ負擔ノ限度ヲ定ムルコトヲ要シ從テ負擔ノ限度ハ之ヲ説明スルノ必要アリ

舊商法ノ規定ニ依レハ株式會社ニ付テノミ會社ノ成立前ニ於ケル設立費用負擔ノ限度ヲ定メ合名會社及ヒ合資會社ニ付テハ會社ノ成立前ニ於ケル設立費用負擔ノ限度ヲ定メ又新商法ノ規定ニ依レハ株式會社及ヒ株式合資會社ニ付テノミ會社ノ成立前ニ於ケル設立費用負擔ノ限度ヲ定メ合名會社及ヒ合資會社ニ付テハ會社ノ成立前ニ於ケル設立費用負擔ノ限度ヲ定メス故ニ茲ニ一定ノ説明ヲ爲スコトヲ得ルモノハ株式會社及ヒ株式合資會社ノ二者ノミナリトス

舊商法ノ規定ニ依レハ株式會社ノ成立前ニ於ケル設立費用ヲ分チテ創業總會前ニ於ケル設立費用即チ舊商法ニ所謂創業ノ爲メ發起人ノ爲シタル契約及ヒ出費ト創業總會後ニ於ケル設立費用ノ二者ト爲シ前者ハ創業總會ノ承認ヲ經タルモノニ限リ會社ノ負擔ニ歸スルモ創業總會ノ承認ヲ經サルモノ及ヒ後者ハ會社ノ負擔ニ歸セス即チ主タル設立者ニ於テ之ヲ負擔スヘキモノト爲シタリ(舊商法第百六十四條第百七十一條第百七十二條及ヒ施行條例第十三條)

又新商法ノ規定ニ依レハ株式會社及ヒ株式合資會社ノ負擔ニ歸スヘキ設立費用
 アルトキハ其額ヲ定款ニ記載セシメ裁判所又ハ創立總會ニ於テ其額ヲ不當ト認
 ムルトキハ之ヲ變更スルコトヲ得セシム故ニ設立費用ヲ會社ノ負擔ニ歸セシム
 ヘキ限度ニ付テハ一ニ定款ニ記載スル所ニ依ラサルヘカラス(新商法第百二十二
 條第五號第百二十四條第百三十五條及ヒ第百三十六條)但定款中會社ノ負擔ニ
 歸セシムヘシト定メタル設立費用ノ額ニハ會社ノ成立後ニ於ケル設立費用ヲ包
 含スルヤ否ヤハ多少ノ疑問ナレトモ會社カ成立後ノ設立費用ヲ負擔スヘキコト
 ハ當然言フヲ俟タサル所ナルヲ以テ定款ニ記載スル設立費用ノ額ニハ之ヲ包含
 セサルモノト認ム

第十四節 經過的規定

舊商法ノ施行前ニ設立シタル會社ハ舊商法ノ規定ニ從ヒテ設立シタルモノニ非
 ス然レトモ之ヲシテ舊商法ノ施行後ニ舊商法ノ規定ニ從ヒ設立シタル會社ト全
 一ノ規定ノ下ニ立タシメントセハ舊商法ト全一趣旨ノ規定ヲ適用スル所アリ以
 テ二者同一ノ狀態ヲ保タシムルコトヲ要ス是レ施行條例カ舊商法ノ施行前ニ設

立シタル會社ノ爲メ經過的規定ヲ設クル所以ナリ

新商法ノ施行前ニ設立シタル會社ニハ舊商法ノ規定ニ從ヒテ設立シタルモノア
 リ然ラサルモノアリ然レトモ之ヲシテ新商法ノ施行後ニ新商法ノ規定ニ從ヒ設
 立シタル會社ト全一ノ規定ノ下ニ立タシメントセハ舊商法ト全一趣旨ノ規定ヲ
 適用スル所アリ以テ二者同一ノ狀態ヲ保タシムルコトヲ要ス假令舊商法ニ定メ
 タル合資會社ノ如ク依然舊商法ノ規定ニ從ハシムルモ尙ホ新商法ト全一趣旨ノ
 規定ヲ適用スル所アリ以テ二者同一ノ狀態ヲ保タシムルノ便宜ナルコトアリ是
 レ施行法カ新商法ノ施行前ニ設立シタル會社ノ爲メ經過的規定ヲ設クル所以ナ
 リ

株式合資會社ハ新商法ノ創設シタル所ニシテ新商法ノ施行前ニ設立シタルモノ
 ナシ故ニ之ニ付テハ經過的規定ヲ要セス殘ル所ハ合名會社、合資會社及ヒ株式會
 社ノ三者ノミ左ニ款ヲ分テテ之ヲ説明スヘシ

第一款 舊商法ノ施行前ニ設立シタル合名會社及ヒ

合資會社ノ經過的規定

第二編 會社 第四章 會社ノ設立 第十四節 經過的規定 第一款 舊商法ノ
 施行前ニ設立シタル合名會社及ヒ合資會社ノ經過的規定

舊商法ノ規定ニ依レハ合名會社及ヒ合資會社ハ一定ノ方式ヲ具備シタル書面契約ニ因リテノミ之ヲ設立スルコトヲ得ルモノナリト雖モ舊商法ノ施行前ニ在リテハ此ノ如キ規定ナシ故ニ舊商法ノ施行前ニ設立シタル合名會社及ヒ合資會社ニハ總社員ノ連署シタル會社契約書ヲ作ラサルモノアルヘシ然レトモ此等ノ會社ハ舊商法ノ施行ニ拘ハラヌ設立ノ効力ヲ有シ敢テ其存續ヲ失フコトナシ(施行條例第十九條及ヒ舊商法第七十七條第一項第三百三十七條)

第二項 登記

舊商法ノ施行前ニ於テハ設立ノ登記ニ關スル規定ナキヲ以テ舊商法ノ施行前ニ設立シタル會社ハ設立ノ登記及ヒ公告ヲ受ケサルモ尙ホ第三者ニ對シテ會社タルノ効力ヲ有スヘク又設立ノ登記ヲ爲サ、ルモ事業ニ着手スルコトヲ得ヘシ而シテ舊商法ノ規定ニ依レハ會社ノ設立ハ適當ナル登記及ヒ公告ヲ受クルニ非サレハ第三者ニ對シテ會社タル効ナキモノナレトモ此規定ハ舊商法ノ施行後ニ設立シタル會社ニノミ適用セラレ從テ舊商法ノ施行前ニ設立シタル會社ヲシテ第

三者ニ對シ會社タルノ効ヲ失ハシムルコトナシ故ニ施行條例ハ舊商法ノ施行前ニ設立シタル合名會社及ヒ合資會社ニ對シ一定ノ期間内ニ一定ノ地ニ於テ登記ヲ爲スコトヲ命シ若シ之ヲ爲サ、ルトキハ(第一)業務擔當社員ヲ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處シ(第二)地方裁判所ノ命令ヲ以テ其會社ノ營業ヲ差止メ(但其命令ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得)(第三)將來第三者ニ對シテ會社タルノ効ヲ失フモノト爲シタリ(施行條例第五條乃至第七條及ヒ舊商法第六十九條第七十八條第八十一條第三百三十七條第三百三十八條第二百五十六條第一號)

(第一) 登記ヲ爲スヘキ地

施行條例ノ規定ニ依ル登記ハ其他ノ登記ト全シク會社ノ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ之ヲ受クヘキモノトス(施行條例第五條及ヒ舊商法第七十九條第三百三十七條)

(第二) 登記ヲ爲スヘキ時期

施行條例ノ規定ニ依ル登記ヲ爲スコトヲ得ヘキ始期ハ舊商法及ヒ施行條例施行ノ日(即チ明治二十六年七月一日)ニシテ登記ヲ爲スコトヲ要スル終期ハ始期ヨリ

第二編 會社 第四章 會社ノ設立 第十四節 經商會社ノ規定 第一款 舊商法ノ施行前ニ設立シタル合名會社及ヒ合資會社ノ經商會社ノ規定

六ヶ月ナリトス而シテ登記ヲ爲スコトヲ要スル終期マテニ登記ヲ受ケサルトキハ爾後登記ヲ受クルコトヲ得サルヤ否ヤハ一ノ問題ナレトモ我輩ハ之ヲ受クルコトヲ得ヘク若シ之ヲ受ケタルトキハ將來ニ向テ營業ノ差止ヲ解キ且第三者ニ對シテ會社タルノ效ヲ生スルモノト解スルヲ穩當ナリト信ス(施行條例第五條及ヒ第六條)

(第三) 登記ヲ爲スベキ事項

施行條例ハ合資會社ニ付テハ登記ヲ爲スヘキ事項ヲ指示シタルニモ拘ハラス合名會社ニ付テハ登記ヲ爲スヘキ事項ヲ指示セス然レトモ設立ノ登記ト全一ノ事項ヲ登記スルノ趣旨ナルコト勿論ナルヘシ(施行條例第五條)尙ホ此登記ヲ爲スヘキ事項ニ付テハ本章第十節第四款ヲ參觀スヘシ

第二款 舊商法ノ施行前ニ設立シタル株式會社ノ

經過的規定

舊商法ノ施行後ニ設立スル株式會社ハ政府ヨリ設立ノ免許ヲ受クルニ非サレハ設立ノ效力ヲ生セスト雖モ舊商法ノ施行前ニ設立シタル株式會社ハ當然其成立

ヲ認許セラレ舊商法ノ施行後ニ舊商法第五十六條ノ規定ニ依ル設立ノ免許ヲ受クルコトヲ要セス然レトモ第一ニ定款ノ認可ヲ受クルコトヲ要シ(但例外アリ) 第二ニ登記ヲ受クルコトヲ要ス(施行條例第十條第一項)

第一項 定款ノ認可

(第一) 認可ヲ受クヘキ會社

舊商法ノ施行前ニ設立シタル株式會社ハ定款ノ認可ヲ受クルコトヲ要スルヲ通例トス然レトモ舊商法ノ施行前ニ設立シタル株式會社ニシテ尙ホ定款ノ認可ヲ受クルコトヲ要セサルモノアリ舊商法ノ施行前ニ官許ヲ得テ設立シタル株式會社是レナリ(施行條例第十條第二項及ヒ第三項)

官許ヲ得テ設立シタル株式會社トハ其當時ニ於ケル主務官廳ノ許可若シクハ免許ヲ得又ハ願ノ趣聞届ケ若シクハ聽許認許ストノ指令ヲ得テ設立シタルモノヲ指ス然レトモ主務官廳ヨリ單ニ聞置又ハ人民ノ相對ニ任ス等ノ指令ヲ得テ設立シタルモノヲ包含セス施行條例ハ特ニ明文ヲ以テ此旨ヲ指示シタリ(施行條例第十條第三項)

第二編 會社 第四章 會社ノ設立 第十四節 經過的規定 第二款 舊商法ノ施行前ニ設立シタル株式會社ノ經過的規定

(第二) 認可ヲ與フヘキ官廳

認可ヲ與フヘキ官廳ハ主務省是レナリ此主務省ノ解釋ニ付テハ本章第七節第二
款ヲ參觀スヘシ(施行條例第十條第二項)

(第三) 認可ヲ受クルコトヲ得ル定款及ヒ認可ヲ受クルコトヲ得サル定款
如何ナル定款ハ認可ヲ受クルコトヲ得ヘキカ又如何ナル定款ハ認可ヲ受クルコ
トヲ得サルカ前者ニ付テハ施行條例中何等ノ明言スル所ナキモ後者ニ付テハ法
文ヲ以テ之ヲ指示シタリ

施行條例ノ規定ニ依レハ定款ニ法律命令ニ反スル事ヲ掲ケタルモノハ認可ヲ受
クルコトヲ得サルモノトス從テ舊商法ノ規定ニ反スル事ヲ掲ケタル定款モ亦認
可ヲ受クルコトヲ得サルモノトス(施行條例第十條第二項但書但此點ニ付テハ例
外アリ即チ

一、定款ニ定メタル株式ノ金額カ舊商法第七十五條ノ規定ニ反スルモ妨ケ
ナシ(施行條例第十一條)

二、定款ニ定メタル第一回ノ拂込ノ金額カ舊商法第六十七條第二項ノ規定

ニ反スルモ妨ケナシ(施行條例第十二條)

三、定款ニ定メタル株主ノ議決權ノ制限カ舊商法第二百四條ノ規定ニ反スル

モ妨ケナシ(施行條例第十八條)

以上述ヘタル所ニ依リ認可ヲ受クルコトヲ得サル定款ハ之ニ改正ヲ加ヘ法律命
令ニ反セサラシムルコトヲ要スルモノトス

(第四) 認可ヲ受クヘキ時期

定款ノ認可ハ舊商法施行ノ日ヨリ之ヲ受クルコトヲ得ヘク其日ヨリ六个月内ニ
認可ヲ受クルコトヲ要ス即チ認可ヲ受クヘキ時期ハ舊商法施行ノ日(明治二十六
年七月一日)ヨリ始マリ六個月ヲ經過スルコトニ因リテ終了ス

(第五) 認可ヲ受クル手續

會社カ定款ノ認可ヲ受クルニハ地方長官ヲ經由シテ定款ヲ主務省ニ差出シ其認
可ヲ請フヘキモノトス主務省ハ其定款ヲ審査シ認可ヲ與フヘキモノト認ムルト
キハ之ヲ認可シ認可ヲ與フヘカラサルモノト認ムルトキハ更ニ之ヲ改正セシメ
タル上認可ヲ與フルモノトス(施行條例第十條第二項)

第二編 會社 第四章 會社ノ設立 第十四節 經過的規定
第二款 舊商法ノ施行前ニ設立シタル株式會社ノ經過的規定

(第六) 認可ノ效力

定款ノ認可ノ效力ニ付テハ施行條例中何等ノ規定スル所ナシ蓋シ本款第二項ノ登記ヲ受クルコトヲ得ルコトカ其效力ノ重要ナルモノナルヘシ(施行條例第十條第四項)

(第六) 認可ノ失効

定款ノ認可ヲ得タル日ヨリ起算シテ六个月内ニ本款第二項ノ登記ヲ受ケサルトキハ當然認可ノ效力ヲ失フモノトス(施行條例第十條第五項)但此認可ノ效力ヲ失ヒタル結果如何ニ至リテハ施行條例ノ規定セサル所ナリ

(第七) 認可ヲ受ケサル效果

定款ノ認可ヲ受クヘキ會社ニシテ法定ノ期間内ニ其認可ヲ受ケサルトキハ如何ナル效果ヲ生スルヤ定款ノ認可ヲ受ケサルトキハ本款第二項ノ登記ヲ受クルコトヲ得サルハ勿論ナリト雖モ之カ爲メ本款第二項ノ登記ヲ受ケサル場合ト全シク過料ノ制裁ヲ適用シ事業ヲ差止め第三者ヲシテ會社ノ成立ヲ否認スルコトヲ得セシムヘキカハ施行條例ノ解釋上疑ヲ存スル所ナリ(施行條例第五條第六條及

ヒ第十條

第二項 登記

舊商法ノ施行前ニ設立シタル株式會社ハ舊商法ノ施行前ニ設立シタル合名會社及ヒ合資會社ト全シク設立ノ登記及ヒ公告ヲ受ケサルモ尙ホ第三者ニ對シテ會社タルノ效力ヲ有スヘク又設立ノ登記ヲ爲サ、ルモ事業ニ着手スルコトヲ得ヘク又設立ノ登記ヲ爲サ、ルモ其會社ノ株式ヲ讓渡スコトヲ得ヘシ又創業ニ付テノ義務及ヒ出費ニシテ會社ノ承認ヲ經タルモノハ登記ニ拘ハラズ會社ニ於テ之ヲ負担スヘキモノトス(舊商法第六十九條第八十一條第七十條第七十一條第一百八十條及ヒ施行條例第六條第七條第十三條第十六條)

然レトモ舊商法ノ施行前ニ設立シタル株式會社ハ施行條例ノ規定ニ依リ一定ノ期間内ニ登記ヲ受クルコトヲ要シ敢テ其定款ノ認可ヲ受クヘキモノナルト否トヲ問フコトナシ而シテ若シ此登記ヲ受ケサルトキハ(第一)取締役ヲ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處シ(第二)地方裁判所ノ命令ヲ以テ其會社ノ營業ヲ差止め(但其命令ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得)(第三)將來第三者ニ對シテ會社タルノ效力ヲ

第二編會社 第四章會社ノ設立 第十四節 經營的規定
第二款 舊商法ノ施行前ニ設立シタル株式會社ノ經營的規定

失フモノトス(施行條例第五條乃至第七條及ヒ舊商法第八十一條第百六十八條第百七十條後段第二百五十六條第一號)

(第一) 登記ヲ爲スヘキ地

施行條例ノ規定ニ依ル登記ハ何レノ地ニ於テ之ヲ受クヘキカニ付キ何等ノ明文ナシ施行條例第五條(蓋シ設立ノ登記ニ付テハ支店ノ所在地ニ於テモ亦登記ヲ受クヘキ旨ノ明文アルニモ拘ハラズ之ヲ準用セザリシハ非常ノ不注意ト謂フヘシ(舊商法第百六十九條))

(第二) 登記ヲ爲スヘキ時期

施行條例ノ規定ニ依ル登記ヲ爲スコトヲ得ヘキ時期ハ定款ノ認可ヲ受クヘキ株式會社ト定款ノ認可ヲ受クルコトヲ要セサル株式會社トノ間ニ差異アリ即チ定款ノ認可ヲ受クヘキ會社ハ其認可ヲ受ケタル日ヨリ登記ヲ受クルコトヲ得ヘク其日ヨリ六个月内ニ登記ヲ受クルコトヲ要ス(若シ之ヲ受ケサルトキハ認可ノ效力ヲ失フ之ニ反シテ定款ノ認可ヲ受クルコトヲ要セサル會社ハ舊商法施行ノ日ヨリ登記ヲ受クルコトヲ得ヘク其日ヨリ六个月内ニ登記ヲ受クルコトヲ要スル

モノトス(施行條例第五條及ヒ第十條第四項)

定款ノ認可ヲ受クヘキ會社ニ在リテハ登記ヲ爲スヘキ終期マテニ登記ヲ受ケサルトキハ認可ノ效力ヲ失ヒ從テ登記ヲ受クルコトヲ得サルニ至ルモ定款ノ認可ヲ受クルコトヲ要セサル會社ニ在リテハ登記ヲ爲スヘキ終期ヲ經過シタル後モ尙ホ登記ヲ受クルコトヲ得ヘキモノナルヘシ(施行條例第五條第六條及ヒ第十條第五項)

此他施行條例ニ依ル登記ハ第一回ノ拂込アリタル後ニ非サレハ之ヲ受クルコトヲ得サルヤ否ヤ施行條例中何等ノ規定ナシ故ニ解釋上ノ一疑問ナリト謂ハサルヘカラス

(第三) 登記ヲ爲スヘキ事項

施行條例ノ規定ニ依ル登記モ亦設立ノ登記ト同一ノ事項ノ登記ヲ受クヘキモノトス(施行條例第五條)但舊商法ノ施行前ニ設立シタル株式會社ニハ設立免許ノ年月日ナキコトアリ此場合ニ於テハ之ヲ登記スルコトヲ得サルハ勿論ナルヲ以テ定款ノ認可ヲ受ケタル年月日ヲ登記スヘキモノナラン尙ホ此登記ヲ爲スヘキ事

第二編 會社 第四章 會社ノ設立 第十四節 經濟的規定
第二款 舊商法ノ施行前ニ設立シタル株式會社ノ經濟的規定

項ニ付テハ本章第十節第四款ヲ參觀スヘシ(舊商法第六十八條第二項)

(第四) 登記ヲ爲スノ續

會社カ施行條例ニ依ル登記ヲ受クルニハ定款及ヒ設立免許書又ハ定款認可書ヲ添ヘテ之ヲ裁判所ニ申請スルコトヲ要シ裁判所ハ會社ヨリ差出シタル書類ヲ登記簿ニ添ヘテ保存スヘキモノトス是レ施行條例ノ規定スル所ナリ(施行條例第五條及ヒ舊商法第六十八條第一項第三項)

第三款 新商法ノ施行前ニ設立シタル合名會社ノ

經過的規定

新商法ノ施行前ニ設立シタル合名會社ニシテ未タ設立ノ登記ヲ爲サ、ルモノハ施行法ノ規定ニ從ヒテ定款ヲ作り且登記ヲ爲スコトヲ要スルコトハ本章第八節第七款及ヒ第十一節第一款ニ之ヲ説明シタリ依テ茲ニハ新商法ノ施行前ニ設立シタル合名會社ニシテ既ニ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタルモノ、經過的規定ヲ説明スヘシ

新商法ノ施行前ニ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル合名會社ハ新商法

ノ規定ニ從ヒテ定款ヲ作ルコトヲ要セス又新商法ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ爲スコトヲ要セス然レトモ施行法ノ規定ニ從ヒ一定ノ期間内ニ一定ノ事項ヲ登記スルコトヲ要シ若シ此登記ヲ爲スコトヲ怠タリタルトキハ業務執行社員ヲ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處スルモノトス(施行法第二十五條及ヒ第二十七條)

(第三) 登記ヲ爲スヘキ地

施行法ノ規定ニ依ル登記ハ其他ノ登記ト全シク會社ノ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スヘキモノトス(施行法第二十五條)然レトモ新商法ノ施行前ニ支店ノ所在地ニ於テ未タ設立ノ登記ヲ爲サ、ルトキハ其支店ノ所在地ニ於テハ一面舊商法ノ規定ニ從ヒテ設立ノ登記ヲ爲シ他面施行法第二十五條ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ爲スヘキヤ將タ又新商法ノ規定ニ從ヒテ設立ノ登記ヲ爲スヘキヤ施行法第二十二條ノ規定ニ牽聯スル解釋上ノ一疑問ナリ

此他新商法ノ施行前本店又ハ支店ヲ移轉シ若シクハ新ニ支店ヲ設ケタルカ爲メ其所在地ニ於テ全ク登記ヲ爲サ、リシ場合ニハ施行法第二十六條ノ規定ニ依ル登記ヲ爲スヘキモノニシテ施行法第二十五條ノ規定ニ依ル登記ヲ爲スヘキモノ

第二屆會社 第十四節 經過的規定
第三款 新商法ノ施行前ニ設立シタル合名會社ノ經過的規定

ニ非ス

(第二) 登記ヲ爲スヘキ時期
施行法ノ規定ニ依ル登記ハ新商法施行ノ日即チ施行法施行ノ日ヨリ之ヲ爲スコトヲ得ヘク其日ヨリ起算シテ一个月内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス(施行法第二十五條)但新商法施行ノ日ヨリ一个月ヲ經過シタル後ニモ尙ホ此登記ヲ爲スコトヲ得ルヤ否ヤハ解釋上ノ一疑問ナレトモ我輩ハ登記ヲ爲スコトヲ得ルモノト信ス
(第三) 登記ヲ爲スヘキ事項

施行法ノ規定ニ依リ登記ヲ爲スヘキ事項ハ登記ヲ爲スヘキ地カ本店ノ所在地ナルト然ラサルトニ因リテ異ナル即チ

第一 本店ノ所在地ニ於テハ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

一、支店

二、社員ノ出資ノ種類

三、社員ノ出資中財産ヲ目的トスル出資ノ價格

若シ支店ナキトキハ之ヲ登記スルコトヲ要セサルハ勿論ナルヘシ如何ナル

場合ニ於テモ之ヲ登記スルコトヲ要スルモノ、如ク規定シタルハ多少穩當ヲ缺ク所アリト謂ハサルヘカラス

第二 支店アルトキハ其支店ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

一、本店

二、他ノ支店

三、社員ノ出資ノ種類

四、社員ノ出資中財産ヲ目的トスル出資ノ價格

若シ本店ト支店トカ全一登記所ノ管轄區域内ニ在ルトキハ各別ニ登記ヲ爲スコトヲ要セス第一ニ述ヘタル所ニ從ヒ唯タ一個ノ登記ヲ爲スヲ以テ足ル又支店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲ストキト雖モ他ニ支店ナキトキハ之ヲ登記スルコトヲ要セサルハ勿論ナルヘシ如何ナル場合ニ於テモ他ノ支店ヲ登記スルコトヲ要スルモノ、如ク規定シタルハ多少穩當ヲ缺ク所アリト謂ハサルヘカラス(以上施行法第二十五條)

明治二十三年十月司法省令第八號第十條第三項ノ規定ニ依レハ合名會社ノ支店

第二編 會社 第四節 會社ノ設立 第十四節 經過的規定
第三款 新商法ノ施行前ニ設立シタル合名會社ノ經過的規定

所在地ニ於ケル登記用紙ノ豫備欄ニハ本店ノ業跡商號營業所ヲ登記スヘキモノトス此規定ニ依ル登記ハ前記施行法ノ規定ニ依ル登記ト如何ナル關係ヲ有スルカ多少ノ疑問ナリ元來此司法省令第十條第三項ノ規定ハ舊商法ノ規定ヲ誤解シタルモノナリト雖モ既ニ命令トシテ制定セラレタル以上ハ其誤解タルノ故ヲ以テ一旦爲シタル登記ノ效力ヲ失フコトナカルヘシ施行法其他ノ法令ハ何故司法省令第十條第三項ノ規定ニ依ル登記ヲ抹消スヘキコトヲ命セザリシカ我輩ノ解スル能ハサル所ナリ

又舊商法ノ規定ニ依レハ解散ノ事由ヲ定メタルトキト雖モ之ヲ登記スルコトヲ要セス然レトモ新商法ノ施行後ハ之ヲ登記セシムルノ必要ナキカ我輩ハ其必要アルヲ信スルト共ニ施行法第二十五條ノ規定ハ此點ニ於テ甚タ不完全ナルヲ認ム

(第四) 登記ヲ爲ス手續

施行法ノ規定ニ依ル登記ヲ申請スル手續ニ付テハ非訟事件手續法中何等ノ規定スル所ナシ從テ設立ノ登記ト全シク總社員ヨリ之ヲ申請スヘキカ將ク又變更ノ

登記ト全シク會社ヲ代表スヘキ總社員ヨリ之ヲ申請スヘキカノ疑アルノミナラス其申請書ニハ如何ナル書類ヲ添付スルコトヲ要スルカノ疑アリ(非訟事件手續法第七十九條第一項及ヒ第八十條第一項)

施行法ノ規定ニ依ル登記ハ從來ノ登記簿ニ之ヲ爲スヘキモノトス若シ其登記スヘキ事項ニ付キ從來ノ登記用紙中之ヲ登記スヘキ相當ノ欄ナキトキハ變更欄ニ其登記ヲ爲スヘキモノトス(商業登記取扱手續第四十九條)

第四款 新商法ノ施行前ニ設立シタル合資會社ノ

經過的規定

新商法ノ施行前ニ設立シタル合資會社ニ對シテハ舊商法ノ規定ヲ適用スルヲ以テ原則トス從テ新商法ノ施行前ニ未タ設立ノ登記ヲ爲サル場合ニ於テハ舊商法ノ規定ニ從ヒテ設立ノ登記ヲ爲スコトヲ要シ合名會社ノ如ク施行法ノ規定ニ從ヒテ定款ヲ作り且登記ヲ爲スコトヲ要セス(施行法第三十八條第一項)

然レトモ施行法ハ合名會社ニ關スル全第二十五條乃至第二十七條ノ規定ヲ新商法ノ施行前ニ設立シタル合資會社ニ準用シタリ其結果一定ノ期間内ニ一定ノ事

第二編 會社 第十四章 會社ノ設立 第十四節 經過的規定
第四款 新商法ノ施行前ニ設立シタル合資會社ノ經過的規定

項ヲ登記スルコトヲ要シ若シ此登記ヲ爲スコトヲ怠タリタルトキハ業務執行社員ハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラル、ニ至レリ(施行法第三十八條第二項第二十五條及ヒ第二十七條此準用タルヤ極メテ明瞭ヲ缺キ議論ノ種子タルモノ甚タ多シ我輩ハ左ニ逐一之ヲ論究スヘシ

(第一) 登記ヲ爲スヘキ會社

施行法ノ規定ニ依ル登記ヲ爲スヘキ合資會社ハ新商法ノ施行前ニ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタルモノ、ミニ限ルヤ否ヤ施行法ノ規定ハ此點ニ付キ何等ノ明言スル所ナキヲ以テ合名會社ト全シク新商法ノ施行前ニ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル者ノミニ限ルト論決セサルヘカラサルカ如シ然レトモ我輩ハ立法ノ趣旨ヨリ觀察シテ却テ反對ノ論決ヲ下サントス即チ新商法ノ施行前ニ設立ノ登記ヲ爲サ、ル合名會社カ施行法第二十五條ノ規定ニ依ル登記ヲ爲スコトヲ要セサルハ施行法第二十四條ノ規定ニ依ル登記ヲ爲スカ爲メナリ新商法ノ施行前ニ設立ノ登記ヲ爲サ、ル合資會社ノ如ク施行法第二十四條ノ規定ニ依ル登記ヲ爲サス却テ舊商法ノ規定ニ依ル登記ヲ爲スモノニ在リテハ勿論

施行法第二十五條ノ規定ニ依ル登記ヲ爲サ、ルヘカラスト

(第二) 登記ヲ爲スヘキ地

施行法ノ規定ニ依ル登記ハ其他ノ登記ト全シク會社ノ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スヘキモノトス(施行法第三十八條第二項及ヒ第二十五條若シ支店ノ所在地ニ於テ未タ設立ノ登記ヲ爲サ、ルトキハ其支店ノ所在地ニ於テ一面舊商法ノ規定ニ從ヒテ設立ノ登記ヲ爲シ他而施行法第二十五條ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ爲スヘク又設立ノ登記ヲ爲シタル後新商法ノ施行前ニ支店ヲ設ケ又ハ本店若シクハ支店ヲ移轉シタルトキハ其本店又ハ支店ノ所在地ニ於テ一面施行法第二十六條ノ規定ニ依ル登記ヲ爲シ他而施行法第二十五條ノ規定ニ依ル登記ヲ爲スヘキモノトス是レ新商法ノ施行前ニ設立シタル合名會社ト異ナル所ナリ

(第三) 登記ヲ爲スヘキ時期

施行法ノ規定ニ依ル登記ハ新商法施行ノ日即チ施行法施行ノ日ヨリ之ヲ爲スコトヲ得ヘク其日ヨリ起算シテ一ヶ月内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス(施行法第三十八條第二項及ヒ第二十五條但新商法施行ノ日ヨリ一个月ヲ經過シタル後ニモ尙ホ此

第二編 合社 第四章 合社ノ設立 第十四節 經過的規定
第四款 新商法ノ施行前ニ設立シタル合資會社ノ經過的規定

登記ヲ爲スコトヲ得ルヤ否ヤハ解釋上ノ一疑問ナレトモ我輩ハ登記ヲ爲スコトヲ得ルモノト信ス

(第四) 登記ヲ爲スヘキ事項

施行法ノ規定ニ依リ登記ヲ爲スヘキ事項ハ登記ヲ爲スヘキ地カ本店ノ所在地ナルト然ラサルトニ因リテ異ナル即チ

第一、本店ノ所在地ニ於テハ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

一、支店

二、社員ノ出資ノ種類

三、社員ノ出資中財産ヲ目的トスル出資ノ價格

若シ支店ナキトキハ之ヲ登記スルコトヲ要セサルヘク又舊商法ノ規定ニ依リ金錢ヲ目的トスル出資ノ額ヲ登記シアル場合ニ於テハ更ニ之ヲ登記スルコトヲ要セサルコト勿論ナルヘシ

第二、支店アルトキハ其支店ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

一、本店

二、他ノ支店

三、社員ノ出資ノ種類

四、社員ノ出資中財産ヲ目的トスル出資ノ價格

若シ本店ト支店トカ全一登記所ノ管轄區域内ニ在ルトキハ第一ニ述ヘタル所ニ從ヒ唯タ一個ノ登記ヲ爲スノミヲ以テ足ルヘク又支店ノ所在地ニ於テ別ニ登記ヲ爲ストキト雖モ他ノ支店ナキトキハ之ヲ登記スルコトヲ要セサルヘク又舊商法ノ規定ニ依リ金錢ヲ目的トスル出資ノ額ヲ登記シアルトキハ更ニ之ヲ登記スルコトヲ要セサルヘシ(以上施行法第二十五條)

舊商法ノ規定ニ依レハ解散ノ事由ヲ定メタルトキト雖モ之ヲ登記スルコトヲ要セス然レトモ新商法ノ施行後ニ設立シタル會社ヲシテ之ヲ登記セシムル以上ハ其以前ニ設立ノ登記ヲ爲シタル會社ニ付テモ亦之ヲ登記セシムルノ必要アリ施行法第二十五條ノ規定茲ニ及ハサリシハ其缺點ナルヲ免カレス

又明治二十三年十月司法省令第八號第十條第三項ノ規定ニ依レハ合資會社ニ本店及ヒ支店アルトキハ其支店ノ所在地ニ於テハ資本ノ總額トシテ支店ノ資本ノ

第二編 會社 第四章 會社ノ設立 第十四節 經過的規定
第四款 新商法ノ施行前ニ設立シタル合資會社ノ舊商法的規定

總額ヲ登記シ會社ノ資本ノ總額ハ之ヲ登記用紙ノ豫備欄ニ登記スヘキモノト爲
 ス是レ舊商法ノ誤解ニ出テタルモノナリト雖モ既ニ其誤解ナルコト明瞭ト爲リ
 タル以上ハ之ヲ匡正シ支店ノ所在地ニ於テモ亦資本ノ總額トシテ會社ノ資本ノ
 總額ヲ登記セシメ豫備欄ニ於ケル資本總額ノ登記ハ之ヲ抹消セシムルコトヲ要
 ス施行法第二十五條ノ規定玆ニ及ハサルハ亦其缺點ノ一タルヲ免カシス
 又右司法省令第十條第三項ノ規定ニ依レハ合資會社ノ支店ノ所在地ニ於ケル登
 記用紙ノ豫備欄ニハ本店ノ業號商號營業所ヲ登記スヘキモノト爲ス是レ亦舊商
 法ノ誤解ニ出テタルモノニシテ既ニ施行法第二十五條ノ規定アル以上ハ宜シク
 此規定ニ依ル登記ヲ抹消セシメサルヘカラス然ルニ施行法ノ規定玆ニ及ハサリ
 シハ其缺點ノ一タルヲ免カレシ

(第四) 登記ヲ爲ス手續

施行法ノ規定ニ依ル登記ヲ申請スル手續ニ付テハ非訟事件手續法中何等ノ規定
 スル所ナシ從テ何人ヨリ之ヲ申請スヘキカ又其申請書ニハ如何ナル書類ヲ添附
 スルコトヲ要スルカハ疑アリ(非訟事件手續法第八十五條第八十六條第七

十九條第一項及ヒ第八十條第一項)

施行法ノ規定ニ依ル登記ハ從來ノ登記簿ニ之ヲ爲スヘキモノトス若シ其登記ス
 ヘキ事項ニ付キ從來ノ登記用紙中之ヲ登記スヘキ相當ノ欄ナキトキハ變更欄ニ
 其登記ヲ爲スヘキモノトス(商業登記取扱手續第四十九條)

第五款 新商法ノ施行前ニ設立シタル株式會社ノ

經過的規定

新商法ノ施行前ニ設立シタル株式會社ニシテ未タ設立ノ登記ヲ爲サ、ルモノハ
 施行法ノ規定ニ從ヒテ定款ヲ變更シ且登記ヲ爲スコトヲ要スルコトハ本章第八
 節第六款及ヒ第十一節第二款ニ之ヲ説明シタリ依テ玆ニハ新商法ノ施行前ニ設
 立シタル株式會社ニシテ既ニ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタルモノ、
 經過的規定ヲ説明スヘシ

第一項 定款ノ變更

新商法ノ施行前ニ設立シタル株式會社ニシテ既ニ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登
 記ヲ爲シタルモノハ施行法第四十六條ノ規定ニ依リテ定款ヲ變更スルコトヲ要

第二編會社 第四章會社ノ設立 第十四節 經過的規定
 第五款 新商法ノ施行前ニ設立シタル株式會社ノ經過的規定

モサルモ施行法第五十一條ノ規定ニ依リテ定款ヲ變更スルコトヲ要ス即チ其定款ニ新商法第二十條第一號乃至第七號ニ掲ケタル事項ヲ定メサルモノハ新商法施行ノ日ヨリ三個月内ニ其定款ヲ變更シ新商法第二十條第一號乃至第七號ニ掲ケタル事項ヲ定ムルコトヲ要シ若シ此定款ノ變更ヲ爲スコトヲ怠リタルトキハ其取締役ハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラル、モノトス施行法第五十四條)

此他新商法ノ施行前ニ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル株式會社カ目的タル事業ノ性質ニ依リ其登記後二年以上開業ヲ爲スコト能ハサルモノト認ムルトキハ新商法ノ施行後ニ其定款ヲ變更シ開業ヲ爲スニ至ルマテ一定ノ利息(但其利率ハ法定利率即チ年五分ヲ超ユルコトヲ得ス)ヲ株主ニ配當スヘキコトヲ定ムルコトヲ得ヘシ施行法第七十五條第一項及ヒ新商法第九十六條第一項但此定款ノ變更ハ會社ノ任意ニ屬スルヲ以テ一定ノ期間内ニ之ヲ爲スコトヲ要セス假令之ヲ爲サルモ取テ制裁ヲ受クルコトナク唯タ株主ニ利息ヲ配當スルコトヲ得サルノミ

終リニ臨ミテ一言スヘキハ定款ヲ變更シ開業前株主ニ利息ヲ配當スヘキ旨ヲ定メタル場合ノ效果是ナリ此場合ニ本款第二項ニ述フル所ノ裁判上ノ認可ヲ得本款第三項ニ述フル所ノ登記ヲ爲シタルトキハ其效果ハ會社ノ債權者ニ及ヒ假令其定款ノ變更前ニ債權ヲ取得シタル者ト雖モ之ニ基ツク利息ノ配當ニ付キ異議ヲ述フルコトヲ得サルモノトス

第二項 裁判上ノ認可

新商法ノ施行前ニ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル株式會社カ其目的タル事業ノ性質ニ依リ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル後二年以上開業ヲ爲スコト能ハサルモノト認ムルトキハ新商法ノ施行後定款ヲ變更シ開業ヲ爲スニ至ルマテ一定ノ利息ヲ配當スヘキコトヲ定ムルコトヲ得ヘシ此場合ニ於テハ其事項ノ登記ヲ爲スノ前會社ノ本店所在地ノ地方裁判所ヨリ右定款ノ規定ニ付キ認可ヲ受クルコトヲ要ス施行法第七十五條第一項第二項及ヒ新商法第九十六條第二項)

此裁判上ノ認可ニ付テハ新商法ノ規定ニ依ル裁判上ノ認可ト異ナル所ナキヲ以

第二編會社 第四章會社ノ設立 第十四節 經過的規定
第五款 新商法ノ施行前ニ設立シタル株式會社ノ經過的規定

テ宜シク本章第八節第四款ヲ參觀スヘシ

第三項 登記

新商法ノ施行前ニ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル株式會社ハ新商法
又ハ施行法ノ規定ニ從ヒテ設立ノ登記ヲ爲スコトヲ要セスト雖モ施行法ノ規定
ニ從ヒ一定ノ期間内ニ一定ノ事項ヲ登記スルコトヲ要シ若シ此登記ヲ爲スコト
ヲ怠タリタルトキハ取締役ヲ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處スルモノトス(施行
法第五十二條第五十四條及ヒ第七十五條第二項第三項)

(第一) 登記ヲ爲スヘキ地

施行法ノ規定ニ依ル登記ハ其他ノ登記ト全シク會社ノ本店及ヒ支店ノ所在地ニ
於テ之ヲ爲スヘキモノトス(施行法第五十二條及ヒ第七十五條第二項)然レトモ新
商法ノ施行前ニ支店ノ所在地ニ於テ未タ設立ノ登記ヲ爲サ、ルトキハ其支店ノ
所在地ニ於テハ一面舊商法ノ規定ニ從ヒテ設立ノ登記ヲ爲シ他面施行法第五十
二條ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ爲スヘキヤ將タ又新商法ノ規定ニ從ヒテ設立ノ登記
ヲ爲スヘキヤ施行法第五十二條ノ規定ニ牽聯スル解釋上ノ一疑問ナリ

此他新商法ノ施行前本店又ハ支店ヲ移轉シ若シクハ新ニ支店ヲ設ケ其所在地ニ
於テ全ク登記ヲ爲サ、リシ場合ニ於テハ施行法第九十一條及ヒ第二十六條ノ規
定ニ依ル登記ヲ爲スヘキモノニシテ施行法第五十二條ノ規定ニ依ル登記ヲ爲ス
ヘキモノニ非ス

(第二) 登記ヲ爲スヘキ時期

施行法第五十二條ノ規定ニ依ル登記ハ新商法施行ノ日即チ施行法施行ノ日ヨリ
之ヲ爲スコトヲ得ヘク其日ヨリ起算シテ三個月内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス(施行法
第五十二條)又施行法第七十五條第二項ノ規定ニ依ル登記ハ本款第二項ニ述ヘタ
ル所ニ依リ裁判上ノ認可ヲ得タル日ヨリ之ヲ爲スコトヲ得ヘク其日ヨリ起算シ
テ二週内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス(施行法第七十五條第二項)而シテ登記ヲ爲スコ
トヲ要スル終期ヲ經過シタル後ニモ尙ホ此等ノ登記ヲ爲スコトヲ得ルヤ否ヤハ
解釋上ノ一疑問ナレトモ我輩ハ登記ヲ爲スコトヲ得ルモノト信ス

(第三) 登記ヲ爲スヘキ事項

施行法第五十二條ノ規定ニ依リ登記ヲ爲スヘキ事項ハ登記ヲ爲スヘキ地カ本店

第二編 會社 第四章 會社ノ設立 第十四節 經過的規定
第五款 新商法ノ施行前ニ設立シタル株式會社ノ經過的規定

ノ所在地ナルト然ラサルトニ因リテ異ナル即チ

第一 本店ノ所在地ニ於テハ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

- 一、支店
- 二、會社カ公告ヲ爲ス方法
- 三、監査役ノ氏名住所

若シ支店ナキトキハ之ヲ登記スルコトヲ要セサルハ勿論ナルヘシ

第二 支店アルトキハ其支店ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

- 一、本店
- 二、他ノ支店
- 三、會社カ公告ヲ爲ス方法
- 四、監査役ノ氏名住所

若シ本店ト支店トカ同一登記所ノ管轄區域内ニ在ルトキハ第一ニ述ヘタル所ニ從ヒ唯タ一個ノ登記ヲ爲スノミヲ以テ足ルヘク又支店ノ所在地ニ於テ別ニ登記ヲ爲ストキト雖モ他ノ支店ナキトキハ之ヲ登記スルコトヲ要セザ

ルヘシ

舊商法ノ規定ニ依レハ解散ノ事由ヲ定メタルトキト雖モ之ヲ登記スルコトヲ要セス然レトモ新商法ノ施行後ニ設立シタル會社ヲシテ之ヲ登記セシムル以上ハ新商法ノ施行前ニ設立ノ登記ヲ爲シタル會社ニ付テモ亦之ヲ登記セシムルノ必要アリ又明治二十三年十月司法省令第八號第十條第三項ノ規定ニ依レハ支店ノ所在地ニ於テハ資本ノ總額トシテ支店ノ資本ノ總額ヲ登記シ會社ノ資本ノ總額ハ之ヲ登記用紙ノ豫備欄ニ登記スヘキモノト爲スモ舊商法ノ誤解ニ出テタルモノナレハ宜シク之ヲ匡正シ資本ノ總額トシテ會社ノ資本ノ總額ヲ登記セシメ豫備欄ニ於ケル資本總額ノ登記ハ之ヲ抹消セシムルノ必要アリ又右司法省令第十條第三項ノ規定ニ依レハ支店ノ所在地ニ於ケル登記用紙ノ豫備欄ニハ本店ノ業轉商號營業所ヲ登記スヘキモノト爲スモ是レ亦舊商法ノ誤解ニ出テタルモノナレハ之ヲ抹消セシムルノ必要アリ施行法第五十二條ノ規定此等ノ點ニ及ハサリシハ其一大缺點ナリト謂フヘシ

之ニ反シテ施行法第七十五條第二項ノ規定ニ依リテ登記ヲ爲スヘキ事項ハ本店

第二編 會社 第四章 會社ノ設立 第十四節 經過前規定 第五款 新商法ノ施行前ニ 四七五
 設立シタル株式會社ノ經過前規定

及ヒ支店ノ所在地ニ共通ノモノニシテ即チ開業前ニ株主ニ配當スヘキ利息ノ利率是レナリ

(第四) 登記ノ手續

施行法第五十二條及ヒ第七十五條第二項ノ規定ニ依ル登記ヲ申請スル手續ニ付テハ非訟事件手續法中何等ハ規定ナシ從テ何人ヨリ之ヲ申請スヘキカ又其申請書ニハ如何ナル書類ヲ添附スルコトヲ要スルカノ疑アリ(非訟事件手續法第一百八十七條第一項及ヒ第一百八十八條參觀)

施行法ノ規定ニ依ル登記ハ從來ノ登記簿ニ之ヲ爲スヘキモノトス若シ其登記スヘキ事項ニ付キ從來ノ登記用紙中之ヲ登記スヘキ相當ノ欄ナキトキハ變更欄ニ其登記ヲ爲スヘキモノトス(商業登記取扱手續第四十九條)

第五章 會社ノ人格

會社ハ一ノ法人ナリ即チ自然人ニ非スシテ人格ヲ有ス換言スレハ權利ヲ有シ義務ヲ負フコトヲ得抑モ會社ヲ以テ法人ト爲スヤ否ヤニ付テハ各國立法例其軌ヲ

一ニセス或ハ之ニ關シテ何等ノ規定ヲ設ケサルモノアリ或ハ會社カ權利ヲ有シ義務ヲ負フコトヲ得ル旨ヲ認メ以テ間接ニ其法人ナルコトヲ示スモノアリ或ハ直チニ會社ノ法人ナルコトヲ規定スルモノアリ我舊商法ノ如キハ第二ノ主義ニ依リ新商法ノ如キハ第三ノ主義ニ依ル我輩ハ先ツ此點ニ關スル佛蘭西及ヒ獨逸ノ法律如何ヲ述ヘ次ニ我國ノ法制ニ及ホスヘシ

佛蘭西商法ニ於テハ商事會社ノ法人ナルコトヲ規定シタルノ明文ナシト雖モ全國ニ於ケル學說及ヒ裁判例ハ沿革上及ヒ法典ニ於ケル各條ノ規定ノ解釋上ヨリシテ商事會社ノ法人ナルコトヲ論決シ敢テ其間ニ疑ヲ容レサルモノ、如シ獨逸舊商法ニ於テモ亦明文ヲ以テ商事會社ノ法人ナルヤ否ヤヲ決定セスト雖モ合名會社及ヒ合資會社ニ付テハ會社ハ其商號ヲ以テ權利ヲ有シ義務ヲ負ヒ又土地所有權其他ノ物權ヲ取得シ并ニ裁判所ニ出訴シ又ハ出訴セラル、コトヲ得ルモノト爲シ株式會社ニ付テハ會社ハ株式會社トシテ獨立シテ權利ヲ有シ義務ヲ負ヒ又土地所有權其他ノ物權ヲ取得シ並ニ裁判所ニ出訴シ又ハ出訴セラル、コトヲ得ルモノト爲シタリ而シテ學者多クハ此規定ヲ解釋シ合名會社及ヒ合資會

社ハ法人ニ非サルモ株式會社ハ法人ナリト論セリ(獨逸舊商法第百十一條第一項
第百六十四條第一項及ヒ第二百十三條第一項)

我々氏草案ニ於テハ十分獨逸舊商法ノ規定ヲ解セス漫然之ニ摸倣シタルカ爲メ
大ニ曖昧ノ規定ヲ設クルニ至レリ即チ同草案第六十七條前段ニ於テハ商事會社
ハ共同シテ商業ヲ營ムカ爲メニノミ之ヲ設立スルコトヲ得ト規定シ又第七十一
條第一項ニ於テハ各商事會社ハ特別ノ財産ヲ有シ又獨立シテ權利義務ヲ有スル
モノトス殊ニ其商號ヲ以テ金錢ヲ貸借シ動産不動産ヲ取得シ又訴訟ニ付テ原告
又ハ被告ト爲ルコトヲ得ト規定シ且其説明中ニ商事會社ハ法人ニ非サルモ法律
上往々法人ノ如ク看做サル、コトアリト論セリ蓋シロ氏カ獨逸舊商法ノ規定ニ
對シテ如何ナル見解ヲ抱持セシカハ草案ノ説明ニ依リテ之ヲ知ルニ由ナシト雖
モ察スルニ合名會社及ヒ合資會社ヲ法人ト爲サ、ル規定ト株式會社ヲ法人ト爲
シタル規定トヲ混同一視シ一方ニ於テハ非法人主義ニ基ケル合名會社及ヒ合資
會社ニ關スル獨逸舊商法ノ規定ヲ採用シテ之ヲ一般ノ會社ニ及ホシ之ト同時ニ
他方ニ於テハ非法人主義ニ基ケル株式會社ニ關スル規定ヲ採用シテ之ヲ一般ノ

會社ニ及ホシタルモノナルベシ即チ商事會社ハ共同シテ商業ヲ營ム爲メニノミ
之ヲ設立スルコトヲ得トノ規定及ヒ各商事會社ハ其商號ヲ以テ金錢ヲ貸借シ動
産不動産ヲ取得シ又訴訟ニ付テ原告又ハ被告ト爲ルコトヲ得トノ規定ハ合名會
社及ヒ合資會社ニ關スル獨逸舊商法第八十五條第一項第百十一條第一項及ヒ第
百六十四條第一項等ノ規定ヨリ來リ各商事會社ハ獨立シテ權利義務ヲ有スルモ
ノトストノ規定ハ株式會社ニ關スル獨逸舊商法第二百十三條第一項ノ規定ヨリ
來レルモノナリ從テ其規定及ヒ説明中或ハ會社ヲ以テ法人ト爲スモノ、如ク或
ハ會社ヲ以テ法人ト爲サ、ルモノ、如クナルハ素ヨリ當然ナリトス此不確定ナ
ル觀念ハ延テ會社法ノ全部ニ及ヒ遂ニ主義ノ一貫ヲ缺キタルハ實ニ惜ミテモ猶
ホ餘リアリ

然ルニ法律取調委員會ニテハ多少ロ氏草案ニ修正ヲ加ヘタリト雖モ尙ホ其大躰
ニ於テハロ氏草案ヲ採用シ即チ舊商法第六十六條ニ於テハ商事會社ハ共同シテ
商業ヲ營ム爲メニノミ之ヲ設立スルコトヲ得ト規定シ第七十三條ニ於テハ會社
ハ特立ノ財産ヲ所有シ又獨立シテ權利ヲ得義務ヲ負ヒ殊ニ其名ヲ以テ債權ヲ得

債務ヲ負ヒ動産不動産ヲ取得シ又訴訟ニ付キ原告又ハ被告ト爲ルコトヲ得ト規定セリ茲ニ於テ解釋者中二個ノ異說ヲ生シ或ハ商事會社ハ法人ニ非スト論シ或ハ商事會社ハ法人ナリト論スル者アルニ至レリ而シテ會社ヲ法人ナリト論スル者ハ(一)會社ハ獨立シテ權利ヲ得義務ヲ負フトノ舊商法第七十三條ノ規定(二)會社其他ノ法人云々トアル舊商法第十七條第八百二十四條第八百三十條ノ規定及ヒ(三)民事會社ヲ當事者ノ意思ニ因リテ法人ト爲ス場合ニハ會社ニ社名ヲ附シ且其契約ハ商事會社ノ公示ノ爲メニ定メタル法律ノ規定ニ從ヒテ之ヲ公示スルコトヲ要ス但社名ヲ付シ又ハ公示ヲ爲シタルトキハ其會社ヲ法人ト爲ス意思アリト推定ストノ舊民法財産取得編第一百八條ノ規定ヲ援引シテ其論據ト爲シ我輩モ亦之ニ贊成スト雖モ(一)草案者ノ說明(二)舊商法第六十六條ノ規定及ヒ(三)舊商法第七十三條後段ノ規定ヲ以テ根據ト爲ス反對論モ又全然理由ナシトシテ之ヲ排斥スヘカラサルモノアリ其後明治二十六年ノ修正ニ當タリテハ舊商法第七十三條中殊ニ其名ヲ以テ債權ヲ得債務ヲ負ヒ動産不動産ヲ取得シノ一句ヲ削除シタリト雖モ第六十六條ニ修正ヲ加ヘサルカ故ニ會社ノ法人ナルヤ否ヤニ付キ解釋上

疑アルコト依然タリ

新商法ニ於テハ大ニ此等ノ缺點ヲ補ヒ第二編第一章總則ニ於テ會社ノ法人ナルコトヲ明言シ以テ爭ヲ生スルノ餘地ナカラシム(新商法第四十四條第一項)是レ各國立法例上多ク見サル所ニシテ最モ適當ノ規定ナリトス唯々惜ムラクハ新商法カ一方ニ於テ此斬新ノ規定ヲ設ケタルニモ拘ハラス他方ニ於テ會社ヲ法人ト爲サ、ル時代ニ設ケラレタル規定ヲ存スルコトアリ其間主義ノ一貫セサル所ヲ生シタルノ一事是レナリ然レトモ之ヲ以テ會社法カ非法人主義ヨリ法人主義ニ進化スルニ當タリ見ル所ノ一時的現象ニ外ナラストセハ必スシモ深ク咎ムルニ足ラサルヘシ

新商法ハ會社ヲ以テ法人ト爲シタリ故ニ設立者カ會社ヲ法人ト爲スノ意思ヲ有スルト否トヲ問ハス會社ハ當然法人タルヘキコト勿論ナリ然レトモ設立者カ反對ノ意思ヲ表示シタルトキモ尙ホ此規定ニ依リ其會社ヲ以テ法人ト爲スヘキヤ否ヤ新商法ノ解釋上必ス發生スヘキ疑問ナリ試ミニ新民法ノ規定ヲ參照スルニ公益ニ關スル社團ニシテ營利ヲ目的トセサルモノハ主務官廳ノ許可ヲ得テ之ヲ

法人ト爲スコトヲ得セシメ又營利ヲ目的トスル社團ハ會社設立ノ條件ニ從ヒ之ヲ法人ト爲スコトヲ得セシメ何レモ社團ヲシテ法人タラシムルト否トヲ設立者ノ意思ニ放任シ法律ハ之ヲ強ユルコトナシ然ルニ新商法ハ會社ハ之ヲ法人ト爲スト規定シ敢テ之ヲ法人ト爲スコトヲ得ル旨ヲ規定セス故ニ設立者カ假令反對ノ意思ヲ表示シタルトキト雖モ法律ハ尙ホ會社ヲ以テ法人ト爲スノ趣旨ナリト解セサルヘカラス(新商法第四十四條第一項及ヒ新民法第三十四條第三十五條第一項)此ノ如ク法律カ會社ヲ以テ法人ト爲シ設立者ノ意思如何ヲ問ハサルハ何故ナリヤ蓋シ會社ヲ以テ法人ト爲スハ獨リ會社ヲ組織スル者ノ爲メニ便宜ナルノミナラス會社ト取引ヲ爲ス者ノ爲メニモ又會社ヲ組織スル各員ト取引ヲ爲ス者ノ爲メニモ權利義務ノ錯雜混同ヲ免カルコトヲ得セシムルノ便宜アリ而シテ商業ハ國家ノ經濟上最モ必要ノ事業ニシテ之ヲ獎勵保護スルカ爲メニハ必ス此便宜ヲ與フルコトヲ要ス是レ會社ヲ以テ法人ト爲スト否トヲ設立者ニ放任セス法律ヲ以テ之ヲ一定スル所以ナリ

更ニ他方ヨリ之ヲ觀察スルニ會社ヲ以テ法人ト爲スト否トハ大ニ其法律上ノ結

果ヲ異ニス故ニ會社ニ關スル規定中ニ法人タル會社ノ規定ト法人タラサル會社ノ規定トヲ包含セシムルコトノ不可ナルハ勿論法人タル會社ニ付テノミ規定ヲ設ケ法人タラサル會社ノ規定ヲ欠缺スルモ亦穩當ニ非ス是レ法典編纂ノ便宜上會社ヲ必ス法人ト爲サルヘカラサル所以ナリ

既ニ會社ヲ以テ法人ナリトセハ會社ナル社團ト之ヲ組織スル社員又ハ株主トハ法律上全ク別個ノ人タリ會社ハ獨リ其營業上ニ於テ社員又ハ株主ヨリ獨立スルノミナラス權利義務ノ上ニ於テモ亦社員又ハ株主ヨリ獨立スルモノトス故ニ會社ノ財産ハ社員又ハ株主ノ共有財産ニ非ス會社ノ債務ハ社員又ハ株主ノ共同債務ニ非ス從テ第三者カ會社ニ對シテ有スル債權ト第三者カ社員又ハ株主ニ對シテ負擔スル債務トヲ相殺スルコトヲ得サルト共ニ第三者カ會社ニ對シテ負擔スル債務ト第三者カ社員又ハ株主ニ對シテ有スル債權トヲ相殺スルコトヲ得ス又社員及ヒ株主ハ共有財産ノ如ク會社財産ノ分割ヲ求ムルコトヲ得サルモノトス蓋シ會社ヲ以テ法人ト爲サルトキハ會社ノ債務ト社員ノ債權トヲ相殺シ若シクハ社員ノ債務ト會社ノ債權トヲ相殺スルコトヲ得ヘク又會社財産ノ分割ヲ求

ムルコトヲ得ヘキコト當然ニシテ若シ之ヲ禁セントスルトキハ特ニ明文ヲ設クルコトヲ要ス(新民法第六百七十六條第一項及ヒ第六百七十七條ノ如シ)ト雖モ會社ヲ以テ法人ト爲ストキハ之ヲ爲スコトヲ得サルコト當然ニシテ之ヲ爲スコトヲ得セシムルニハ却テ別段ノ規定ヲ設ケ之ヲ許容スルコトヲ要スルモノトス會社ノ法人タルヨリシテ生スル結果ハ其機關ト會社トノ關係ニ付テモ亦之ヲ見ル即チ會社ヲ以テ法人ト爲サルトキハ會社ヲ代表スヘキ者ナク唯タ社員又ハ株主ヲ代表スヘキ者アルノミ之ニ反シテ會社ヲ以テ法人ト爲ストキハ會社ヲ代表スヘキ者アリ而カモ其會社ヲ代表スヘキ者ノ中ニハ必ス法律ノ規定ニ依リテ當然會社ヲ代表スル者即チ法定代理人アリ此法定代理人ノ有無ハ會社ヲ以テ法人ト爲スト否トヨリ來ル一結果ナリトス

第一節 會社ノ私權ノ享有

我輩ハ以上ヲ以テ會社ノ法人タルコト及ヒ其法人タルト然ラサルトヨリ生スル差異ヲ説明シタリ依テ左ニ更ニ節ヲ分チテ會社ノ私權ノ享有及ヒ會社ノ能力ヲ説明スヘシ

會社ハ法人ナリ故ニ當然私權ヲ享有スルコトヲ得ヘシ然レトモ如何ナル私權ヲ享有スルコトヲ得又如何ナル私權ヲ享有スルコトヲ得サルカ抑モ私權ヲ享有シ得ヘキ範圍ヲ定ムルニ付テハ立法上二義アリ一ハ享有シ得ヘキ私權ヲ列舉シ其他ノ私權ハ之ヲ享有スルコトヲ許サハルモノニシテ(許容主義)他ハ享有スルコトヲ得サル私權ヲ列舉シ其他ノ私權ハ之ヲ享有スルコトヲ許スモノ(禁止主義)是レナリ前者ハ成ルヘク私權ノ享有ヲ制限スルニ便ニシテ後者ハ成ルヘク私權ノ享有ヲ許スニ便ナリ

自然人ニ付テハ後ノ主義ニ依ラサルヘカラサルコト勿論ナリト雖モ法人ニ付テハ何レノ主義ニ依ルヘキカ議論アリ新民法ノ如キハ前ノ主義ニ依リ第四十三條ニ其旨ヲ規定シ即チ法人ハ法令ノ規定ニ從ヒ定款及ヒ寄附行爲ニ因リテ定マリタル目的ノ範圍内ニ於テノミ權利ヲ享有スルコトヲ得ルモノト爲シタリ

新民法第四十三條ハ社團法人ニ關スル規定ナルヲ以テ若シ之ヲ會社ニ適用スルコトヲ得ヘクンハ會社ノ私權ノ享有ニ關スル問題ハ容易ニ解釋セラルヘシ殊ニ新商法第一條ノ規定ニ依レハ當然之ヲ適用スルコトヲ得ヘキモノ、如シ然ルニ

新商法ノ起草者ハ會社ニハ社團法人ニ關スル新民法ノ規定ヲ適用セサルノ見解ヲ抱持シ新商法ノ各條皆此趣旨ニ基ツキ立案セラレタルカ故ニ立法論トシテハ兎ニ角解釋論トシテハ新民法第四十三條ノ規定ヲ會社ニ適用スルコトヲ得スト謂ハサルヘカラス

舊商法ハ會社カ權利ヲ享有スルコトヲ得ル旨ヲ規定スルニ止マリ如何ナル權利ヲ享有スルコトヲ得ルヤ否ヤヲ規定セス又新商法ハ會社ヲ法人ト爲シ其權利ヲ享有シ得ヘキコトヲ規定スルニ止マリ如何ナル權利ヲ享有スルコトヲ得ルヤ否ヤヲ規定セス既ニ其享有シ得ヘキ權利ヲ制限セサル以上ハ法人ノ性質ニ抵觸シ若シハ法律力之ヲ禁止スルモノ、外一切ノ權利ヲ享有スルコトヲ得ヘシト解釋セサルヘカラス命令ノ規定及ヒ會社ノ目的ヲ標準トシテ會社ノ享有シ得ヘキ私權ヲ制限スルカ如キハ別段ノ明文アルニ非サレハ爲スコトヲ得サル所ナリ(新商法第四十四條第一項及ヒ舊商法第七十三條)

然レトモ繚テ立法上ヨリ之ヲ觀察スルトキハ右新舊商法ノ規定ハ果シテ其當ヲ得タルモノナリヤ否ヤ一方ニ於テハ自然人ニ非サル者ノ人格ヲ認ムルコト既ニ

異例ニ屬ス必要アルニ非サレハ之ヲ爲スヘキモノニ非ス故ニ其享有シ得ヘキ私權ノ範圍ヲ定ムルニ當タリテハ許容主義ニ依リ一々之ヲ列舉セサルヘカラス殊ニ定款ニ依リテ定マリタル目的ヲ標準トシテ之ヲ制限セサルヘカラストノ議論アリ他方ニ於テハ法人殊ニ會社ノ享有シ得ヘキ私權ヲ制限セサルハ發達ノ最極點ナリ新民法第四十三條ノ如キハ法人ノ觀念ノ未タ十分發達セサルモノニシテ遂ニハ商法ノ如ク禁止主義ニ依リ特ニ禁止セサルモノハ一切之ヲ享有スルコトヲ得ルニ至ルヘク新商法カ此主義ヲ採用シタルハ最モ適當ナリトノ議論アリ法人殊ニ會社ニ關スル法理上ノ問題トシテ十分攻究ノ價值アルモノトス故ニ深ク其當否ヲ論究スルコトハ姑ク之ヲ他日ニ讓ルヘシト雖モ後ノ論者ニ對シテ聊カ注意ヲ喚起セサルヘカラスアルモノアリ即チ會社ノ人格ヲ認ムルニ至リタルハ法律的觀念ノ發達シタル近時ノ制度ニ屬シ現ニ株式會社以外ノ會社ノ如キハ最近時ニ至ルマテハ其人格ヲ認ムルコトナカリシモノナリ故ニ論者ノ說ニ從ヘハ會社ノ人格ニ關スル觀念ハ一躍直チニ長足ノ進歩ヲ爲シタルモノナルコト是レナリ

以上ハ會社ノ私權ノ享有ニ關スル説明ナリ義務ノ負擔ニ關シテモ亦之ト異ナルコトナシ即チ新舊商法ノ如ク會社ノ負擔シ得ヘキ義務ヲ限定セサル以上ハ會社ノ性質ニ抵觸シ若シクハ法律ヲ以テ其負擔ヲ禁シタルモノ、外一切ノ義務ヲ負擔スルコトヲ得ヘキモノトス

第二節 會社ノ能力

會社ハ法人ナリ之ヲ組織スル者ヲ離レテ法律上別個ノ存在ヲ有スト雖モ自然人ノ如ク外形ヲ具フルモノニ非ス故ニ會社ハ意思ヲ有セサルハ勿論行爲ヲ爲スノ能力ヲ有スルモノニ非ス即チ會社ハ純然タル無能力者ナリ
會社ハ無能力者ナリ故ニ法律ヲ以テ會社ノ機關ヲ設定シ其機關ノ意思ヲ以テ會社ノ意思ト爲シ其機關ノ行爲ハ會社ニ對シテ直接ニ其効力ヲ生スルモノト爲サルヘカラス然レトモ會社ノ機關ノ行爲カ會社ニ對シテ直接ニ其効力ヲ生スルハ代理ノ作用ニ因ルモノナルヲ以テ當然法律行爲ノミニ限ラル、モノトス機關ノ爲シタル不法行爲ニ付テハ別段ノ明文アルニ非サレハ會社ニ於テ其責ニ任スルコトナシ

會社ハ無能力者ナリ而カモ自ラ全ク行爲ヲ爲スコト能ハサルモノナリ故ニ未成年者又ハ禁治産者ノ如ク其行爲ヲ取消スコトヲ許スノ必要アルコトナシ法律中往々會社ノ行爲アルコトヲ認メタルカ如キ條文ナキニ非スト雖モ是レ唯タ會社ノ機關ノ行爲ヲ指示スルニ止マリ敢テ會社自身ノ行爲アリトスルモノニ非サルハ勿論ナリ我輩カ本書中ニ會社ノ行爲ト稱スルコトアルモ亦全一ノ趣旨ニ基ツク略語ニ過キス

第六章 會社ノ目的

會社ハ社團法人ナリ故ニ社團タル方面ヨリ之ヲ觀察スルモ將タ又法人タル方面ヨリ之ヲ觀察スルモ會社ハ一定ノ目的ヲ有スルコトヲ要シ一定ノ目的ヲ有セサル社團ヲ設立スルコトヲ得ス又一定ノ目的ヲ有セサル法人ヲ設立スルコトヲ得サルト共ニ一定ノ目的ヲ有セサル會社ハ之ヲ設立スルコトヲ得サルモノトス(新民法第三十七條第一號第六百六十七條第一項及ヒ新商法第五十條第一號第五百條第二十條第一號及ヒ第二百三十七條第一號)

茲ニ注意スヘキハ會社ノ目的ナル語ハ從來二様ノ意義ニ之ヲ使用セラレタリ一ハ會社ノ營マントスル事業ヲ以テ其目的ナリト爲スモノニシテ一ハ會社ヲ組織スル者ニ利益ヲ配當スヘキコトヲ以テ其目的ナリト爲ス是レ畢竟目的ナル語ノ觀察方法ヲ異ニスルノ致ス所ナリト雖モ法典ヲ編纂シ學理ヲ研究スルカ爲メニハ必ス其用法ヲ一定セサルヘカラス而シテ我新舊商法ハ前ノ意義ヲ採用シタルヲ以テ我輩モ亦之ニ從ヒ會社ハ如何ナル事業ヲ以テ其目的ト爲スコトヲ要スルヤ及ヒ會社ハ如何ナル事業ヲ以テ其目的ト爲スコトヲ得ルヤヲ説明スヘシ

會社ハ如何ナル事業ヲ以テ其目的ト爲スコトヲ要スルヤ新商法ハ會社トハ商行爲ヲ爲スコト業トスル目的ヲ以テ設立シタル社團ヲ謂フモノト爲シタルカ故ニ設立ノ當時ニ於ケル會社ノ目的ハ商行爲ヲ爲スコト業トスルコト即チ商業ニ在ルコトヲ要スルハ勿論ナリ(新商法第四十二條然レトモ設立以後ニ於ケル會社ノ目的ハ商業ニ在ルコトヲ要スルヤ否ヤ新商法中此點ニ關シテ何等ノ明文ナシ即チ新商法第四十二條ノ如キハ設立ノ當時ニ於ケル會社ノ目的カ商業ニ在ルコトヲ要スル旨ヲ定メタルニ過キサルヲ以テ此規定ヲ適用シテ直チニ設立以後ニ於ケル

會社ノ目的モ亦當然商業ニ在ルコトヲ要スト論決スルコトヲ得ス新商法第五十八條第二百五條第二百八條及ヒ第二百三十六條ニ於テハ會社カ設立ノ後其定款ヲ變更スルコトヲ許シ即チ定款ニ定メタル目的ヲ變更スルコトヲ許シ而カモ其變更ノ程度ヲ制限スルコトナキヲ以テ解釋者ハ擅リニ之ヲ制限スルコトヲ得ス結局設立以後ニ於ケル會社ノ目的ハ必スシモ商業ニ在ルコトヲ要セスト謂ハサルヘカラス

右ハ解釋論ナリ立法論トシテハ我輩別ニ意見アリ抑モ新民法及ヒ新商法ハ法人ト爲ル當時ニ於テ社團ノ有スル目的如何ニ依リ之ヲ法人ト爲スノ方法ヲ異ニシ即チ社團カ法人ト爲ル當時ニ於テ有スル目的カ商業ニ在ルトキハ其設立ト共ニ當然之ヲ法人ト爲シ其他ノ營利的事業ニ在ルトキハ會社設立ノ條件ニ從フコトニ因リテ之ヲ法人ト爲スコトヲ得ルモノト爲シ公益ニ關スル非營利的事業ニ在ルトキハ主務官廳ノ許可ニ因リテ之ヲ法人ト爲スコトヲ得ルモノト爲ス故ニ設立後目的ヲ變更スルコトヲ許シ而モカ之ヲ制限セサルトキハ此規定ノ適用ヲ回避スル者ヲ生スヘク從テ目的變更ノ範圍ヲ限定スルコト必要ナルヘシ公益ニ關

スル非營利的事業ヲ目的トスル社團法人ニ付テハ一方ニ定款ヲ變更スルニハ主務官廳ノ認可ヲ受クルコトヲ要シ此認可ヲ得サレハ變更ノ效力ヲ生セサルノ規定アリ他方ニ設立ノ許可ヲ得タル條件ニ違反シタルトキハ主務官廳ヨリ其許可ヲ取消スコトヲ得ヘク此取消ニ因リテ社團法人カ當然解散スルノ規定アリ別ニ目的ノ變更ヲ制限スルノ必要ナシト雖モ定款ノ變更ニ官廳ノ認可ヲ要セス且公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル行爲ヲ爲サ、ル限リハ官廳ヨリ解散ヲ命スルコトヲ得サル會社ニ付テハ必ス目的ノ變更ヲ制限スルコトヲ要ス(新商法第四十四條第一項及ヒ新民法第三十四條第三十五條第一項第三十八條第二項第六十八條第一項第四號第七十一條)

更ニ一步ヲ進メ新商法カ會社ノ目的ヲ變更シ得ヘキ範圍ヲ限定セサル所以ヲ考察スルニ會社ノ人格ヲ認メサリシ當時ノ思想カ今尙ホ殘存スルモノニ外ナラス蓋シ會社ニシテ人格ヲ有セサルトキハ其目的ノ變更ハ契約ニ因リテ生シタル法律關係ヲ變更スルモノニ過キス從テ契約ニ因リテ之ヲ爲ス以上ハ如何ナル程度ニ至ルマテ目的ヲ變更スルモ差支ナシ此思想ハ會社ノ人格ヲ認メタル後ニ至リ

テモ尙ホ殘存シ遂ニ右ノ如キ不都合ノ結果ヲ見ルニ至レリ

我輩ハ以上説明シタル所ニ依リ會社ハ如何ナル事業ヲ以テ其目的ト爲スコトヲ要スルヤヲ明カニシタリ故ニ次ニ五個ノ問題ニ分チ會社ハ如何ナル事業ヲ以テ其目的ト爲スコトヲ得ルヤヲ説明スヘシ

第一 會社ハ一種又ハ數種ノ商業ヲ以テ其目的ト爲スコトヲ得ルノミナリヤ將ク又一切ノ商業ヲ以テ其目的ト爲スコトヲ得ルヤ新商法ハ會社トハ商行爲ヲ業トスル目的ヲ以テ設立シタル社團ヲ謂フモノト爲シ且會社ノ定款ニハ目的ヲ記載スヘキモノト爲ス然レトモ未タ目的タル事業ノ種類ヲ特定スルコトヲ要スル旨ノ規定ナシ故エ、一切ノ商業ヲ以テ目的ト爲スモ亦妨ケナシト謂ハサルヘカラス

第二 會社ハ商業以外ノ事業ヲ以テ其目的ト爲スコトヲ得ルヤ否ヤ此問題ハ設立ノ當時ト設立ノ後トヲ區別シテ之ヲ決定スルコトヲ要ス即チ

一、設立ノ當時ニ在リテハ商業以外ノ事業ノミヲ目的トスル會社ヲ設立スルコトヲ得ス是レ新商法第四十二條ノ規定ヨリ當然生スル所ノ結果

ナリ然レトモ設立ノ當時商業ト商業以外ノ事業トヲ以テ會社ノ目的ト爲スコトヲ得ルヤ否ヤ新商法ノ解釋上疑ノ存スル所ナリ

二、設立ノ後ニ於テハ目的ヲ變更シ商業以外ノ事業ノミヲ以テ會社ノ目的ト爲シ若シクハ商業ト商業以外ノ事業トヲ以テ會社ノ目的ト爲スコトヲ得是レ新商法カ無制限ニ目的ノ變更ヲ許シタルヨリ當然生スル結果ナリ然レトモ立法論トシテハ商業以外ノ事業ノミヲ會社ノ目的ト爲スコトヲ得セシムルノ不都合ナルハ既ニ述ヘタル所ナリ

第三 會社ハ不合法ノ事業即チ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル事業ヲ以テ其目的ト爲スコトヲ得サルヤ否ヤ 此問題ニ付テモ亦設立ノ當時ト設立ノ以後トヲ區別スルコトヲ要ス即チ

一、設立ノ當時會社ノ目的タル事業カ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スルモノナルトキハ法律上設立ノ效力ヲ生セス即チ會社ハ初ヨリ全ク成立セサルモノトス舊商法ハ會社ノ目的タル事業カ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル場合ノ中ニ就キ最モ顯著ナル場合即チ法律ニ背キタル事業

又ハ法律ニ禁止セラレタル事業ヲ以テ會社ノ目的ト爲シタル場合ノミヲ規定シタリト雖モ當然言フヲ俟タサル所ナリ(舊商法第六十七條第一項及ヒ新民法第九十條)

二、設立ノ當時會社ノ目的タル事業カ公ノ秩序及ヒ善良ノ風俗ニ反セザリシニモ拘ハラズ設立ノ後ニ至リ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スルコトト爲リタルトキハ其會社ハ成立シ而カモ目的タル事業カ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スルニ至リタルトキヨリ目的タル事業ノ成功不能ナルモノト爲リ殊ニ事業全部ノ成功不能ナルニ至リタルトキハ會社ハ當然解散スヘシ然レトモ目的ヲ變更シタルカ爲メ新ニ目的ト爲シタル事業カ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スルコトアルモ其目的ノ變更カ無効ナルニ止マルヘシ

第四 會社ハ不能ノ事業ヲ以テ其目的ト爲スコトヲ得サルヤ否ヤ 此問題ニ付テモ亦設立ノ當時ト設立ノ以後トヲ區別スルコトヲ要ス即チ

一、設立ノ當時ニ於テ會社ノ目的タル事業カ不能ナルトキハ法律上設立

ノ效力ヲ生セス即チ會社ハ初ヨリ全ク成立セサルモノトス然レトモ會社ヲ設立スル者カ會社ノ目的タル事業ノ不能ナルコトヲ知リ而カモ其可能ト爲ルコトアルヘキヲ豫想シテ會社ヲ設立シタルトキハ設立ノ效力ヲ生シ會社ハ成立スルモノトス

二、設立ノ後ニ於テ會社ノ目的タル事業カ不能ト爲ルトキハ會社ハ之ニ因リ當然解散スヘシ然レトモ目的ヲ變更シタルカ爲メ不能ノ事業ヲ目的ト爲シタルトキハ其不能ナルコトヲ知リナカラ可能ト爲ルコトアルヘキヲ豫想シタル場合ヲ除クノ外目的ノ變更カ無効ナルニ止マルヘキヤ否ヤ疑ノ存スル所ナリ

第五 會社ハ主務官廳ヨリ營業ノ許可ヲ受クルコトヲ要スル事業ヲ以テ其目的ト爲スコトヲ得ルヤ否ヤ 營業ニハ主務官廳ノ許可ヲ要セスンテ自由ニ之ヲ營ムコトヲ得ルモノアリ主務官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得サルモノアリ前者ヲ以テ會社ノ目的ト爲スコトヲ得ルハ勿論後者ヲ以テ亦會社ノ目的ト爲スコトヲ得ヘシ而シテ舊商法ノ如ク法律命令ニ依リ

官廳ノ許可ヲ受クヘキ營業ヲ爲サントスル會社ハ其許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ設立スルコトヲ得サルモノト爲ストキハ營業ノ許可ハ會社ノ設立前ニ之ヲ受ケサルヘカラサルモ新商法ノ如ク何等ノ規定ナキトキハ設立前ニ營業ノ許可ヲ受クルノ必要ナク開業前ニ之ヲ受クルヲ以テ足レリトス(但法律命令中ニ別段ノ規定アルトキハ此限りニ在ラス)尙ホ一旦會社ヲ設立シタル後營業ノ許可ヲ受クルコトヲ得サルカ又ハ其許可ヲ取消サレタルトキハ目的タル事業成功ノ不能ナルモノトシテ會社ハ當然解散スヘキモノトス(舊商法第六十八條第一項)

以上ヲ以テ會社カ如何ナル事業ヲ目的ト爲スコトヲ得ルヤヲ説明シタリ以下更ニ節ヲ分テ會社ノ目的カ實際ニ執行セラル、狀況ヲ觀察説明スヘシ

第一節 會社ノ開業ノ準備

會社ニシテ成立シタルトキハ何時ニテモ其目的タル營業ヲ開始スル爲メニ準備ヲ爲スコトヲ得ヘシ然レトモ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スノ前開業ノ準備ニ着手スルコトヲ得ルヤ否ヤ新舊商法ノ間全ク其主義ヲ異ニシ即チ舊商法

ノ規定ニ依レハ別ニ之ヲ制限セサルヲ以テ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スノ前
ト雖モ開業ノ準備ニ着手スルコトヲ得ヘク之ニ反シテ新商法ノ規定ニ依レハ本
店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スニ非サレハ開業ノ準備ニ着手スルコトヲ得ス若シ
本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スノ前開業ノ準備ニ着手シタルトキハ會社ノ業務
執行社員又ハ取締役ヲ五圓以上五百圓以下ノ過料ニ處スルモノトス(新商法第四
十六條及ヒ第二百六十一條第五號故ニ新商法ノ施行後モ尙ホ舊商法ノ規定ニ從
フヘキ會社即チ舊商法ニ定メタル合資會社及ヒ私設鐵道株式會社ハ舊商法ノ規
定ニ依ルヘク新商法ノ規定ニ從フコトヲ要セスト雖モ其他ノ會社ハ凡ヘテ新商
法ノ規定ニ從ハサルヘカラス

第二節 會社ノ開業

會社ニシテ成立シタルトキハ何時ニテモ其目的タル事業ヲ開始スルコトヲ得ヘ
シ即チ開業ヲ爲スコトヲ得ヘシ然レトモ一定ノ時期前ニハ開業ヲ爲スコトヲ得
ス且一定ノ時期前ニハ開業ヲ爲スコトヲ要ス左ニ之ヲ分説スヘシ

第一款 開業ヲ爲スコトヲ得サル時期

舊商法ノ規定ニ依レハ會社ハ登記前ニ其目的タル事業ニ着手スルコトヲ得ス即
チ開業ヲ爲スコトヲ得ス若シ登記前ニ事業ニ着手シタルトキハ會社ノ業務擔當
社員又ハ取締役ヲ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處シ且地方裁判所ノ命令ヲ以テ
其事業ヲ差止ムヘキモノトス(裁判所カ此命令ヲ發スルニハ説明ヲ爲サシムル爲
メ當事者ヲ裁判所ニ呼出スヲ通例トシ且必ス檢事ニ其旨ヲ通知スヘキモノトス
當事者ハ呼出ニ應シテ出頭シ説明ヲ爲スコトヲ得ヘク檢事モ亦口頭若クハ書面
ヲ以テ意見ヲ陳述スルコトヲ得ヘシ然レトモ裁判所ハ當事者ノ説明檢事ノ意見
陳述ノ有無ニ拘ハラス命令書ヲ發スルコトヲ得其命令ニ對シテハ當事者ヨリ即
時抗告ヲ爲スコトヲ得尙ホ檢事ハ此事業差止ノ命令ニ付キ執行ノ責ニ任スルモ
ノトス之ニ反シテ新商法ノ規定ニ依レハ會社ハ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲ス
ノ前ニ開業ノ準備ニ着手スルコトヲ得スト雖モ事業ソノモノニ着手スルコトヲ
得サルヤ否ヤハ何等ノ明文ナシ故ニ開業ノ準備ニ着手スルコトヲ禁シタル趣旨
ヨリ推シ開業ノ準備ニ着手スルコトヲ禁スル規定ハ事業ソノモノニ着手スルコ
トヲモ禁シタルモノト解釋シ若シ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スノ前事業ニ着

第二編 會社 第六章 會社ノ目的 第二節 會社ノ開業 第一款 開業ヲ爲スコトヲ得サル時期 四九九

手シタルトキハ會社ノ業務執行社員又ハ取締役ヲ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處スルノ外ナカルヘシ(新商法第四十六條第二百六十一條第五號舊商法第八十一條第三百三十七條第七十條後段第二百五十六條第二號及ヒ施行條例第二十一條乃至第二十三條第五十一條)

舊商法ニ定メタル合資會社及ヒ私設鐵道株式會社ハ舊商法ノ規定ニ從フコトヲ要スルモ其他ノ會社ハ凡ヘテ新商法ノ規定ニ從フコトヲ要スルモノトス

第二款 開業ヲ爲スコトヲ要スル時期

舊商法ノ規定ニ依レハ會社ハ其登記ノ日ヨリ六個月内ニ事業ニ着手スルコトヲ要シ即チ開業ヲ爲スコトヲ要シ之ニ反シテ新商法ノ規定ニ依レハ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲シタル後(新商法ノ施行前ニ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル會社ニ於テハ新商法ノ施行後六個月内ニ開業ヲ爲スコトヲ要スルモノトス而シテ舊商法ニ於テハ此期間ヲ伸長スルコトヲ許サ、ルヲ以テ事業ノ性質ニ因リ容易ニ開業ヲ爲スコト能ハサル場合ニハ大ナル不都合ヲ生ス之ニ反シテ新商法ハ裁判所カ此期間ヲ伸長スルノ餘地ヲ存シ即チ此期間内ニ開業ヲ爲スコト

ヲ得サル正當ノ事由アルトキハ會社ヨリ其本店所在地ノ地方裁判所へ此期間ヲ伸長スルコトヲ申請スルコトヲ得ヘク此申請アリタルトキハ裁判所ハ利害關係人ノ陳述ヲ聽キ檢事ノ意見ヲ求メタル後理由ヲ附シタル決定ヲ以テ裁判ヲ爲スヘク此裁判ニ對シテハ會社及ヒ檢事ヨリ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ヘキモノト爲ス(新商法第四十七條施行法第二十三條第三十八條第二項非訟事件手續法第二百二十六條第一項第百三十四條第百三十五條及ヒ舊商法第八十二條第百三十七條第百七十條後段)

會社カ法定ノ期間内ニ開業セサルトキハ其結果如何舊商法ニ於テハ一旦爲シタル登記及ヒ公告ヲ以テ無効ト爲スニ止マルト雖モ新商法ニ於テハ本店所在地ノ地方裁判所ヨリ檢事ノ請求ニ因リ又ハ其職權ヲ以テ會社ノ解散ヲ命スルコトヲ得ルモノト爲ス(新商法第四十七條非訟事件手續法第二百二十六條第一項及ヒ舊商法第八十二條第百三十七條第百七十條後段)

舊商法ニ定メタル合資會社及ヒ私設鐵道株式會社ハ舊商法ノ規定ニ從フコトヲ要スルモ其他ノ會社ハ凡ヘテ新商法ノ規定ニ從フコトヲ要スルモノトス

第二編 會社
要スル時期

第六章 會社ノ目的

第二節 會社ノ開業

第二款 開業ヲ爲スコトヲ

五〇一

第三節 會社ノ營業地

會社カ事業ヲ營ム地ハ必スシモ本店又ハ支店ノ所在地ノミニ限ラス其他ノ地ニ於テモ亦事業ヲ營ムコトヲ得ヘシ又會社カ事業ヲ營ム地ハ必スシモ我國内ニ限ラス外國ハ勿論何レノ國ニモ屬セサル大洋中ニ於テモ亦事業ヲ營ムコトヲ得ヘシ

第四節 會社ノ營業年度

舊商法ニ於テハ合名會社合資會社及ヒ株式會社ノ三者ニ付キ事業年度ナル語ヲ用キ新商法ニ於テハ合名會社合資會社及ヒ株式合資會社ニ付キ營業年度ナル語ヲ用ユ(新商法第六十八條第五百五條第一百十一條第二百三十六條及ヒ舊商法第二百一十條第三百二十七條第三百五十條第三百八十三條第二百條第二百二十條第二百二十三條)此事業年度即チ營業年度ニ關スル事項ハ本節ニ於テ説明セントスル所ナリ會社カ營業上ノ事務ヲ整理シ收支損益ヲ明カニスルニハ必ス一定ノ時期ヲ區劃シ其時期ニ屬スル事項ト他ノ時期ニ屬スル事項トヲ別ツコトヲ要ス然ルニ此時期ハ必スシモ曆年ニ依リ毎年一月一日ヨリ十二月三十一日マテヲ以テ一時期ト爲スコトヲ得ヘキモノニ非ス又曆法ニ於ケル一年ヲ以テ一時期ト爲スコトヲ得

ヘキモノニ非ス曆年ノ半途ヨリ此時期ヲ開始セシムルノ必要アルト共ニ曆法ニ於ケル一年ヨリモ短キ時期又ハ長キ時期ヲ以テ一時期ト爲スノ必要アリ故ニ曆法ニ依ル年以外ニ此時期ヲ定ムルコトヲ許シ之ヲ營業年度又ハ事業年度ト稱ス(新商法ハ株式會社ニ付キ營業年度ナル語ヲ用キ然レトモ他ノ會社ニ付キ之ヲ定ムルコトヲ得ル以上ハ獨リ株式會社ニ付テノミ之ヲ定ムルコトヲ禁スル所以ナシ故ニ株式會社ニ付キ營業年度ナル語ヲ用キサルハ之ヲ用ユルノ必要ナキカ爲メノミ之ヲ定ムルコトヲ禁シタルモノト誤解スヘカラス

銀行事業ヲ營ム會社ノ如ク法令ヲ以テ營業年度ノ長短及ヒ其始終ヲ定ムルモノハ格別其他ノ會社ニ於テハ自由ニ之ヲ定ムルコトヲ得ルモノトス即チ或ハ定款ヲ以テ之ヲ定メ或ハ最高機關ノ決議ヲ以テ之ヲ定メ或ハ執行機關ノ決議ヲ以テ之ヲ定ムヘキモノトス

既ニ營業年度ヲ定ムル以上ハ其各年度ニ屬スル事項ヲ區別シ之ヲ混全セサルコトヲ要スルヤ勿論ナリ而シテ如何ナル事項ヲ以テ其年度ニ屬スルモノトスヘキカハ會社ニ於テ別段ノ規則ヲ設ケ之ヲ定ムルノ外ナシ

營業年度ト新商法ニ所謂配當期トノ關係如何ハ多少考慮ヲ要スル所ナリ蓋シ配當期ナル語ハ新商法第二十七條ニ於テ廣ク一切ノ會社ニ付キ之ヲ用キ全第五百十七條ニ於テ株式會社及ヒ株式合資會社ニ付キ之ヲ用ユ即チ前ノ規定ニ依リ配當期ヲ以テ財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ作成スルノ時期ト爲シ後ノ規定ニ依リ配當期ヲ以テ株主總會ヲ招集スルノ時期ト爲ス此配當期ハ營業年度ノ終ヲ指スモノナリヤ否ヤ

營業年度ヲ終ハルトキハ計算ヲ爲シ若シ配當スヘキ利益又ハ利息アルトキハ之ヲ配當スヘキモノトス此事タルヤ新商法ニ明文ナシト雖モ營業年度ナルモノハ性質上當然ノコトニ屬ス果シテ然ラハ營業年度ノ外別ニ配當期ナルモノヲ認ムルノ必要ナク財産目錄及ヒ貸借對照表ハ營業年度ノ終ハリニ之ヲ作成セシメ株主總會ハ營業年度ヲ終ハリタル後直チニ之ヲ開カシムルヲ以テ足ルヘシ(若シ一營業年度カ一曆年ヲ超ユルトキハ一曆年毎ニ之ヲ爲サシムヘキハ勿論ナリ)社團法人ニ關スル新民法第五十一條第一項ノ規定及ヒ株主總會ニ關スル舊商法ノ規定ハ之ヲ改ムルノ必要アルヲ見ス

第五節 會社ノ營業時間

新商法ニ於テハ合資會社株式會社及ヒ株式合資會社ニ付キ營業時間ナル語ヲ用ユ(新商法第一百一條第一項第七十一條第二項第九十一條第一項第二百三十六條及ヒ第二百四十三條)此營業時間ニ關スル事項ハ本節ニ於テ説明セントスル所ナリ

會社ハ必スシモ終日營業ニ關スル事務ヲ行フモノニ非ス事務ヲ取扱フヘキ時間ヲ一定シ其時間内ニ限リ事務ヲ取扱フ之ヲ營業時間ト謂フ
新商法ハ合名會社ニ付キ營業時間ナル語ヲ用キ然レトモ他ノ會社ニ付キ之ヲ定ムルコトヲ得ル以上ハ獨リ合名會社ニ付テノミ之ヲ定ムルコトヲ禁スル所以ナシ故ニ合名會社ニ付キ營業時間ナル語ヲ用キサルハ之ヲ用ユルノ必要ナキカ爲メノミ之ヲ定ムルコトヲ禁シタルモノト誤解スヘカラス
營業時間ノ始終ハ銀行ヲ營ム會社ノ如ク法令ヲ以テ之ヲ一定セサル限リハ會社ニ於テ自由ニ之ヲ定ムルコトヲ得ルモノトス即チ或ハ定款ヲ以テ之ヲ定メ或ハ最高機關ノ決議ヲ以テ之ヲ定メ或ハ執行機關ノ決議ヲ以テ之ヲ定ムヘキモノナ

第六節 會社ノ目的外ノ行爲

會社ハ其目的ノ範圍内ニ屬スル行爲ヲ爲スコトヲ得ルハ勿論ナリト雖モ其目的ノ範圍内ニ在ラサル行爲ニ至リテハ之ヲ爲スコトヲ得ルヤ否ヤ多少疑ノ存スル所ナリ

舊商法ニ於テハ會社ノ目的ニ異ナル業務及ヒ事項ヲ會社ノ目的ニ反スルモノ及ヒ會社ノ目的ニ反セサルモノ、二種ニ分チ合名會社及ヒ合資會社ハ業務擔當社員ノ全員ノ承諾ヲ以テ會社ノ目的ニ反セサルモノニ異ナル業務及ヒ事項ヲ爲スコトヲ得ルモノト爲シタリ然レトモ合名會社及ヒ合資會社カ會社ノ目的ニ反シ且之ニ異ナル業務及ヒ事項ヲ爲スコトヲ得ルヤ否ヤ又株式會社カ會社ノ目的ニ異ナル事項及ヒ業務ヲ爲スコトヲ得ルヤ否ヤヲ規定セス(舊商法第八十六條及ヒ第三百三十七條)

之ニ反シテ新商法ハ會社ノ目的ノ範圍内ニ在ラサル行爲ニ付キ何等ノ分類ヲ爲サス之ヲ一括シ合名會社、合資會社及ヒ株式合資會社ハ最高機關ノ決議ヲ以テ會

社ノ目的ノ範圍内ニ在ラサル行爲ヲ爲スコトヲ得ルモノト爲シタリ然レトモ株式會社ハ會社ノ目的ノ範圍内ニ在ラサル行爲ヲ爲スコトヲ得ルヤ否ヤヲ規定セス(新商法第五十八條、第五百條、第二百三十六條及ヒ第二百四十四條)

抑モ會社ノ人格ヲ認メサルトキハ會社ノ目的ハ唯タ會社ノ内部ノ關係ニ於テ其效力ヲ有スルニ過キス故ニ定款ノ變更ト全一ノ手續ニ依リ之ヲ爲サシムル以上ハ假令會社ノ目的ノ範圍内ニ在ラサル行爲ヲ爲サシムルモ何等ノ不都合ナシ之ニ反シテ會社ノ人格ヲ認ムルトキハ會社ノ目的ハ獨リ會社ノ内部ノ關係ニ於テ其效力ヲ有スルノミナラス外部ノ關係ニ於テモ亦其效力ヲ有ス故ニ假令定款ノ變更ト全一ノ手續ニ依リテ之ヲ爲サシムルモ目的ノ範圍内ニ在ラサル行爲ヲ爲サシムルコトヲ得ス何ントナレハ目的ノ如何ニ依リテ會社ノ人格ヲ認メ會社ノ人格ハ此目的ノ爲メニ存在スルモノナレハナリ

新舊商法ハ何レモ株式會社カ其目的ノ範圍内ニ在ラサル行爲ヲ爲スコトヲ得ルヤ否ヤヲ規定セス之ヲ規定セサルハ當然目的ノ範圍内ニ在ラサル行爲ヲ爲スコトヲ得ルコトヲ認メタルカ爲メナリヤ將タ又之ヲ爲スコトヲ得サルハ勿論ナリ

ト認メタルカ爲メナルヤ多少疑ヲ存スル所ナリ然レトモ會社法發達ノ沿革上ヨリ之ヲ觀察スルトキハ株式會社ハ夙ニ其人格ヲ認メラレタルモ其他ノ會社ハ漸ク近時ニ至リテ其人格ヲ認メラルニ過キス故ニ株式會社ニ付テハ目的ノ範圍内ニ在ラサル行爲ヲ爲スコトヲ得ル旨ノ規定ナク其他ノ會社ニ付テハ此規定ヲ存スル事跡ト上述ノ理論トヲ綜合考察スルトキハ此規定ハ會社ノ人格ヲ認メサル結果ニシテ完全ニ會社ノ人格ヲ認ムルトキハ此規定ヲ存スヘキ理由ナキヲ知ルニ足ルヘシ

獨逸商法中ニハ合名會社ニ付キ此規定ニ類似スル規定ヲ存シ我舊民法中ニハ民事會社ニ付キ此規定ニ類似スル規定ヲ存ス然レトモ何レモ人格ヲ有セサル會社ニ關スル規定ノミ之ヲ以テ人格ヲ有スル會社ニ關スル規定ト爲スハ我輩其可ナル所以ヲ知ラサルナリ

節七章 會社ノ名稱

會社ハ法人ナリ故ニ其他ノ法人カ各自已ヲ表示スヘキ名稱ヲ有シ又自然人カ氏

名ヲ有スルト全シク會社モ亦自己ヲ表示スヘキ名稱ヲ有スルコトヲ要ス若シ會社ニシテ自己ヲ表示スヘキ名稱ヲ有セザランカ甲會社ト乙會社トヲ判別スルノ標準ヲ缺キ不便尠カラサルノミナラス詐欺ヲ容易アラシムルノ不都合アリ是レ法律カ會社ヲシテ必ス名稱ヲ有セシムル所以ナリ

會社ノ名稱ニハ一般ノ場合ニ用ユヘキ名稱ト商業上ニ限リテ用ユヘキ名稱トノ區別アリ前者ハ自然人ノ氏名ニ該當スルモノニシテ之ヲ社名ト稱シ後者ハ自然人ノ商號ニ該當スルモノニシテ之ヲ會社ノ商號ト稱ス

理論上ニ於テハ此ノ如ク社名ト會社ノ商號トハ用法ニ廣狹ノ差異アリト雖モ法律上ニ於テハ自然人ノ氏名ト商號トヲ區別スルカ如ク此二者ヲ區別スルコトヲ得サル事情アリ即チ一方ニハ會社ノ社名モ亦會社ノ商號ト全シク法律ノ監督保護ヲ加ヘ會社相互間ニ於テ錯雜ナカラシムヘキハ勿論會社ト會社ニ非サル者ノ名稱トノ間ニモ亦錯雜ナカラシムルコトヲ要シ他方ニハ社名ト會社ノ商號トヲ區別スルトキハ一會社ニシテ少クトモ二個ノ名稱ヲ有スルコト、爲リ大ニ錯雜ヲ來スヘキヲ以テ成ルヘク名稱ヲ簡單明確ナラシムルノ必要アリ故ニ或ハ社名

ヲ以テ直チニ會社ノ商號ニ代用シ即チ商業以外ニ於テモ商業上ニ於テモ凡テ社名ヲ用キシノ或ハ會社ノ商號ノ用法ヲ擴張シ獨リ商業上ニ於テ之ヲ用ユルノミナラス商業以外ニ於テモ亦之ヲ用キ會社ノ商號ヲシテ自然人ノ氏名及ヒ商號ニ相當スルモノト爲ス即チ前者ハ舊商法ノ採用スル所ニシテ後者ハ新商法ノ採用スル所ナリ

此ノ如ク會社ノ商號ノ用法ヲ擴張シテ社名ニ代用シ又社名ノ用法ヲ擴張シテ商號ニ代用スルカ故ニ舊商法ニ於ケル社名ト新商法ニ於ケル會社ノ商號トハ名ヲ異ニシテ其實ヲ全フシ從テ舊商法ノ規定ニ從ヒ登記シタル社名ハ新商法ノ規定ニ從ヒテ登記シタル商號ト全一ノ效力ヲ有スヘキモノトス施行法カ新商法ノ施行前ニ設立ノ登記ヲ爲シタル會社ノ社名ニ付テノミ此旨ヲ明言シタルハ唯々重要ナル場合ノミヲ觀察シテ規定ヲ設ケタルニ過キス(施行法第十條)

社名即チ會社ノ商號ハ會社ヲ表示スヘキ一切ノ場合ニ於テ之ヲ用ユヘキモノトス即チ會社自ラ之ヲ用ユルノミナラス第三者ヨリ會社ヲ指示スル爲メニモ官廳ヨリ會社ヲ指示スル爲メニモ凡ヘテ之ヲ用ユヘク又書面ヲ以テスル場合ニモ口

頭ヲ以テスル場合ニモ等シク之ヲ用ユヘキモノトス舊商法カ社名ハ官廳ニ宛テタル文書又ハ報告書株券手形及ヒ會社ニ於テ權利ヲ得義務ヲ負フヘキ一切ノ文書ニ之ヲ用ユヘキモノト爲シタルハ此趣旨ノ一端ヲ示シタルモノニシテ當然言フヲ俟タサル所ナリ(舊商法第七十二條)

會社ハ形休ヲ有セサルヲ以テ自ラ署名ヲ爲スコト能ハス業務執行社員取締役又ハ商業使用人等カ之ニ代ハリテ署名ヲ爲スト雖モ此等ノ者ニハ時々交迭アリ手跡一定セサルヲ以テ第三者ハ會社ノ文書ナリヤ否ヤヲ判別スルニ困難ナキ能ハス故ニ自然人ノ印章ニ模擬シテ會社モ亦其社名即チ商號ヲ刻シタル印章ヲ製シ置キ會社ヨリ發ズル文書ニハ之ヲ押捺シ以テ第三者ヲシテ印鑑ト對照シ容易ニ其眞僞ヲ判別スルコトヲ得セシム是レ舊商法ノ施行前ヨリ行ハル、所ニシテ舊商法ハ此慣例ヲ認メ會社ハ社名ヲ設クルト共ニ社名ヲ刻シタル印章即チ社印ヲシ官廳ニ宛テタル文書又ハ報告書株券手形及ヒ會社ニ於テ權利ヲ得義務ヲ負フ製ヘキ文書ニ之ヲ用ユヘク尙ホ其正確ヲ保シ對照ヲ便ニスルカ爲メ社印ヲ新刻若シクハ改刻シ又ハ之ヲ變更シタル毎ニ會社ヨリ印鑑ヲ管轄登記所ニ差出シ登

記所ハ商業登記簿ニ添ヘテ之ヲ保存スヘキモノト爲シタリ(舊商法第七十條乃至第七十二條)然ルニ新商法ハ新民法カ自然人ニ付キ印章ノ制度ヲ設ケサフシト全シク社印ヲ以テ法律上ノ制度ト爲サス之ヲ各會社ノ隨意ニ放任シタリ
 社名即チ會社ノ商號中ニ用ユルコトヲ要スル文字及ヒ用ユルコトヲ得サル文字並ニ社名即チ會社ノ商號ヲ定ムルノ方法ハ我輩既ニ本書第一編第五章第二節第四款ニ於テ之ヲ説明シタリ故ニ茲ニ再ヒ説明スルノ必要ナシト雖モ會社ノ變更ト社名即チ會社ノ商號トノ關係ニ至リテハ曩キニ未タ説明セサル所多キヲ以テ左ニ之ヲ説明スヘシ

社名即チ會社ノ商號中ニ用ユヘキ文字ハ會社ノ種類ニ應シテ各差異アリ即チ合名會社ハ合名會社ノ文字、合資會社ハ合資會社ノ文字、株式會社ハ株式會社ノ文字、株式合資會社ハ株式合資會社ノ文字ヲ用ユルコトヲ要ス故ニ會社ノ種類ニ變更アリタルトキハ之ニ應シテ會社ノ商號ヲ變更スルコトヲ要ス然レトモ會社ヲ組織スル者又ハ會社ノ目的ニ變更アルモ之ニ應シテ會社ノ商號ヲ變更スルコトヲ要セサルハ勿論ナリ舊商法カ社員ノ退社シタル後ト雖モ從前ノ社名ヲ續用スル

コトヲ得ル旨ヲ規定シタルハ此趣旨ノ一端ヲ示シタルニ過キス(舊商法第七十六條及ヒ第三百十七條)

社名即チ會社ノ商號ニハ社員ノ氏又ハ氏名ヲ用ユルコトヲ得殊ニ舊商法ノ規定ニ依レハ必ス之ヲ用キサルヘカラサルコトアリ此場合ニ於テ其社員カ退社シタルトキハ會社ハ當然其氏又ハ氏名ヲ使用スルコトヲ得サルヤ否ヤ舊商法ハ退社員ノ承諾ヲ受クルニ非サレハ當然其氏ヲ使用スルコトヲ得サルモノトシ之ニ反シテ新商法ハ退社員ヨリ使用ヲ止ムヘキコトノ請求ナキ限りハ其氏又ハ氏名ヲ使用スルコトヲ得ルモノト爲ス蓋シ舊商法ノ如ク會社ノ商號ニハ無限責任社員ニ非サル者ノ氏ヲ用ユルコトヲ得スト爲ストキハ此規定タル實ニ其當ヲ得タルモノナリ然レトモ新商法ノ如ク會社ノ商號ニ用ユルコトヲ得サル文字ナク假令社員ニ非サル者ノ氏又ハ氏名ト雖モ會社ノ商號中ニ之ヲ用ユルコトヲ得セシムル以上ハ毫モ此ノ如キ規定ヲ存スルノ必要ナシ或ハ退社員ノ氏又ハ氏名ヲ會社ノ商號中ニ使用セシムルトキハ退社シタルニモ拘ハス尙ホ第三者ヨリ依然社員タルモノト誤信セラル、ノ虞アリ退社員ノ爲メ迷惑尠カラス故ニ其使用ヲ止ム

ヘキコトヲ請求スルコトヲ得セシムト論スル者アリ然レトモ退社シタルトキハ其旨ヲ登記シ尙ホ登記所ヨリハ之ヲ公告スヘク之ニ依リ第三者ヲシテ退社ノ事實ヲ知悉セシムルコトヲ得ヘシ元來商號ノ變更ハ會社ノ爲メ非常ノ不利益ニシテ成ルヘク之ヲ避ケシムルコトヲ要ス退社員一己ノ利害ノミニ重キヲ措キ退社員ヨリ商號ノ變更ヲ強ユルコトヲ得セシムルハ我輩ノ探ラサル所ナリ(新商法第七十二條第百五條第二百三十六條及ヒ舊商法第七十六條但書第百三十七條)

第八章 會社ノ機關

(第一) 會社ノ機關ノ種類

會社ハ商業ヲ營ムノ目的ヲ以テ設立セラレタル社團法人ニシテ自然人ノ如ク天然的存在ヲ有スルモノニ非ス從テ自ラ其意思ヲ決定シ之ヲ表示スルノ機能ヲ有セス故ニ其意思ヲ決定シ之ヲ表示スルノ機關ヲ設ケ自然人ヲ以テ其機關ニ充テ機關ノ爲シタル意思表示ヲシテ會社ニ對シ其效果ヲ生セシムルコトヲ要ス其會社ノ意思ヲ決定表示スルノ點ヨリ此機關ヲ觀察スルトキハ之ヲ會社ノ執行機

關ト謂ヒ其意思表示カ會社ニ對シテ其效果ヲ生スル點ヨリ此機關ヲ觀察スルトキハ之ヲ代表機關ト謂フ

執行機關ハ必スシモ會社ト利害ヲ共ニスルモノニ非ス其結果往々任務ヲ怠タリ會社ノ利益ヲ害スルコトアリ故ニ之ヲ監督スルノ機關ヲ設ケ相牽制セシメ以テ執行機關ニ匪行ナカラシメンコトヲ期セサルヘカラス此機關ヲ監督機關ト謂フ此ノ如ク會社ニハ執行機關アリテ會社ノ意思ヲ決定シ之ヲ表示シ又監督機關アリテ之ヲ監督スト雖モ更ニ此上ニ立チテ最高ノ監督ヲ加ヘ且會社ノ最高意思他ノ機關ヲ羈束スヘキ意思ヲ決定スヘキ機關ヲ必要トス此機關ヲ會社ノ最高機關ト謂フ

更ニ各種ノ會社ニ付キ以上述タル四種ノ機關タルモノヲ舉クレハ左ノ如シ

第一 執行機關

- 一、合名會社、新商法ニ定メタル合資會社及ヒ株式合資會社ノ業務執行社員
- 二、舊商法ニ定メタル合資會社ノ業務擔當社員
- 三、株式會社ノ取締役及ヒ取締役ノ職務ヲ行フ監査役

- 四、株式會社及ヒ株式合資會社ノ監査役
- 五、株式會社及ヒ株式合資會社ノ訴訟代表者

第二 代表機關

- 一、合名會社新商法ニ定メタル合資會社及ヒ株式合資會社ヲ代表スヘキ社員

- 二、舊商法ニ定メタル合資會社ノ業務擔當社員

- 三、株式會社ノ取締役及ヒ取締役ノ職務ヲ行フ監査役

- 四、株式會社及ヒ株式合資會社ノ監査役

- 五、株式會社及ヒ株式合資會社ノ訴訟代表者

第三 監督機關

- 一、合資會社新商法ニ定メタル合資會社及ヒ株式合資會社ノ業務ヲ執行セサル無限責任社員

- 二、新商法ニ定メタル合資會社ノ有限責任社員

- 三、舊商法ニ定メタル合資會社ノ業務擔當ノ任ナキ社員

- 四、株式會社及ヒ株式合資會社ノ監査役
- 五、株式會社及ヒ株式合資會社ノ検査役

第四 最高機關

- 一、合名會社及ヒ新商法ニ定メタル合資會社ノ總社員

- 二、新商法ニ定メタル合資會社及ヒ株式合資會社ノ總無限責任社員

- 三、舊商法ニ定メタル合資會社ノ社員總會

- 四、株式會社及ヒ株式合資會社ノ株主總會

- 五、株式會社及ヒ株式合資會社ノ優先株主總會

以上ハ法律ノ規定ニ依リ會社ノ機關タルモノナリ此外契約ニ依リテ會社ノ機關タルモノ例ハ商業使用人ノ如キ顧問ノ如キモノアリト雖モ此等ハ何レモ商業使用人ニ關スル規定又ハ雇傭契約委任契約ニ關スル規定等ヲ適用スヘク從テ本章ニ特別ノ説明ヲ要セス故ニ本章ニ於テハ更ニ節款項ヲ分チ法律ノ規定ニ依リテ會社ノ機關タルモノノミヲ説明スヘシ

(第二) 會社ノ機關ト會社トノ間ノ法律關係

會社ノ機關ニハ選任ニ依リテ會社ノ機關タルモノアリ(取締役、監査役、検査役ノ如シ)指定ニ依リテ會社ノ機關タルモノアリ(訴訟代表者ノ如シ)選任及ヒ指定ニ依ラスシテ會社ノ機關タルモノアリ此等ノ機關ト會社トノ間ニハ如何ナル法律關係成立スルヤ

右ノ問題ニ對シテ第一ニ現出スヘキハ委託契約ニ因ル法律關係即チ委託關係ナリトスル説是レナリ

然レトモ會社ノ機關タル者ト會社トノ間ニ於テ委託契約ノ成立スルニハ會社ヨリ會社ノ機關タル者ニ對シテ法律行為其他ノ事務ヲ爲スコトヲ委託シ會社ノ機關タル者カ之ヲ承諾スルコトヲ要シ會社ハ法人ニシテ自ラ意思ヲ表示スルコト能ハサルカ故ニ會社ノ法定代理人カ會社ノ爲メニ法律行為其他ノ事務ヲ爲スコトヲ委託スルコトヲ要ス會社ノ法定代理人ニ非サル者カ會社ノ爲メ(會社ノ代理人トシテノ意ニ非ス)法律行為其他ノ事務ヲ爲スコトヲ委託スルコトアルモ其表意者ト相手方トノ間ニ委託契約成立スルハ格別會社ト相手方トノ間ニ何等ノ契約ヲ成立セシムルモノニ非ス果シテ然ラハ會社ノ機關タル者ト會社トノ間ニハ

委託契約成立スルノ余地ナキヤ明瞭ナリ

取締役、監査役、検査役ノ如キハ株主總會ニ於テ選任セラル、モノナルヨリシテ此選任ノ決議ヲ以テ法律行為其他ノ事務ノ委託ト爲シ會社ト取締役、監査役、検査役トノ間ニ委託契約成立スルコトヲ主張スル者アリ然レトモ株主總會ハ會社ヲ代表スルモノニ非サルヲ知ラハ此説ノ採用スルニ足ラサルコト疑ヲ容ルルノ余地ナカルヘシ

既ニ會社ノ機關タル者ト會社トノ間ニ委託契約成立セサルモノトセハ其間ニ如何ナル法律關係成立スルカ獨逸新民法ニ於テハ法人ノ理事ト法人トノ間ノ法律關係ニ付キ委任ニ關スル規定ヲ準用シ我新商法ニ於テハ會社ノ業務執行社員ト會社トノ間ノ法律關係ニ付キ委任ニ關スル規定ヲ準用シタリ是レ皆一方ニ於テハ委託契約成立セサルコトヲ認メ他方ニ於テハ委託關係ニ關スル規定ヲ準用スルノ必要アルヲ認メタルモノニ外ナラス果シテ然ラハ取締役、監査役、検査役、訴訟代表者等ニ付テモ亦委託關係ニ關スル規定ヲ準用スルノ必要アルト共ニ此準用ノ明文ナキ以上ハ之ヲ準用スルコトヲ得ス結局會社ノ機關タル者ト會社トノ間

ノ法律關係ニ關スル新商法ノ規定ハ甚ク不完全ナルモノナリト謂ハサルヘカラス

五二〇

(第三) 代理人ノ行爲ニ對スル會社ノ責任

會社ハ會社ノ代理人ノ爲シタル法律行爲ニ付テハ代理ニ關スル規定ニ從ヒ或ハ權利ヲ得或ハ義務ヲ負ハサルヘカラス是レ當然ニシテ言フヲ俟タサル所ニ屬ス此他會社ノ代理人カ其職務ヲ行フニ付キ他人ニ損害ヲ加ヘタルトキハ會社ハ其損害ヲ賠償スル責ニ任スヘキヤ否ヤ此點ニ付テハ合名會社及ヒ新商法ニ定メタル合資會社ト舊商法ニ定メタル合資會社ト株式會社及ヒ株式合資會社トヲ區別セサルヘカラス即チ

第一 合名會社及ヒ新商法ニ定メタル合資會社ニ付テハ新民法第四十四條第

一項ノ規定ヲ準用スル旨ノ明文アリ故ニ其代理人カ職務ヲ行フニ付キ他人

ニ損害ヲ加ヘタルトキハ會社ハ之ヲ賠償スルノ責ニ任スルモノトス(新商法第六十二條第二項及ヒ第五百五條)

第二 株式會社及ヒ株式合資會社ニ付テハ取締役又ハ會社ヲ代表スヘキ社員

ニ新民法第四十四條第一項ノ規定ヲ準用スル旨ノ明文アルニ止マリ其他ノ代理人ニハ之ヲ準用スル旨ノ明文ナシ故ニ取締役又ハ會社ヲ代表スヘキ社員カ其職務ヲ行フニ付キ他人ニ損害ヲ加ヘタルトキハ會社ハ之ヲ賠償スル責ニ任スルモ此他ノ代理人カ其職務ヲ行フニ付キ他人ニ損害ヲ加ヘタルトキハ會社ハ之ヲ賠償スル責ニ任セサルモノトス(新商法第七十條第二項第二百四十三條及ヒ第六十二條第二項)

第三 舊商法ニ定メタル合資會社ニ付テハ新民法第四十四條第一項ノ規定ヲ準用スル旨ノ明文ナシ故ニ代理人カ其職務ヲ行フニ付キ他人ニ損害ヲ加ヘタルトキハ會社ハ之ヲ賠償スル責ニ任セス

會社ノ目的ノ範圍内ニ在ラサル行爲ニ因リテ他人ニ損害ヲ加ヘタルトキハ其事項ノ議決ヲ贊成シタル者及ヒ之ヲ履行シタル代理人カ連帶シテ其賠償ノ責ニ任セサルヘカラスヤ否ヤ法人ニ付テハ新民法第四十四條第二項ノ規定アリ明文ヲ以テ此問題ヲ決定スト雖モ會社ニ付テハ此ノ如キ規定ナシ

第一節 總社員

第二編會社 第八章會社ノ機關 第一節總社員

五二一

總社員ヲ以テ會社ノ最高機關ト爲スモノハ合名會社及ヒ新商法ニ定メタル合資會社ノ二者ナリ故ニ本節ニ述フル所ハ此二種ノ會社ニ限リ其他ノ會社ニ及ハサルモノトス

抑モ會社ヲ以テ法人ト爲サ、ルトキハ會社ハ即チ社員ニシテ社員ハ即チ會社ナリ故ニ社員ノ意思以外ニ別ニ會社ノ意思ナルモノナシ之ニ反シテ會社ヲ以テ法人ト爲ストキハ會社ト社員トハ全ク別個ノ人ナリ故ニ社員ノ意思ヲ以テ會社ノ意思ト爲スニハ法律ノ規定ニ依ラサルヘカラス既ニ法律ノ規定ニ依リ始テ社員ノ意思ヲ以テ會社ノ意思トスルコトヲ得ルモノトセハ必スシモ社員ノ意思ヲ以テ會社ノ意思ト爲スニ限ラス社員ニ非サル者ノ意思ヲ以テ會社ノ意思ト爲スコトヲ得ヘク結局何人ノ意思ヲ以テ會社ノ意思トスルコト適當ナリヤノ問題ニ歸着ス

社員ハ會社ノ目的トスル事業ヲ營マシメンカ爲メ會社ヲ設立シ又ハ設立後ニ之ニ加入シ出資ヲ爲シタルモノナリ故ニ會社ヲシテ其目的タル事業ヲ成功セシメンコトヲ欲スルノ一念ニ於テハ社員ニ非サル者ニ比シ優ル所アルモ決シテ劣ル

所ナシ加之ナラス社員ハ會社ヨリ財産ノ分配ヲ受ケ會社ノ債務ニ對シテ無限責任ヲ負フ(合資會社ノ有限責任社員ヲ除ク)カ故ニ會社ニ對シテハ最も利害關係ヲ全フスル者ナリ此等ノ理由ハ相俟テ社員ノ意思ヲ以テ會社ノ意思ト爲スノ適當ナルコト及ヒ社員ニ非サル者ノ意思ヲ以テ會社ノ意思ト爲スノ不適當ナルコトヲ明カニスルニ足ル

新商法ハ右ノ理論ヲ採用シ總社員ノ意思ヲ以テ會社ノ意思ト爲シタリ故ニ總社員カ會社ノ爲メニ爲シタル決議ハ會社ノ意思タルノ效力ヲ有ス此會社ノ意思タルノ效力ヲ有スル決議ヲ爲スコトヲ得ルヨリシテ總社員ヲ以テ會社ノ機關ト爲ス

會社ノ機關ハ總社員ノミニ限ラス然レトモ總社員カ會社ノ爲メニ爲シタル決議ハ其他ノ機關ヲ羈束シ若シ總社員カ會社ノ爲メニ爲シタル決議ト其他ノ機關カ會社ノ爲メニ爲シタル決議ト相抵觸スルコトアラハ他ノ機關ノ決議ヲ排シ總社員ノ決議ノミカ會社ノ意思タルノ效力ヲ有ス(第三者ニ對スル關係ニ付テハ格別)是レ總社員ヲ以テ會社ノ機關中特ニ最高機關ト稱スル所以ナリ

總社員カ會社ノ爲メニ爲シタル決議カ會社ノ意思タルノ效力ヲ有スルニハ其總社員ノ意思カ相符合一致スルコトヲ要ス(少クトモ多數ノ社員ノ意思カ相符合一致セサルニモ拘ハラス或一人ノ社員ノ意思又ハ少數ノ社員ノ意思ヲ以テ會社ノ意思ト爲スコトアラハ全一ノ事項ニ關スル會社ノ意思數個ニ岐レ相矛盾抵觸スルヲ免カレサルニ至ルヘシ

第一款 總社員ノ決議ノ要件

總社員カ決議ヲ爲スニハ一定ノ規定ニ從ヒ集會ヲ開キ其集會ニ於テ決議スヘキ事項ヲ議シ其集會ニ於テ表示セラレタル意思ノミニ依リテ可否ヲ決スルコトヲ要スルヤ否ヤ換言スレハ社員總會ヲ招集シ其總會ニ於テ議事及ヒ議決ヲ爲スコトヲ要スルヤ否ヤ是レ頗ル重要ノ問題ナリ
抑モ社員社會ナルモノヲ認メ總社員カ會社ノ爲メニ意思ヲ表示スルニハ其總會ニ於テノミ之ヲ爲スコトヲ得ヘキモノトセハ社員カ會社ノ爲メニ意思ヲ表示スルノ方式ヲ限定シ會社ノ爲メニ意思ヲ表示シタルモノナリヤ否ヤヲ判斷スルニ

容易ナラシム之ニ反シテ社員總會ナルモノヲ認メサルトキハ社員カ會社ノ爲メニ意思ヲ表示スルノ方式一定セス會社ノ爲メニ意思ヲ表示シタルモノナリヤ否ヤヲ判別スルノ困難ヲ生スルコトアルヘシ以上ハ社員總會ヲ認ムルノ便否ニ關スル立法上ノ議論ナリ

更ニ新商法ノ解釋上ヨリ之ヲ觀察センカ舊商法ニ於テハ合資會社ニ付キ社員總會ナルモノヲ認メタルニモ拘ハラス之ヲ削除シタリ加之ナラス合名會社及ヒ合資會社ニ關スル新商法ノ規定中ニハ社員總會ヲ認メタルノ痕跡スラモ發見スルコト能ハス故ニ社員總會ハ新商法ノ認メサル所ナリト謂ハサルヘカラス

或ハ新民法カ社團法人ノ社員總會ヲ認メ且新商法第一條ノ規定アルヨリシテ合名會社及ヒ合資會社ニモ亦社員總會アルコト當然ナリト論スル者アリ我輩モ亦此推論ノ甚タ其當ヲ得タルモノナルヲ信ス然レトモ新商法起草ノ趣旨ハ既ニ本編第二章第四節第五款第一項ニ述ヘタルカ如クナルヲ以テ到底此說ニ依リ新商法ノ規定ヲ解釋スルコトヲ得ス故ニ理論上ノ當否ハ別問題トシ新商法ノ規定ヲ解釋スルニ當タリテハ姑ク社團法人ノ社員總會ニ關スル新民法ノ規定ヲ度外ニ

措カサルヘカラス本卷三十七頁乃至四十一頁

既ニ社員總會ナシトセハ總社員カ決議ヲ爲スニハ敢テ一定ノ方式ニ依リ其意思ヲ表示スルコトヲ要セス集會ヲ開キテ表決ヲ爲スモ可ナリ集會ヲ開カスシテ書面ヲ以テ表決ヲ爲スモ可ナリ電話ヲ以テ表決ヲ爲スモ可ナリ場合ニ依リテハ默示ニテ表決ヲ爲スコトヲ得ヘシ從テ決議ヲ爲スノ要件トシテ一定ノ員數ノ社員カ集會ニ出席スルノ必要ナキハ勿論ナリトス

第二款 決議ニ加ハルコトヲ得ヘキ社員

合名會社及ヒ新商法ニ定メタル合資會社ノ社員タル以上ハ設立ノ當時ヨリ社員タルモノナルト設立後ニ社員ト爲リタルモノナルトヲ問ハス又業務ヲ執行スル權利ヲ有スルト否ト會社ヲ代表スル權限ヲ有スルト否トヲ論セス又會社ノ債權者ニ對スル責任如何ニ拘ハラス等シク總社員ノ決議ニ加ハリ決議スヘキ事項ニ付キ可否ノ意見ヲ表示スルコトヲ得ヘシ即チ會社ノ意思タル效力ヲ有スル意思ヲ決定スル點ニ付テハ各社員皆全等ノ位地ニ立チ其間ニ差異アルコトナシ然レトモ之ニ對シテハ一ノ例外アリ即チ決議スヘキ事項ニ付キ會社ト反對ノ利害關係ヲ有スル社員是レナリ

抑モ社員ハ決議スヘキ事項ニ付テハ皆多少ノ利害關係ヲ有セサルハナシ然レトモ其利害關係ハ概チ會社ノ利害關係ト一致シ決議スヘキ事項ヲ可決スルコトニ因リテ特ニ不利益ヲ受クルカ如キコトナシ假令其決議スヘキ事項ニ付テハ或社員ト會社トノ利害關係相一致セサルコトアルモ其社員ノ意思ニ反シ他ノ社員ノミニテ決議ヲ爲サシムルノ必要ナキヲ通例トス然ルニ時トシテハ會社ト反對ノ利害關係ヲ有スル或社員ノ意思ニ反シ他ノ社員ノミニテ決議ヲ爲サシムルノ必要アルコトアリ即チ或社員カ總社員ノ決議ヲ經スシテ自己ノ爲メニ會社ノ營業部類ニ屬スル商行爲ヲ爲シタル場合ニ其商行爲ヲ以テ會社ノ爲メニ爲シタルモノト看做スコト及ヒ或社員ヲ除名スルコト是レナリ或社員カ自己ノ爲メニ爲シタル商行爲ヲ以テ會社ノ爲メニ爲シタルモノト看做スニモ尙ホ其社員ノ一致アルコトヲ要スルモノトスルトキハ到底其社員ノ一致ヲ得ルコト難ク場合ニ依リテハ其商行爲ヲ以テ會社ノ爲メニ爲シタルモノト看做スコトヲ得サルニ至ルヘシ又或社員ヲ除名スル場合ニモ其社員ノ一致アルコ

第二編 會社 第八章 會社ノ機關 第一節 總社員 第二款 決議ニ加ハルコトヲ得ヘキ社員

トヲ要ストスルトキハ到底其社員ノ一致ヲ得ルコト難ク場合ニ依リテハ其社員ヲ除名スルコトヲ得サルヘシ此ノ如キハ社員カ自己ノ爲メニ爲シタル商行爲ヲ以テ會社ノ爲メニ爲シタルモノト看做シ又ハ或社員ヲ除名スルコトヲ許シタルノ趣旨ニ反スルコト勿論ナルカ故ニ其社員ヲシテ總社員ノ決議ニ參與セシメス他ノ社員ノミヲシテ決議ヲ爲サシム(新商法第六十條第二項第七十條及ヒ第百五條)此他新商法第五十九條及ヒ第六十條第一項ノ場合ニ於テハ他ノ社員ノ承諾トアルカ故ニ或社員ヲ除キ他ノ社員ノミニテ決議ヲ爲スヘク結局前ニ述ヘタル場合ト全一ニ論スヘキモノ、如シト雖モ決シテ然ラス即チ此場合ニ於テハ持分ヲ讓渡シ又ハ商行爲ヲ爲シ若シクハ無限責任社員ト爲ル社員カ他ノ社員ニ對シテ其意思ヲ表示シシ他ノ社員カ之ニ對シテ承諾ノ意思ヲ表示スルモノニシテ二者相俟テ始メテ會社ノ意思タルノ效力ヲ有ス持分ヲ讓渡シ又ハ商行爲ヲ爲シ若シクハ無限責任社員ト爲ル社員ノ意思ニ反シテ他ノ社員カ承諾ノ意思ヲ表示スルコトアルモ其意思表示ノミニテハ何等ノ效力ヲ有スルモノニ非ズ故ニ彼ト此トハ決シテ全一ニ論スヘカラサルナリ(新商法第五十九條第六十條第一項及ヒ第百五

條)

第三款 總社員ノ決議ノ方法

總社員カ會社ノ爲メニ決議ヲ爲スノ方法ニハ二種アリ一ハ全員ノ一致ヲ以テ決議ヲ爲スモノ一ハ過半数決ヲ以テ決議ヲ爲スモノ是レナリ

全員ノ一致ヲ以テ決議ヲ爲スヘキ事項ハ會社ノ爲メ重要ナル事項ニシテ即チ(第一)定款ノ變更(第二)會社ノ目的ノ範圍内ニ在ラサル行爲ヲナスコト(第三)特ニ會社ヲ代表スヘキ社員ヲ定ムルコト(第四)社員ノ退社(第五)會社ノ解散(第六)會社ノ解散後ニ於ケル會社財産ノ處分方法ヲ定ムルコト(第七)會社ノ合併(第八)存立時期ノ滿了其他定款ニ定メタル解散事由ノ發生シタル場合ニ會社ヲ繼續スルコト(第九)無限責任社員カ其持分ノ全部又ハ一部ヲ讓渡スコト(第十)無限責任社員カ自己又ハ第三者ノ爲メニ會社ノ營業ノ部類ニ屬スル商行爲ヲ爲スコト(第十一)無限責任社員カ會社ト全種ノ營業ヲ目的トスル他ノ會社ノ無限責任社員ト爲ルコト是レナリ但第八ノ事項ハ一部ノ社員ノミニテ會社ヲ繼續スル場合ニハ其一部ノ社員ノミニテ決議ヲ爲スコトヲ得ヘク又第九乃至第十一ノ事項ニ付テハ無限責任社員

ハ他ノ社員ニ對シテ自ラ持分ヲ讓渡シ又ハ商行爲ヲ爲シ若シクハ無限責任社員ト爲ルノ意思ヲ表示シ他ノ社員カ之ニ對シテ承諾ノ意思ヲ表示スルコトニ依リ決議ヲ爲スヘキモノトス(新商法第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十九條第七十條第七十四條第七十五條第七十七條第八十五條第九十條第九十二條乃至第九十四條)

總社員ノ過半数決ヲ以テ決議ヲ爲スヘキ事項ハ會社ノ爲メ重要ナル事項ニ非サルモ執行機關ノ決議ニ委ヌヘカラサル事項ニシテ即チ(第一)合名會社ノ支配人ヲ選任シ又ハ之ヲ解任スルコト(第二)無限責任社員カ他ノ社員ノ承諾ヲ得スシテ自己ノ爲メ會社ノ營業ノ部類ニ屬スル商行爲ヲ爲シタル場合ニ之ヲ以テ會社ノ爲メニ爲シタルモノト看做スコト是レナリ但合資會社ノ支配人ヲ選任シ又ハ解任スルコトニ至リテハ無限責任社員ノ決スヘキ所ニシテ總社員ノ決スヘキモノニ非ス(新商法第五十七條第六十條第二項第九十五條及ヒ第九十條)

終リニ臨ミテ一言スヘキハ或社員カ決議ニ加ハルコトヲ得サル場合はレナリ此場合ニ於テハ其社員ヲ除キ他ノ社員ノミニ付キ全員ノ一致アルヤ又過半数ノ社員カ決議スヘキ事項ヲ可トスルヤヲ決定スヘキモノトス

第四款 各社員ノ議決權

全員ノ一致ヲ以テ決議ヲ爲スヘキ場合ニ付テハ各社員ノ議決權ノ數如何ヲ論究スルノ必要ナシ何ントナレハ一人ニテモ其決議スヘキ事項ニ反對スル者アレハ其事項ハ否決セラルヘケレハナリ之ニ反シテ過半数決ヲ以テ決議ヲ爲スヘキ場合ニ付テハ各社員ノ議決權ノ數如何ヲ論究スルノ必要アリ何ントナレハ過半数ナルヤ將タ又半数以下ナルヤハ議決權ノ數ヲ標準トシテ之ヲ計算スハモノナレハナリ

舊商法ニ於テハ各社員ノ出資ノ額ニ應シ其議決權ニ差異ヲ立ツルニトテ禁シタルヲ以テ出資ノ額ヲ標準トシテ議決權ニ差異ヲ立ツルコトヲ得サリシト雖モ新商法ニ於テハ此ノ如キ規定ナキカ故ニ定款ヲ以テ出資ノ額ニ應シテ議決權ニ差異ヲ立ツルコトヲ得ルヤ勿論ナリ(舊商法第八十九條第三百三十七條及ヒ新商法第五十四條第五條)既ニ定款ヲ以テ議決權ニ差異ヲ立ツルコトヲ得ル以上ハ一面員數ニ應スル議決權ヲ與ヘ他面出資ノ價額ニ應スル議決權ヲ與フルコトモ亦妨

然ラハ定款中議決權ニ關スル定ナキトキハ如何此場合ニ於テハ各員ノ議決權ニ差異ナキモノ即チ同等ナルモノト解スルノ外ナカラシ故ニ過半数ナルヤ將タ又半数以下ナルヤハ決議スヘキ事項ヲ可トスル社員ノ員數ト決議ニ加ハルヘキ社員ノ員數トノ比例ニ依リテ定ムヘキモノトス

社員ハ自ラ議決權ヲ行フコトヲ得ルコト勿論ナリ即チ或ハ書面ヲ以テシ或ハ口頭ヲ以テスルコトヲ得ヘク其他意思ヲ表示スルノ方法ハ議決權ヲ行フノ方法タラサルハナシ然ラハ代理人ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得サルカ總會ヲ開ク場合ニ付テスラモ代理人ヲシテ議決權ヲ行ハシムルコトヲ許ス以上ハ總會ヲ開ク場合ル場合ニ付テハ代理人ヲシテ議決權ヲ行ハシムルコトヲ得ヘキコト亦勿論ナルヘシ(新民法第六十五條及ヒ新商法第六十一條第三項)

第五款 總社員ノ決議ヲ以テ定ムルコトヲ得ヘキ事項
 總社員ノ決議ヲ以テ如何ナル事項ヲ定ムルコトヲ得ヘキカ新商法ノ規定ニ依レハ總社員ノ決議ヲ以テ定ムルコトヲ得ヘキ事項左ノ如シ

- 第一 定款ノ變更新商法第五十八條及ヒ第一百五條
- 第二 社員ノ退社新商法第六十九條第二號及ヒ第一百五條
- 第三 社員ノ除名新商法第七十條及ヒ第一百五條
- 第四 社員(有限責任社員ヲ除ク)ノ持分ノ讓渡(新商法第五十九條第一百五條及ヒ第一百十二條)
- 第五 會社ノ解散新商法第七十四條第三號及ヒ第一百五條
- 第六 會社ノ合併新商法第七十七條及ヒ第一百五條
- 第七 會社ノ繼續(新商法第七十五條及ヒ第一百五條)
- 第八 會社ノ解散後ニ於ケル會社財產ノ處分方法(新商法第八十五條第一項及ヒ第一百五條)
- 第九 特ニ會社ヲ代表スヘキ社員ヲ定ムルコト(新商法第六十一條及ヒ第一百四條)
- 第十 會社ノ目的ノ範圍内ニ在ラサル行爲ヲ爲スコト(新商法第五十八條及ヒ第一百五條)

第二編 會社 第八章 會社ノ機關 第一節 總社員 第五款 總社員ノ決議ヲ以テ定ムルコトヲ得ヘキ事項

第十一 社員有限責任社員ヲ除クカ自己又ハ第三者ノ爲メニ會社ノ營業ノ部類ニ屬スル商行爲ヲ爲スコト(新商法第六十條第一項第百五條及ヒ第百十三條)

第十二 社員有限責任社員ヲ除クカ會社ト全種ノ營業ヲ目的トスル他ノ會社ノ無限責任社員ト爲ルコト(新商法第六十條第一項第百五條及ヒ第百十三條)

第十三 社員有限責任社員ヲ除クカ總社員ノ決議ヲ經スシテ自己ノ爲メニ爲シタル商行爲ヲ以テ會社ノ爲メニ爲シタルモノト看做スコト(新商法第六十條第二項第百五條及ヒ第百十三條)

第十四 合名會社ノ支配人ヲ選任シ又ハ之ヲ解任スルコト(新商法第五十七條及ヒ第百五條)

是レナリ然レトモ此他ノ事項ハ如何ナル程度マテ總社員ノ決議ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得ルヤ否ヤ多少ノ疑問ナリトス

第六款 總社員ノ決議ノ效力

總社員ノ決議ハ會社ノ爲メニ其效力ヲ生スルコト勿論ナリト雖モ各社員ニ對シテハ如何ナル效力ヲ生スルヤ此點ニ付テハ新商法中殆ント規定スル所ナク唯タ除名ノ決議ハ除名セラレタル社員ニ其旨ヲ通知スルニ非サレハ之ヲ以テ其社員ニ對抗スルコトヲ得サル旨ノ規定アルノミ(新商法第七十條但書及ヒ第百五條)

第二節 總無限責任社員

新商法ニ定メタル合資會社ニハ有限責任社員ト無限責任社員トアリ事ノ重要ナルモノハ兩者共同ニテ之ヲ決セシムルノ必要アリト雖モ輕易ナル事項ニ至リテハ有限責任社員ノ決議ヲ俟ツノ必要ナシ然レトモ之カ爲メ直チニ其事項ヲ業務執行社員ニ委スヘカラサルモノアリ故ニ新商法ハ總社員ト業務執行社員トノ外ニ總無限責任社員ヲ以テ會社ノ機關ト爲シ或事項ニ付テハ其決議ヲシテ會社ノ決議タルノ效力ヲ有セシム

新商法ニ定メタル株式合資會社ニハ無限責任社員ト株主トアリ而カモ此兩者ハ合資會社ニ於ケル有限責任社員ト無限責任社員トノ如ク兩者共同ニテ最高機關ヲ組織セシムルコトヲ得ス故ニ一方ニ於テハ總無限責任社員ヲシテ最高機關タ

第二編 會社 第八章 會社ノ機關 第一節 總社員 第六款 總社員ノ決議ノ效力 第二節 總無限責任社員

ラシメ他方ニ於テハ株主總會ヲシテ最高機關タラシメ最高機關ノ決議スヘキ事項ハ此二個ノ機關ヲシテ各別ニ之ヲ議決セシメ此二個ノ機關ノ決議カ相一致スル場合ニ限り決議ノ効力ヲ生セシムルノ必要アリ是レ株式合資會社ニ付テモ亦總無限責任社員ヲ以テ最高機關ト爲ス所以ナリ

第一款 總無限責任社員ノ決議ノ要件

總無限責任社員カ決議ヲ爲ス場合ニ於テモ亦總社員カ決議ヲ爲ス場合ト全シク總會ヲ開クコトヲ要セス從テ決議ニ加ハルコトヲ得ヘキ無限責任社員カ如何ナル方法ヲ以テ可否ノ意見ヲ表示スルモ妨ケナキモノトス尙ホ此事ニ付テハ前節第一款ヲ參觀スヘシ

第二款

決議ニ加ハルコトヲ得ヘキ無限責任社員
合資會社ノ總無限責任社員ノ決議ヲ以テ定ムヘキ事項ニ付テハ各無限責任社員皆其決議ニ加ハルコトヲ得ヘシ即チ無限責任社員ニシテ決議ニ加ハルコトヲ得サル場合ナシトス
之ニ反シテ株式合資會社ノ總無限責任社員ノ決議ヲ以テ定ムヘキ事項ニ付テハ

各無限責任社員皆其決議ニ加ハルコトヲ得ルヤ否ヤ總無限責任社員ノ決議ヲ以テ定ムヘキ事項ハ新商法第二百四十四條ノ事項ニ限ラサルモノト仮定スハ多少ノ疑問ナリ而シテ此疑問ハ左ノ二個ノ事項ヲ決議スヘキ場合ニ於テ最モ之ヲ決定スルノ必要ヲ見ル

第一、或無限責任社員カ總無限責任社員及ヒ株主總會ノ決議ヲ經スシテ自己ノ爲メニ會社ノ營業部類ニ屬スル商行爲ヲ爲シタル場合ニ其商行爲ヲ以テ會社ノ爲メニ爲シタルモノト看做スコト

第二、或無限責任社員ヲ除名スルコト
然レトモ新商法中ニハ不幸ニシテ右ノ疑問ヲ決定スルニ足ルヘキ規定ヲ存セス是レ我等ノ遺憾トスル所ナリ

第三款 總無限責任社員ノ決議ノ方法

合資會社ノ無限責任社員カ第一有限責任社員ノ持分ノ讓渡ヲ承諾シ(第二有限責任社員ノ全員カ退社シタル場合ニ合名會社トシテ會社ヲ繼續スルニハ其全員ノ一致ヲ以テ決議ヲ爲スコトヲ要シ之ニ反シテ(第三支配人ヲ選任シ又ハ之ヲ解任

第二編 會社 第八章 會社ノ機關 第二節 總無限責任社員 第一款 總無限責任社員ノ決議ノ要件 第二款 決議ニ加ハルコトヲ得ヘキ無限責任社員 第三款 總無限責任社員ノ決議ノ方法 五三七

スルニハ過半数決ヲ以テ決議ヲ爲スコトヲ要スルモノトス(新商法第百十條第百十二條及ヒ第百十八條第一項)

又株式合資會社ノ無限責任社員カ合資會社ニ於テ總社員ノ全意ヲ要スル事項ヲ決議スルニハ全員ノ一致ヲ以テスルコトヲ要ス然レトモ合資會社ニ於テ總社員ノ全意ヲ要セサル事項ヲ決議スルニハ全員ノ一致アルコトヲ要スルヤ否ヤ新商法中何等ノ規定ナシ結局新商法第二百四十四條ノ規定ハ此點ニ於テモ甚ク不完全ナリト謂ハサルヘカラス

第四款 各無限責任社員ノ議決權

總無限責任社員ノ一致ヲ以テ決議ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ各無限責任社員ノ議決權ノ數ヲ説明スルノ必要ナシト雖モ過半数決ヲ以テ決議ヲ爲スヘキ場合ニ付テハ之ヲ説明スルノ必要アリ蓋シ新商法ハ定款ヲ以テ會社ノ内部ノ關係ヲ定ムルコトヲ許シタルカ故ニ各無限責任社員ノ議決權ノ數モ亦之ヲ定ムルコトヲ得ヘク若シ之ヲ定メタルトキハ定款ニ依ルヘシト雖モ定款ニ何等ノ定ナキトキハ全等ナルモノトスルノ外ナシ(新商法第百五條第二百三十六條及ヒ第五十四條)

無限責任社員カ議決權ヲ行フ方法ニ付テハ新商法中取テ制限スル所ナシ故ニ自ラ之ヲ行ヒ或ハ代理人ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得ヘク又書面口頭其他意思ヲ表示スル爲メ法律ノ許ス手段ハ一切之ヲ用ユルコトヲ得ヘシ

第五款 總無限責任社員ノ決議ヲ以テ定ムルコトヲ得ヘキ事項

新商法ノ規定ニ依レハ合資會社ノ總無限責任社員ノ決議ヲ以テ定ムルコトヲ得ヘキ事項ハ左ノ如シ

- 第一 有限責任社員ノ持分ノ讓渡ヲ認可スルコト(新商法第百十二條)
 - 第二 有限責任社員ノ全員カ退社シタル場合ニ合資會社トシテ會社ヲ繼續スルコト(新商法第百十八條第一項但書)
 - 第三 支配人ヲ選任シ又ハ解任スルコト(新商法第百十條)
- 之ニ反シテ株式合資會社ノ總無限責任社員ノ決議ヲ以テ定ムルコトヲ得ヘキ事項ニ付テハ新商法ノ規定甚ク不完全ナリ即チ新商法ハ合資會社ニ於テ總社員ノ全意ヲ要スル事項新商法ニ所謂全意ナル語ハ其意味極メテ狹隘ニシテ第五十八

第二編 會社 第八章 會社ノ機關 第二節 總無限責任社員 第四款 總無限責任社員ノ議決權 第五款 總無限責任社員ノ決議ヲ以テ定ムルコトヲ得ヘキ事項

條第六十一條第六十九條第二號第七十四條第三號第七十五條及ヒ第百十四條等ニ之ヲ用ユルニ過キスニ付テノミ株主總會ノ決議ノ外總無限責任社員ノ決議(總員ノ一致ヲ以テ決スルコトヲ要ス)アルコトヲ要スルモノト爲スモ其他ノ事項ニ付テハ何等ノ規定ナシ從テ第二百三十六條ノ場合殊ニ株式會社ニ關スル規定ヲ準用スル場合ニハ適用上諸種ノ困難ヲ生スルヲ免カレサルヘシ(新商法第二百四十四條)

第六款 總無限責任社員ノ決議ノ效力

合資會社ノ總無限責任社員ノ決議ハ其決議ノミニテ會社ノ爲メニ效力ヲ生スト雖モ株式合資會社ノ無限責任社員ノ決議ハ其決議ノミニテ如何ナル效力ヲ生スルヤ合資會社ニ於テ總社員ノ全意ヲ要スル事項ニ付テハ總無限責任社員ノ決議ト株主總會ノ決議ト相俟テ其效力ヲ生スル旨ノ規定アリ從テ其一方ノミニテハ會社ノ爲メ何等ノ效力ナキモノト解セラル、モ其他ノ事項ニ付テハ何等ノ規定ナシ(新商法第二百四十四條)

第三節 社員總會

社員總會ハ舊商法ニ定メタル合資會社ノ最高機關ニシテ社員ヲ以テ組織シタルモノナリ然レトモ常設機關ニ非スシテ臨時設置セラル、モノナリ是レ他ノ機關殊ニ業務擔當社員ト異ナル所ナリ

社員總會ハ社員ヲ以テ組織セラル然レトモ社員ノ單純ナル會合ニ非ス彼適法ナル招集ニ依ラスシテ社員カ相會合シタルモノ、如キハ之ヲ社員總會ト謂フコトヲ得ス從テ其決定スル所ハ法律上何等ノ效力ヲ有スルモノニ非ス

第一款 社員總會ノ種類

第一項 通常總會及ヒ臨時總會

通常總會ト臨時總會トヲ區別スルノ標準ニ付テハ招集ノ時期ニ依ルヘシトスル說ト決議スヘキ事項ニ依ルヘシトスル說トアリ招集ノ時期ニ依ルヘシトスル說ハ事業年度ノ終ハリタル後直チニ招集スルモノヲ通常總會ト爲シ其他ノモノハ凡ハテ臨時總會ト爲シ之ニ反シテ決議スヘキ事項ニ依ルヘシトスル說ハ舊商法第百五十條ノ事項ヲ決議スル爲メニ招集スルモノヲ通常總會ト爲シ其他ノモノヲ臨時總會ト爲ス若シ前說ニ從ハ、通常總會ニ於テ舊商法第百五十條ニ規定セ

第二編 會社 第八章 會社ノ機關 第二節 總無限責任社員 第六款 總無限責任社員ノ決議ノ效力 第三節 社員總會 第一款 社員總會ノ種類

サル事項ヲ決議スルモ妨ケナカルヘク後説ニ從ハ、其他ノ事項ヲ決議スルコトヲ得サルヘシ

右二説ノ當否ニ付テハ舊商法ノ解釋上一問題ナリト雖モ舊商法第百五十條カ通常總會ニ於テ同條ニ掲ケタル事項ヲ決議スル方法ヲ定メ第百五十一條カ臨時總會ニ於テ決議ヲ爲スノ方法ヲ定メタルニ止マリ通常總會ニ於テ舊商法第百五十條ニ掲ケサル事項ヲ決議スルノ方法ヲ定メサルヨリシテ之ヲ見レハ通常總會ニ於テハ同條ニ掲ケサル事項ヲ決議スルコトヲ得サルモノト爲シ即チ後説ヲ採用スルコト正當ナルヘシ

第二項 第一回ノ總會及ヒ第二回ノ總會

此區別ハ總社員ノ過半数又ハ四分ノ三以上ノ多数ヲ以テ決スヘキ事項ニ付テノミ存スル所ナリ即チ此事項ヲ決議スヘキ場合ニ右員數ノ社員カ出席セサルトキハ出席シタル社員ノ多数ヲ以テ假決議ヲ爲スコトヲ得ヘク此假決議ヲ爲シタル場合ニハ更ニ第二回ノ總會ヲ召集スルコトヲ要シ此第二回ノ總會ニ於テハ出席シタル社員ノ多数決ヲ以テ假決議ノ認否ヲ決ス(舊商法第百五十三條)此場合ニ於

テハ後ニ召集シタル總會ニ對シ假決議ヲ爲シタル總會ヲ第一回ノ總會ト稱ス

第二款 社員總會ノ召集

社員總會ハ業務擔當社員ニ於テ之ヲ召集スヘキモノトス業務相當社員ニ非サル社員ハ假令無限責任社員ト雖モ自ラ社員總會ヲ召集スルコトヲ得サルモノトス(舊商法第百四十八條)

舊商法第百四十八條ニ依レハ業務擔當社員ハ每年少クトモ一回通常總會ヲ召集スルコトヲ要シ又全第百五十條ニ依レハ事業年度ノ終ハリタル後直ナニ通常總會ヲ開クコトヲ要ス故ニ若シ一曆年ヲ以テ一事業年度ト爲ス場合ニハ毎年一回即チ其事業年度ヲ終ハリタル後遲滯ナク通常總會ヲ召集スルコトヲ要シ一曆年以下ヲ以テ一事業年度ト爲ス場合ニハ毎年一回以上即チ其事業年度ヲ終ハリタル毎ニ遲滯ナク通常總會ヲ召集スルコトヲ要ス之ニ反シテ一曆年以上ヲ以テ一事業年度ト爲ス場合ニハ每事業年度ノ終ハリニ通常總會ヲ召集スルヲ以テ足レリトセス每年少クトモ一回之ヲ召集スルコトヲ要スルモノトス

臨時總會ヲ召集スヘキ時期及ヒ回数ニ付テハ法律上制限ナシ故ニ業務擔當社員

カ臨時總會ヲ招集スルノ必要アリト認メタルトキハ何時ニテモ亦何回ニテモ之ヲ招集スルコトヲ得ヘク招集ノ必要ナシトスルトキハ之ヲ招集スルコトヲ要セス然レトモ總社員四分ノ一以上ノ申立アルトキハ業務擔當社員カ自ラ臨時總會ヲ招集スルノ必要アリト認ムルト否トヲ問ハス臨時總會ヲ招集スルコトヲ要シ(舊商法第四百十八條)又假決議ヲ爲シタル場合ニ於テハ其假決議ノ認否ヲ決スル爲メ更ニ第二回ノ臨時總會ヲ招集スルコトヲ要ス(舊商法第五百十二條)業務擔當社員カ總會ヲ招集スルニハ會日ヨリ少クトモ七日前ニ各社員ニ會議ノ目的ヲ通知シ且提出スヘキ書類ヲ送付スルコトヲ要ス(舊商法第四百十九條)此他假決議ヲ爲シタル爲メ第二回ノ總會ヲ招集スル場合ニハ假決議ヲ通知シ若シ第二回ノ總會ニ於テ出席社員ノ多數決ヲ以テ假決議ヲ認メタルトキハ之ヲ有效ト爲スヘキ旨ヲ明告スルコトヲ要ス(舊商法第五百十二條)

第三款 社員總會ノ決議

第一項 社員總會ノ決議ノ要件

通常總會ニ於テハ出席シタル社員ノ員數如何ヲ問ハス議決ヲ爲スコトヲ得ヘク

即チ出席員數ノ定メナシ之ニ反シテ臨時總會ニ於テハ一定ノ員數ノ社員出席スルニ非サレハ決議ヲ爲スコトヲ得ス即チ出席員數ノ定アルヲ通例トス(但一旦假決議ヲ爲シ更ニ第二回ノ總會ヲ開キテ假決議ノ認否ヲ決スル場合ニハ第一回ノ總會及ヒ第二回ノ總會トモニ敢テ一定ノ員數ノ社員ノ出席スルコトヲ要セス)即チ左ノ事項ヲ決スルニハ總社員ノ四分ノ三以上出席スルコトヲ要シ其他ノ事項ヲ決スルニハ總社員ノ過半數カ出席スルコトヲ要ス(舊商法第四百十一條)第四百十條第四百十五條第八十三條第九十四條第九十七條第九十八條第四百四條第二百零二條第二百零一號第二號但書及ヒ第二百零二十六條第三號)

- 一 會社契約ヲ變更スル場合
- 二 出資ヲ爲スコト能ハサル社員カ之ニ代エテ他ノ出資ヲ爲ス場合
- 三 社員カ其出資又ハ會社財産中ノ持分ヲ減スル場合
- 四 社員カ第三者ヲ入社セシムル場合
- 五 無限責任社員カ第三者ヲシテ己レノ地位ニ代ハラシムル場合
- 六 無限責任社員又ハ業務擔當社員カ會社ノ營業ノ部類ニ屬スル商行爲ヲ爲